

# 特別支援教育 実践事例集

三原市教育委員会

## — はじめに —

三原市内の先生方から、「児童の実態に合った学習をするには、どのような指導の工夫をすればよいでしょうか。」「他校ではどのような実践をしているのでしょうか。」など、日々の実践を重ねていく中で生まれる様々な声を聞くことがあります。

また、初めて特別支援学級を担当された先生から、「生活単元学習の参考になる指導はありませんか。」「自立活動の実践事例にはどのようなものがありますか。」「児童生徒が意欲的に学習できる教材・教具の好事例はありませんか。」などの助言を求められることがあります。

一方で、校内研修等で各校を訪問した際には、児童・生徒の実態に応じた工夫された優れた実践もたくさん目にします。

三原市教育委員会としては、先生方の思いに応えるために、実践をまとめ、特別支援教育の充実を図っていくことが必要であると考えました。

そこで、三原市内の特別支援教育に関わる先生方の実践を、「特別支援教育実践事例集」にまとめることといたしました。

作成に当たっては、三原市内の各校の先生方の実践について情報提供いただき、障害種別で指導方法を整理しました。

また、広島県立三原特別支援学校から、参考となる授業、教材・教具の紹介をいただき、三原市の特別支援教育の専門性の向上にご協力いただきました。

先生方の工夫された実践を発信することを通して、初めて特別支援学級の担任になられた先生に見通しを持っていただくとともに、先生方の日々の授業実践の手助けとなるように内容を構成しています。

授業を考えるときのヒントとしてご活用いただき、特別支援学級の授業内容の充実や改善に役立てていただけると幸いです。

三原市教育委員会  
学校教育課  
課長 山垣内 理恵

# — 目次 —

* はじめに	
* 目次	・・・ 1
1 小学校（知的障害）	
(1) 各教科等を合わせた指導	・・・ 3
(2) 各教科	・・・ 10
(3) 教材・教具	・・・ 15
2 中学校（知的障害）	
(1) 各教科等を合わせた指導	・・・ 25
(2) 各教科	・・・ 30
(3) 自立活動	・・・ 33
(4) 教材・教具	・・・ 34
3 三原特別支援学校（小・中学部）	
(1) 各教科等を合わせた指導	・・・ 37
(2) 自立活動	・・・ 39
(3) 教材・教具	・・・ 41
4 小学校（自閉症・情緒障害）	
(1) 各教科	・・・ 59
(2) 自立活動	・・・ 70
(3) 教材・教具	・・・ 80
5 中学校（自閉症・情緒障害）	
(1) 各教科	・・・ 87
(2) 自立活動	・・・ 91
(3) 教材・教具	・・・ 95
6 小学校（難聴）	・・・ 99
7 小・中学校（肢体不自由）	・・・ 101
8 通級指導教室	・・・ 104
9 学習指導案集	・・・ 123
* 作成協力者一覧	・・・ 181
* おわりに	



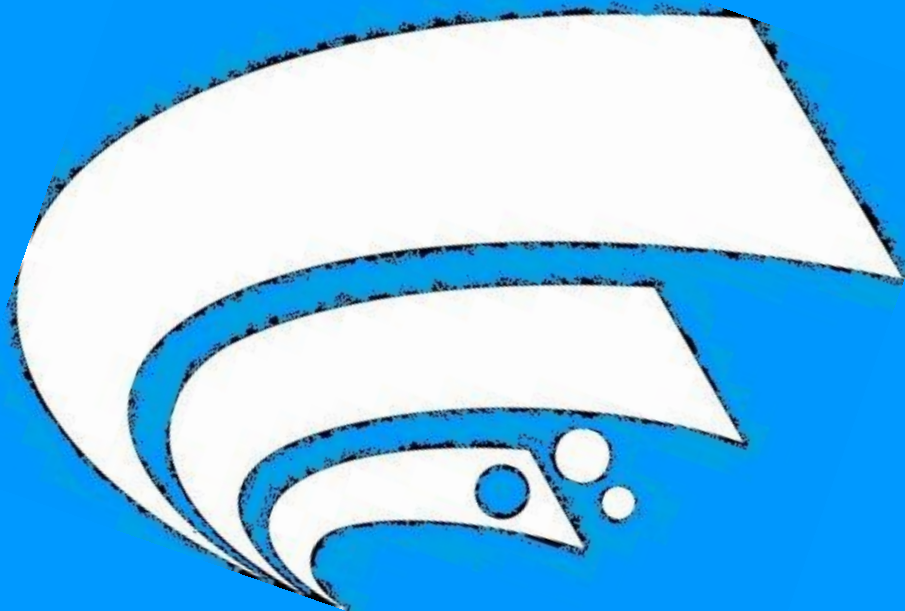


小学校(知的障害)

各教科等を合わせた指導

各教科

教材・教具





## 授業シート（各教科等を合わせた指導）

校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	4・5年
領 域	生活単元学習
合わせた教科等	国語科・図画工作科・生活科
単 元 名	カレンダーをつくろう

### 単元のねらい

毎月のカレンダーづくりを通して、季節・曜日・日付の感覚を身につけるとともに、自分の役割を果たし、責任をもたせて作品を完成させることで、協調性を養い達成感を味わわせることができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

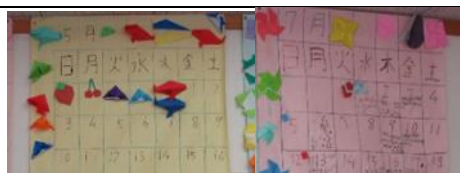
- 役割分担を明確にして、責任感と達成感を味わわせる。
- 折り紙の折り方を児童相互に教え合うことにより、自己肯定感や信頼関係を高める。

#### 【 季節感のある作品作り 】



季節に合った折り紙を貼り付け、季節感を出すことによって、時季にあった作品を完成させた。

#### 【 季節ごとの担当 】



季節ごとに役割分担をし、担当の季節について責任をもってやり遂げるように課題を設定した。

### 児童・生徒の変容

一人一人に役割を与えたことにより、責任感をもって活動し、丁寧に作業ができるようになった。

飾りつけの担当児童は、友だちに折り紙の折り方を教えることにより、自己肯定感が増し、活動を重ねるごとに、自信をもって教える姿が見られるようになった。

毎月、季節に合った飾りを折り紙で作る、配置を考えながら貼ることにより、巧緻性や空間認識が高まったり、季節感が養われたりした。

## 授業シート（各教科等を合わせた指導）

校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	1年・3年・4年・5年・6年
領域	生活単元学習
合わせた教科等	国語科・算数科・図画工作科
単元名	手作りおもちゃを作ろう ～輪投げ・まと当てゲームで楽しく遊ぼう～



### 単元のねらい

「手作りおもちゃを作ろう」の活動を通して、それぞれが見通しをもち、主体的に活動することや言語によるコミュニケーション力を高めていくことができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

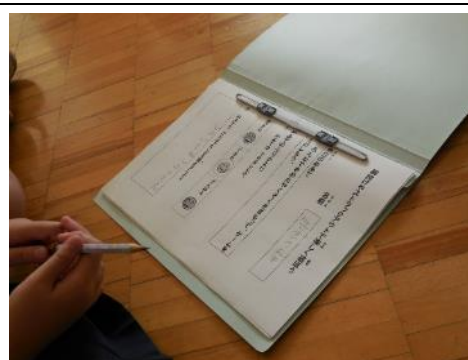
個々の児童に役割分担を持たせることで主体的に行動をさせた。活動の中で適切な言動や振り返りカードを使って交流することを通して友達とコミュニケーションの場を設定した。

#### 【自分の役割を持つ】



個々の実態に応じた役割を担任が考えた。その後、繰り返しグループで練習させることで、ゲームの流れの中で自分のやるべきことを理解し、見通しを持って取り組むことができた。

#### 【コミュニケーション力】



授業の終わりに、今日のめあてと自分の役割について振り返りカードの記入を行った。その後、頑張ったことを発表し、お互いの頑張りを聞き合ったり次への意欲につなげたりすることができた。

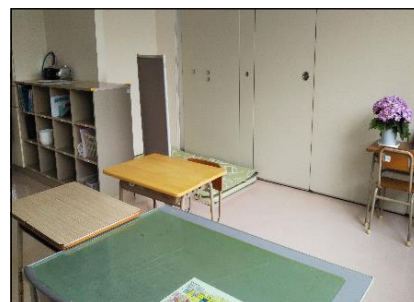
### 児童・生徒の変容

手作りおもちゃを作る活動では、グループの中で協力をしながらおもちゃを作ることができた。できたおもちゃは、実際にグループの中で行ってみて、うまくできるようになるための方法を考えることができた。

各教科との関連や児童が興味を持つ内容を考えながら、主体的・対話的活動ができるように今後も取り組んでいきたい。

## 授業シート（各教科等を合わせた指導）

校種（種別）	小学校(知的障害)
対象学年	6年
領域	生活単元学習
合わせた教科等	国語科・算数科・生活科・自立活動
単元名	自分の思いをとどけよう



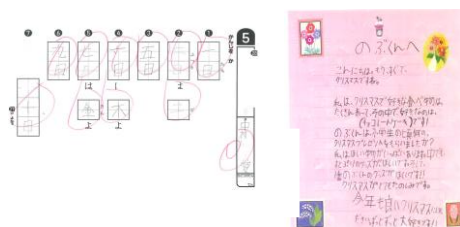
### 単元のねらい

自分の好きなことや好きな人を手掛かりに、「手紙を届ける」という活動を通して、学習した文字等を使って表現することができる。また、見通しを持ち、計画的に活動を進める経験をすることができる。これらの活動を通して、他者とのコミュニケーションをはかることができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

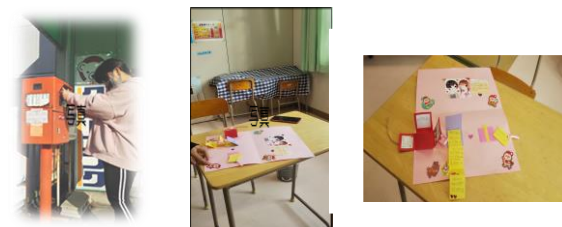
大好きな声優さんへ「自分の思いを届ける」という活動を通して、自分の気持ちの伝え方やその方法について考え、表現させた。相手に気持ちを届けたいという学習の必要性から、集中して意欲的に取り組むことができた。手紙を郵送した後、送付先から「声優さんに確かに届ける」という返事を頂き、児童が、感動と達成感を味わうことができた。この活動の経験が、次への「カードづくり」の活動意欲に繋がり、継続した取組となった。他者とのコミュニケーションも大切に指導することができた。

#### 【 漢字学習・文の構成 】



自分の気持ちを表現するために、学習した漢字を活用したり、手紙に必要な漢字を尋ねて練習し使ったりすることができた。また、文の構成を考えたりしながら「手紙」に気持ちを表現した。

#### 【コミュニケーションの能力】



ネットを活用した写真等の正しい扱い方を確認する為に、児童は送付先に電話で尋ねることができた。その際、電話の対応の仕方を学び、相手の話に応じて丁寧な言葉で対応をすることができた。

### 児童・生徒の変容

「大好きなアニメの声優に手紙を届けたい」という強い願いから活動が始まった。児童にとり必要性のある教材であったため、目的意識も明確で意欲的に取り組むことができた。文字を書くことに抵抗を持っていたが、学習した文字や表現に必要な漢字を教えてほしいと伝えるなかで、丁寧な文字で手紙に表現できるようになった。活動を通して、校内の先生や地域の人をはじめ、知らない声優事務所の人など、多くの人とコミュニケーションをとることもできた。この活動を通して、次への活動の意欲、自信へと繋がった。



## 授業シート（各教科等を合わせた指導）

校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	1年・2年・4年・5年
領域	生活単元学習
合わせた教科等	国語科・生活科・自立活動
単元名	ひまわり2号車（秋号）を作ろう！



### 単元のねらい

友達と協力して季節感やくらしに役立つ知識を活用した作品作りをすることができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

秋の行事・くらし・秋の風物（動植物・昆虫・食べ物）を調べ、自分のお気に入りの絵で表し、段ボールで出来た新幹線に貼り付けた。友達のお気に入りの部分の発表を聞いて、感想を言うことができるようにした。体験活動を進めるとともに、他者とコミュニケーションをとることを大切に指導した。

#### 【体験活動の充実と交流】



秋的要素をふんだんに取り入れて、新幹線ひまわり2号車の外観をみんなで協力して作成する構成とした。友達のお気に入りの部分の発表を聞いて、感想を言うことができるようにした。

#### 【コミュニケーション活動】



小集団でのゲーム的活動〔コグトレ棒の受け渡し（バランス感覚の養成・友達との対応）〕を設定することで、友だちを大切にし、協力し合う経験を積んだり、コミュニケーションスキルを獲得・向上したりすることを目指した。（引用文献「不器用な子どもたちへの認知トレーニング」編著 宮口幸治・宮口英樹）

### 児童・生徒の変容

段ボール新幹線ひまわり号1号車作りの続編として、連結用の2号車（秋号）作りを通して、季節への理解を深めた。また、友達のお気に入りの部分の発表を聞いて、感想を言うことを経験させることで、児童のコミュニケーション力を向上させる一助となった。

## 授業シート（各教科等を合わせた指導）

校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	1年・3年・5年
領域	生活単元学習
合わせた教科等	国語科・図画工作科・自立活動
単元名	おもちゃあそび大会をしよう

### 単元のねらい

おもちゃを作ったり、おもちゃで遊んだりする活動を通して、自分で工夫して、友達と関わりながら遊ぶ経験を増やすことができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

- 友達と一緒に準備や片付けをすることができる。
- 指導者や友達の励ましや補助を受けながら、おもちゃを動かし、得点の位置（児童が話し合ったルール）まで移動させることができる。
- 大会での自分の役割が分かり、目印や指導者の言葉掛けを手掛かりに、自分の役割に取り組むことができる。

#### 【学習のねらいやルールの確認】



司会担当の児童が、学習のねらいやおもちゃの遊び方のルールの確認を行い、全員が大会に向けて意欲を高めた。

#### 【役割分担】



風で動く車の止まった位置が得点となる。司会担当の児童が、得点表に記録するなど役割分担をした。

### 児童・生徒の変容

おもちゃ作りの学習では、輪ゴムと乾電池を使って、かめの形のおもちゃを作ると、児童は繰り返しゴムの力で動く様子を楽しむことができた。この時点ではまだおもちゃが動くことのみで夢中になっていた。

「おもちゃあそび大会」では、自分達で話し合ったルールをもとに、より遠くへおもちゃを動かそうとしたり、移動させたい地点まで動かそうとしたりするなどおもちゃの操作に注意を向けることができるようになった。

また、「大会」を通して進行係の児童がみんなの様子を見ながら、司会進行したり、記録係の子が黒板に記録をしたりするなど役割を意識し友達との関わりを増やしながらかつ活動することができた。

## 授業シート（各教科等を合わせた指導）

校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	1～6年
教科	生活単元学習
単元	ワクワクランドで遊ぼう



### 授業のねらい

- ひまわり学級の友達に手作りおもちゃで楽しく遊んでもらうことができる。
- ひまわり学級の友達に自分が作ったおもちゃについて分かりやすく説明することができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

- ・授業の流れを提示し、学習の見通しをもたせる。
- ・自分が作ったおもちゃについて複数回、説明する機会を作る。
- ・発表の原稿を一緒に考えたり、事前に練習したりさせておく。

#### 【クレーンゲーム】



- ・クレーンゲームの遊び方について説明している場面である。参加してくれたひまわり学級の子供達が喜んで遊んでいた。

#### 【ビー玉コースター】



- ・ビー玉コースターの遊び方について紹介し、ひまわり学級の子が遊んでいる場面である。ループでビー玉が1回転するのが面白くて何度もビー玉を転がしていた。

### 児童・生徒の変容

- ・子供たちは、最初は、自分のおもちゃの説明がほとんどできなかったが、練習を繰り返すことで、段々と遊びの説明が上手になった。
- ・ワクワクランド当日は5回、ひまわり学級の子に説明する機会を設けた。そうすることでワクワクランドの最中に、段々と自信をもって発表することができるようになった。
- ・ひまわり学級の子どもたちが、あおぞら学級の子どもたちの手作りおもちゃで喜んで遊んでいた。
- ・ワクワクランドの終わりの挨拶で、あおぞら学級の子供達全員が、自分の感想を進んで発表することができた。
- ・ワクワクランドの準備、後片付け、掃除を全員が意欲的に取り組むことができた。



## 授業シート（各教科等を合わせた指導）

校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	1・2・3年
領域	生活単元学習
合わせた教科等	生活科，算数科，自立活動
単元名	買い物ごっこをしよう



### 授業のねらい

買い物ごっこを通して、金銭の取り扱いや買い物のやり取りを知ることができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

授業のポイントは、「持っているお金の範囲で買い物する」こと及び「買い物の金額やおつりを計算する」ことである。異学年の活動なので、1年生は、持っているお金で何が買えるのかを考える、2・3年生は、買い物の代金やおつりを筆算で計算してお金の出し方を考える場面を設定したことが主な工夫点である。

【何を買うのか相談している場面】



1年生の買い物は2点で、持っているお金の範囲で自分たちが買いたいものを仲よく相談して決めることができた。

【お金の計算をしている場面】



算数科の既習事項を生かして、買い物の合計金額を計算したり、おつりの計算をしたりすることができた。また、1年生は、支払いをする時に上学年がお金の出し方を教えてあげることができた。

### 児童・生徒の変容

買い物の商品を実物のものにするによって、買い物ごっこへの意欲・関心をより高めることができた。1年生は、お金の計算ができにくいので、2・3年生が算数科の既習事項である筆算を使って買い物の代金を計算するとともに、これまでの経験を生かして、お金のやり取り、お金の組み合わせ等、自信を持って1年生に教えてあげることができた。

## 授業シート（各教科）

校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	5年
教科	算数科
単元	おおきさくらべ



### 授業のねらい

5つのペットボトルに入る水のかさを、1 L マスを使って比べる活動を通して、かさの大きさを数値で比べることができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

- 5つの容器に入っている水を操作しながら量を比べる。
- 学習意欲を持たせるために、似た容器を準備したり、水に色を付けたりする。
- かさが目で見て確認できるように、数値が書け、比較しやすいワークシートを用意しておく。

#### 【ワークシートの工夫】



付箋のりを使って、貼ったりはがしたりできるようにし、自由に予想が立てられるようにした。また、数値で比較できるように、数値を記入できるようにした。

#### 【板書の工夫】



どの容器に入る水のかさが多いのかが目で見て分かるように順番、実物の写真、数値などを分かりやすく掲示した。

### 児童・生徒の変容

授業を通して、児童が「かさ」について興味を持つようになり、生活の中で多い・少ないを意識する発言が見られるようになった。また、授業後、スイートポテトやオレンジゼリーを作る学習において、計量カップを用いて液体の量を正確に測ることができた。

## 授業シート（各教科）

校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	2・3・5・6年
教科	国語科
単元	ことばの楽しさを感じよう

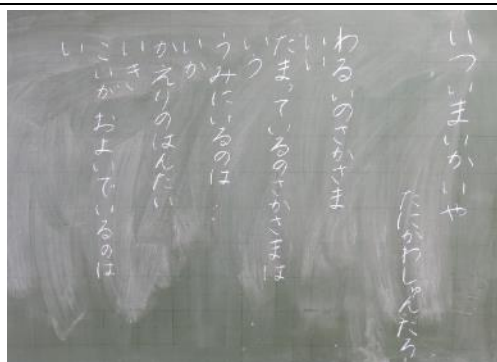
### 授業のねらい

ことば遊びを楽しむことを通して、ことばの種類や音への意識を広げ、高めることができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

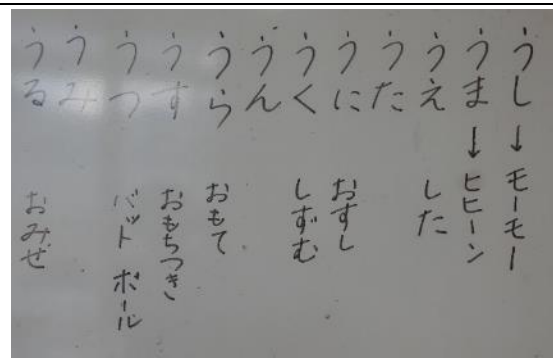
授業のポイントは「楽しみながら読む」ことである。楽しさを実感させるために、クイズ形式で教材文を提示した。また、ことばへの意識をさらに広げるために、自分で詩を作る活動を設定した。

#### 【教材文提示の場面】



詩の構成やきまりに気づき、興味をもつことができるよう、教材文を区切りながら提示した。また、続きを予想させることで、きまりとその効果を意識させた。

#### 【言葉集めの場面】



詩を作る場面でのヒントになるよう、全員でことば集めを行った。児童から出されたことばを板書する際には、実態に合わせて詩を作る時に実態に合わせて利用できるよう、関連することばを併せて板書した。

### 児童・生徒の変容

詩を読んだり、ことば集めをしたりすることで、ことばの種類や音の関係性を楽しむことができた。

紹介した作品以外の詩にも興味をもち、調べて紹介し合う姿が見られた。本時の続きを作ったり、同じきまりで違う詩を作ったりすることができた。

## 授業シート（各教科）

校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	3年
教科	算数科
単元	長い長さをはかって表そう

### 授業のねらい

巻尺を使うとまるいものの長さを測定することができ、その使い方を理解し、測定することができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

「まるいものの長さを予想してはかってみよう！」と学習意欲を高める課題設定をした。子ども達から身近にあるもので測ってみたいものを発表させ、長さの見当をつけてから実際の長さを測る活動に取り組んだ。

#### 【共同での測定】



音楽科で演奏したことのある大太鼓のまわりの長さを2人で協力しながら測定した。

#### 【個別による測定】



体育科で使用したことのあるフラフープや教室の壁掛けの丸い時計、小太鼓など自分が測定したいものを各自で測定した。

### 児童・生徒の変容

丸い物を測ることの難しさはあったが、2人で協力して測り、自分が測りたい物をガムテープでとめるなど意欲的に取り組むことができた。

丸い物の長さは、実際に測ると見当をつけた長さよりも長いことに驚いていた。目盛りの読み方が難しかったが、測定物を増やすことで徐々に慣れ、読み取ることができるようになった。

この単元での学習がきっかけとなり、生活単元学習など他の教科・領域でスムーズに学習を進めることができた。



## 授業シート（各教科）

校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	3年・6年
教科	生活科
単元	生き物 Book を作ろう！



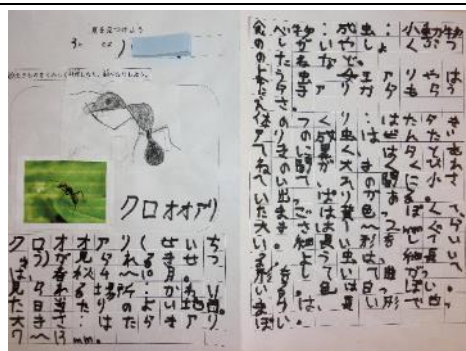
### 単元のねらい

1年間の定点観察を通して、季節ごとの生き物やその様子、生態などを観察したり調べたりすることができる。

### 単元のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

- ・季節ごとに調べたカードが最後は本になるという見通しをもたせ、意欲を継続させた。
- ・パソコンでの調べ学習を継続して行うことで、パソコン操作への興味や親しみをもたせた。

#### 【 生き物調べカード 】



興味をもった生き物の生態についてパソコンで調べ、絵や写真を貼ったり、文章を書き写したりした。

#### 【 生き物マップ 】



季節ごとに生き物マップを作った。写真を見ながら、見つけた場所の所へ絵を描いていった。

### 児童・生徒の変容

季節ごとに定点観察を続けていくうちに、児童の方から生き物の様子の相違に気づく発言が見られるようになった。

また、観察を通して、生き物に興味をもち、休憩時間にも生き物の様子を見つけたり、生き物に関する本を読んだりする姿が見られるようになった。

パソコン操作や文字入力スキルが身に付き、ローマ字表を見ながら言葉を入力できるようになった。

## 授業シート（各教科）

校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	3年
教科	算数科
単元	「数の表し方やしくみを調べよう（小数） ～1kgのおかしボックスを作ろう～」

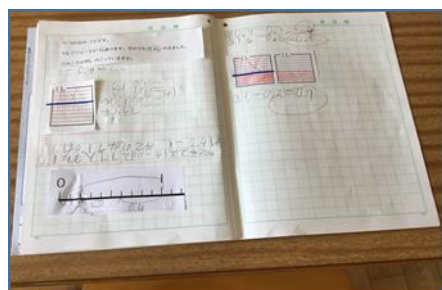
### 授業のねらい

整数で表せないはしたの大きさについて、既習をもとに数の単位を考え、小数で表したり、計算したりすることで小数の仕組みを理解し、それらを用いる力を育てる。また、次単元の重さの単元において、本単元の学習を生かして、1kgのおかしボックスづくりをする活動を行い、身近な小数にふれ、生活とのつながりを実感させる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

- ・イメージをつかみやすくするため、分数の学習後に小数の学習をした。
- ・引き算を手で動作化する→黒板に貼ったカードを動かす→ノートに書く→ことばの説明を書く→図を使って発表するなど、スモールステップ・視覚化・パターン化を組み合わせ学習を行った。
- ・大切なことはマルで囲む、聞かれていることは下線を引くことを習慣化させることで、問題文を理解させる。

#### 【ヒントカード】



ヒントカードとして、マス図や線分図を提示したことで、問題場面を理解することができた。

#### 【小数カード】



0.1を表すカードを活用させることで、1と0.1の関係や、小数の意味について理解することができた。

### 児童・生徒の変容

児童の実態に合った教材・教具を活用したことで、適用問題を解いたあと、「もう一問やりたい！」の声があがるなど、主体的に学習することができた。

生活単元学習での「クッキング」において、学習したことを生かして、必要な重さや量をはかりとることができた。

ヒントカードを活用し、図や絵をかき、問題の意味を理解して解くことができた。

## 教材・教具シート

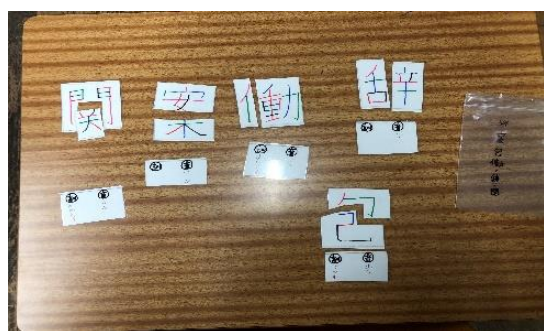
校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	1～6年
教科	国語科
単元	漢字の学習



### 教材・教具の意図

漢字の「へん」と「つくり」を捉えたり，書き順や読みを覚えたりすることが苦手な児童が，「漢字パズル」をすることで視覚的に漢字を覚えられるようにした。

#### 【教材・教具の様子】



#### 【作り方・遊び方】

- ① 漢字ノートを拡大コピーする等して，10cm×10cmのマス目を作る。
- ② 一画毎に色を変えながら漢字を書く。
- ③ 裏に部首名を書く
- ④ 漢字の音読みと訓読みを書く。
- ⑤ 「へん」とつくりに分けて切る。漢字に対応した読みも切る。
- ⑥ ラミネートをして切る。
- ⑦ ジッパー付きビニル袋に作った漢字を書いておく。
- ⑧ 漢字パズルを袋に入れる。

#### 【材料・道具】

紙，色マジック，ラミネート，パズルを入れる袋

### 児童・生徒の様子，変容



- 漢字パズルを宿題に出すことで，楽しみながら漢字学習ができた。
- 視覚優位で書くことが苦手な児童に適していることが分かった。
- 毎日の漢字ミニテストを併せて行うことで，漢字の定着を図ることができた。



## 教材・教具シート

校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	1～6年
教科	国語科
単元	文の構成を考えよう ーじゃんけん大会を通してー



### 教材・教具の意図

児童の興味や関心を生かして、書くことに必然性をもたせること、他者と関わりをもって楽しむ活動を仕組む必要があると考え、「パッチンカードを作ってじゃんけん大会をしよう。」という題材設定をした。

### 【教材・活動の様子】



### 【作り方・遊び方】

- ① 「パッチンカード」を作る順序を予想する。  
まず、事前に教師が作ったパッチンカードで児童とじゃんけん勝負をし、パッチンカードを作ろうとする意欲をもたせた。  
次に、児童一人一人に、パッチンカードを作るために必要な5枚の写真と提示し、作る順序を予想させた。
- ② 「作り方」を理解する。  
○ パワーポイントで作り方を提示  
教師が「パッチンカードの作り方」をパワーポイントで提示し、作り方の順序を児童が理解できるようにした。  
○ 写真とカードのマッチング  
全体で作り方を確認するために、5枚の写真と作り方を説明した文章を提示し、黒板で写真を並び替えさせたり、文章カードをマッチングさせたりした。
- ③ 作ったパッチンカードで遊ぼう。  
できるだけたくさんの人とじゃんけんをするようにさせた。日頃から他者と関わるのが苦手な児童も意欲的に他者との関わりを楽しむことができた。

### 児童・生徒の様子、変容



「作るために書く活動」や「作って遊ぶ活動」の設定により、児童の「書くこと」に対する意欲を高めることができた。  
今後も、「書くこと」の指導を工夫することにより、児童が楽しく、「書くこと」ができるようになっていきたい。



# 教材・教具シート

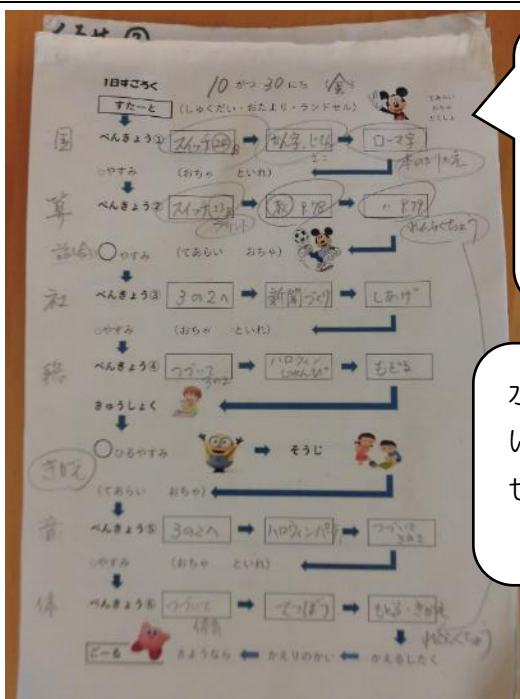
校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	1年・3年
教科	全教科
単元	一日すごろく



## 教材・教具の意図

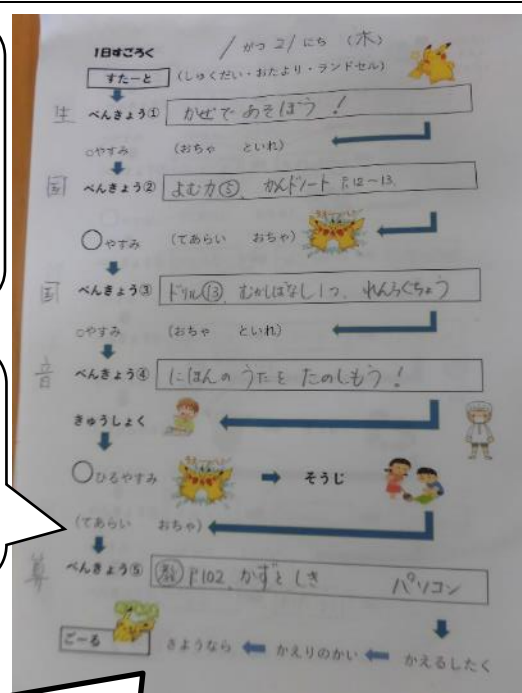
児童（特に1年生）が1日の生活の流れをつかみ、見通しをもって行動できるようにした。すごろくが大好きなので、すごろくの形にした。

## 【教材・教具の様子】



すごろくのように活動の流れを書き込めるようにした。

水分補給や手洗いなど忘れずさせたいことも入れた。



## 【材料・道具】

白表紙・「一日すごろく」のプリント・綴じひも

細かく分かれているといやだという児童のために、「ざっくり型」へ改良した。

## 児童・生徒の様子，変容

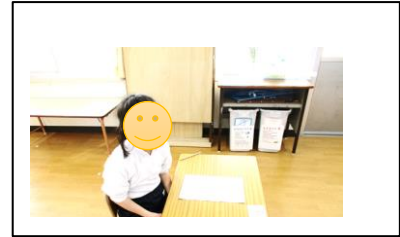


それぞれの児童の実態に合わせて活動内容や量を加減することで、さらにやる気が増した。

特別支援介助員もこれを見ることができ、支援しやすくなった。

# 教材・教具シート

校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	1～6年
教科	算数科
単元	たし算・ひき算



## 教材・教具の意図

指を使っても答えが見つけられない子ども、指で答えを見つけれられるようになってからもその指計算から抜けられない子ども、そんな子どもたちが、速く、簡単に、正確に答えを見つけれられるようにした。

## 【教材・教具の様子】

**例①**  
**5は2と3**  
の場合

5(橙色)の数図に2(水色)のクリア数図カードを重ねると重なった部分の色が変わり、5は2と3で構成されていることが理解できます。

数図カードをピッタリ重ねる

重なった部分の色が変わり、数字の構成が理解できる

**例②**  
**10は8と2**  
の場合

10(白)の数図に8のクリア数図カードを重ねると8の補数2を見つけられます。同じように1～9の補数も見つけられます。

数図カードをピッタリ重ねる

色が重ならなかった○の数が補数となる

**例③**  
**3+5**  
繰り上がりのない場合

3(赤)の数図に5(橙色)のクリア数図カードを合わせることで和の8を見つけ出すことができます。

○が重ならないように合わせる

和がわかる

**例④**  
**8+6**  
繰り上がりのある場合

8(黄色)の数図に6(黄緑)のクリア数図カードを合わせることで和の14を見つけ出すことができます。

○が重ならないように合わせる

10のまとまりを見つけ、残りの○を数える

**例⑤**  
**8-6**  
繰り下がりのない場合

8(黄色)の数図に6(黄緑)のクリア数図カードを重ねることで差の2を見つけることができます。

8の数図カードに6の数図カードをピッタリ重ねる

重なった部分の色が変わり、色が変わらない○の数が答えになる

**例⑥**  
**15-8**  
繰り下がりのある場合

- 10と5の数図カードで「15」を作る
- 10(白)の数図と5(橙色)のクリア数図カードを並べて15を作ります。
- 5から8は引けないので、10(白)の数図に8(黄色)のクリア数図カードを重ねます。
- 色が重ならない●は2です。この2と、5(橙色)のクリア数図カードを足すと、差の7を見つけ出すことができます。

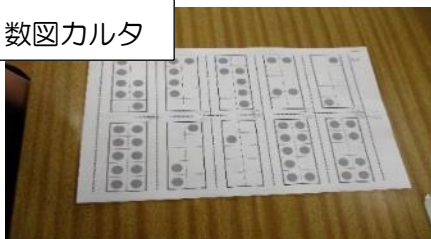
10の数図カードに8の数図カードをピッタリ重ねる

色が重ならない「2」と5を足すと答えが見つかる  
○は「2」

その他、**数図カルタ**など楽しみながら学習できる活用法があります。詳しくは「ダイワ新田教材株式会社」を検索。

## 児童・生徒の様子、変容

数図カルタ



2枚のカードを直接重ねたり、カードが重なった部分の色が変化したりするため、数の構成や計算の過程を視覚的に理解していくために有効であった。

数図カルタによって、数を数えるよりも、かたまりと見て、一瞬で正しい●の数が分かる数の感覚を身につけることができるようになった。



## 教材・教具シート

校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	3年
教科	生活単元学習
単元	お店屋さんになろう




### 教材・教具の意図

- お店屋さんごっこで、役割を演じることを通して、コミュニケーション能力を高めることができることをねらい、教材づくりをした。

【教材・教具の様子】	【作り方・遊び方】
 	<p>「シューティングゲーム」</p> <p>○遊び方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ゲーム参加するために、財布からおもちゃのお金を払う。</li> <li>②ゴムてっぽうで的を狙う。</li> <li>③ゴムが当たると、的が反転する。</li> </ol> <p>○教材設定にあたって</p> <p>本単元では、人とかかわるときに言葉のやりとりを意識付けるために、賞賛の機会を多くもち、かかわりやすいように具体的な言葉を参考に使うことで、相手に思いを伝える大切さに気付かせた。</p> <p>また、具体的な指導場面では模擬貨幣を繰り返し扱うことでお金に対する関心を高め、遊びを通じた金銭授受への興味・関心の高まりを図る学習にしていた。</p> <p>具体的には金銭の授受や言葉の手助けをしたり、学習形態に変化をもたせグループや一対一対応、ロールプレイの形にしたりすることで、友達や教師とのやりとりから、主体的に活動できるようにした。</p>
【材料・道具】	
わりばし ゴム 段ボール レジ	

### 児童・生徒の様子、変容

	<p>写真は児童がシューティングゲームを友達に説明している場面である。</p> <p>活動の初めは自分本位になりがちだった児童も、活動を進めるうちに、相手の困っていることに気付き、相手の話を最後まで聞いて、見本を提示しながら自信を持って答えることができるようになった。</p>
---	--

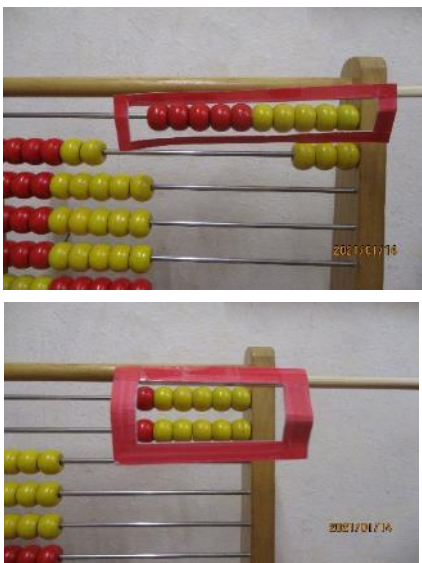


## 教材・教具シート


校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	3年
教科	算数科
単元	繰り上がりのある足し算

### 教材・教具の意図

繰り上がりのある足し算が、暗算でできるようになるために、100玉そろばんで練習した。

【教材・教具の様子】	【作り方・遊び方】
	<p>① 100玉そろばんに慣れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1から100まで、数えながら入れる。</li> <li>・1と9で10、2と8で10など、合わせて10になる足し算を唱えながら入れる。</li> </ul> <p>② 6+7の場合、<math>6+(4+3)</math>で10を作ってもいいし（写真上）、<math>(5+1)+(5+2)</math>で10を作ってもいい（写真下）ことを伝え、児童のやりやすい方法を選ばせる。</p> <p>③ 慣れてきたら、タイムを計って、0秒以内ならシールを渡し、やる気につなげる。</p>
<p>【材料・道具】</p> <p>100玉そろばん 計算カード</p>	

### 児童・生徒の様子， 変容

	<p>100玉を操作することで、数字が具体的なイメージになり、わかりやすかった。</p> <p>シールで、早くやろうという意欲が出た。18問を1分30秒程度で操作できるようになった。</p>
---	---

## 教材・教具シート

校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	3年
教科	国語科
単元	パソコン入力をしよう

### 教材・教具の意図

パソコン入力ができるように、キーボードにシールを貼って練習した。

#### 【教材・教具の様子】



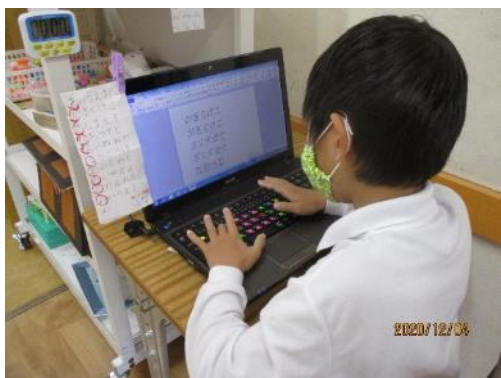
#### 【作り方・遊び方】

- ① キーボードにシールを貼った。
- ② 右手の人差し指で押すキーはピンク、左手の人差し指で押すキーは黄色など、使う指ごとに色を変えた。
- ③ かは、（かK, あA）を押す。きは、（かK, いI）を押す。など、シールのひらがなを見て、押すようにさせた。
- ④ 50音表、濁音表などをパソコンの前に貼り、見ながら押せるようにした。

#### 【材料・道具】

パソコン  
シール  
50音表

### 児童・生徒の様子, 変容



使う指ごとにシールを変えたので、両手を使っての入力ができるようになった。

50音や拗音、濁音がスムーズに打てるようになったら、文の入力をしていく。

## 教材・教具シート

校種（種別）	小学校（知的障害）
対象学年	1・3年
教科	生活単元学習
単元	正月の遊び（こま回しをしよう。）



### 教材・教具の意図

ひもがゆるんだり、ほどけたりしてなかなかこまを回せない。

#### 【教材・教具の様子】



#### 【作り方・遊び方】

- ① ひもの先に輪っかを作る。
- ② その輪っかを芯棒に入れてひもを引っ張って巻いていく。
- ③ ゆるんだり、ほどけたりしないように「ひもを少し引っ張っては巻く」を繰り返す。
- ④ ゆるんだりせずに巻けたら、中指、薬指でひもを握り、小指と中指の間でひもをはさみ、はしっこのこぶで止まるように引っ張る。
- ⑤ いよいよ回します。ひじは曲げずに掌が上を向くようにまっすぐ前に出す。

#### 手のひらに乗せて回してみよう

・こまを回せるようになると、次に何か技をしてみたいと思うものである。そこで手のひら回しはどうだろう？

手のひら回しは、こまが帰ってくる時、そのまま手のひらでキャッチする方法や、一度、地面で回して、指の間ですくい上げて掌で回す方法などがあるが、どれも難しそうだ。



そこで思い出したのが、鉄と磁石はくっつくということだ。鉄心に磁石をくっつけて持ち上げ、もう片方の手のひらの上まで持ってきて、落としてやると、手のひらで回すことができるというわけである。

児童の様子，変容

ひもで輪っかを作ることによって、ひもがゆるんだり、ほどけたりしにくくなったことが大きい。が飛んでいたりポトッと落ちたりしなくなった。

一度でも回りそうになった子はその後数回で回せるようになった。

【材料・道具】

芯棒のこま，磁石，ひも（少し細いもの）





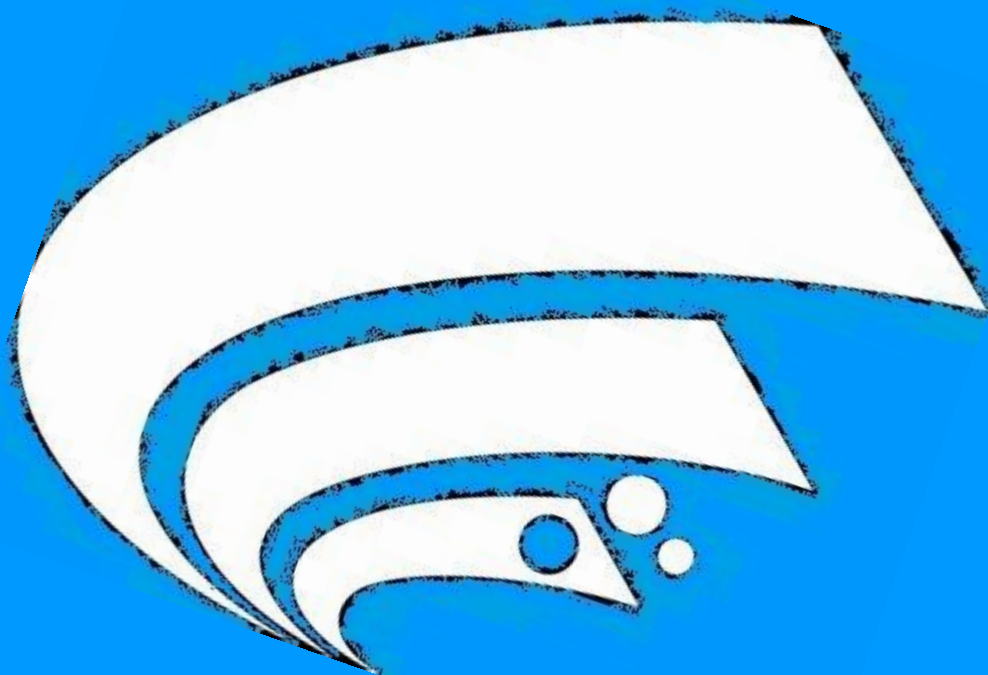
中学校(知的障害)

各教科等を合わせた指導

各教科

自立活動

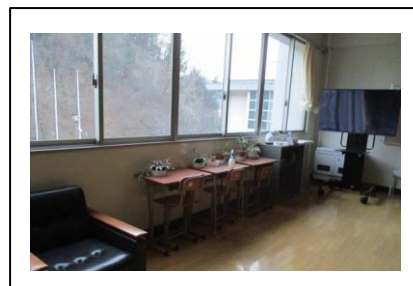
教材・教具





## 授業シート（各教科等を合わせた指導）

校種（種別）	中学校（知的障害）
対象学年	1年
領域	作業学習
合わせた教科等	職業家庭・自立活動
単元名	エコバックをつくろう



### 単元のねらい

集中して作業を行うことができる。  
ミシンの使い方を理解して、縫うことができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

自分のお気に入りのデザインを考えさせることで、関心意欲を高めるよう工夫した。そして、作業工程を視覚化して示し、見通しを持たせるよう工夫した。

#### 【実物を用いた工夫】



デザインの実物を見せて、具体的な仕上がりをイメージさせるよう工夫した。

#### 【作業工程の視覚支援】



作業工程を視覚化して示し、見通しをもって作業に取り組みせるようにした。

### 児童・生徒の変容

第一次で、エコバック作りの工程を示し、見通しをもって作業に取り掛からせることで、集中力の継続を図った。活動に積極的に取り組むことができるように、お気に入りのエコバックの完成品を見せることで、イメージ化への手立てとした。ミシンの使い方として、直線縫い、返し縫等の基本的な技能の定着を図ることができるよう、ミシンの扱い方への支援を行った。わからないときは自ら支援依頼をすることもでき、衛生面、安全面に気を付けて楽しみながら活動することができた。

## 授業シート（各教科等を合わせた指導）

校種（種別）	中学校（知的障害）
対象学年	2年
領 域	生活単元学習
合わせた教科等	国語科・職業・家庭・自立活動
単 元 名	大きな大根を育てよう

### 単元のねらい

今、学校で学んでいることが、自分の将来とつながっていることを体験的に学習することで、自立に向けて進路選択（就労を見通すこと）に対する意欲・関心を育てることができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

今までの体験活動が、教師側が準備を事前にした上で作業をさせていた点を改善して、生徒がいかにか主体的に活動できるかに視点を置いた活動を行った。中学2年生の時期に将来の就労に向けて自立した生活を送るために「見通しを持つ力」の育成を大切にして指導した。

#### 【見通しを持たせて計画する活動】



大根を育てるために必要なことを今までの畑作業での体験、本から得た知識を活かして計画を立てる場面を設定した。その過程で大きく育てるためには畑を深く耕し、土を細かく柔らかくする必要があることに気付き、活動した。

#### 【収穫して振り返る場面】



収穫する場面では、インターネットで大根の収穫時期を調べ、葉の様子や莖の状態を観察して収穫時期を判断するなど主体的に取り組ませ、生徒が考えた計画にそった活動であったかを振り返る場面を持った。

### 児童・生徒の変容

今までは教師が計画して取り組ませていたが、生徒に「大根を育ててみよう」と課題を提示して、必要なことを考えさせる場面【いつ、どこで、何を、どのように】を計画することで主体的に活動することができた。また、育てる過程で次に何をすればいいのかを生徒自らが質問したり、調べたりすることにつながり、目的意識をもって活動することができた。次年度では、この活動を継続し、今回は収穫した野菜を使って調理実習することや販売することをイメージしてコミュニケーション活動につなげていきたい。

## 授業シート（各教科等を合わせた指導）

校種（種別）	中学校（知的障害）
対象学年	1年
領域	生活単元学習
合わせた教科等	数学科・職業・家庭・自立活動
単元名	育てたサツマイモでお菓子を作ってお店を開こう



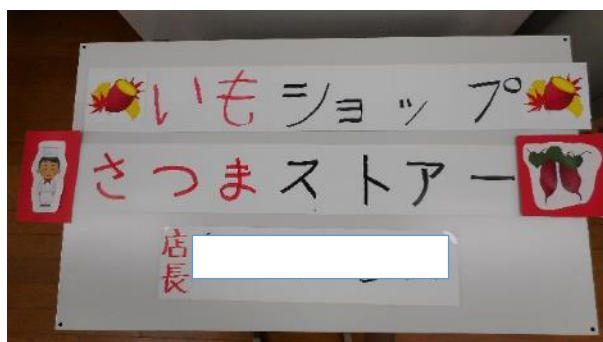
### 単元のねらい

自分が育てたサツマイモを調理し、お店を開いて買ってもらう経験を通じて、お金の計算に慣れることができる。また、開店のお知らせをしたり、店長として対応したりする中で、自発的なコミュニケーションへの意欲を育てることができる。感想を聞いて達成感を得、今後の活動に意欲的に取り組むことができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

「店長」の自覚を持つように、お店の名前を自分で考えさせ、看板を作った。お金の計算をするために、値段を1個10円に設定し、売る個数と合計金額の対照表を掲示した。お釣りの計算が必要になるように買い物をしてもらった。お釣りは、金種ごとに分けて、一目でわかる工夫をした。

#### 【体験活動の充実と交流】



生徒は実生活で買い物等の経験が少ないため、お金を扱うことに慣れていなかった。実際にお金を受け取ったり、お釣りを渡したりすることで、お金に対する苦手意識を克服できる機会を作った。

#### 【コミュニケーション活動】

1こ	10円
2こ	20円
3こ	30円
4こ	40円
5こ	50円
6こ	60円
7こ	70円
8こ	80円
9こ	90円
10こ	100円

お客様の気持ちを考えて、「はっきり話す」、「笑顔で話す」などの注意に加え、お金を受け取ったりおつりを渡したりする時には、金額を言うように取り組ませた。

### 児童・生徒の変容

サツマイモを使った取組は2回行ったが、開店のお知らせや接客時の会話など、コミュニケーションに自信を持った様子があった。また、売る場面では対照表を見て合計金額を相手に知らせ、お釣りの額も言いながら渡すことができた。2回目には、接客態度も落ち着いており、お金の取り扱いにも慣れてきた様子が見られた。



## 授業シート（各教科等を合わせた指導）

校種（種別）	中学校（知的障害）
対象学年	1～3年
領 域	生活単元学習
合わせた教科等	生活科・自立活動
単 元 名	ダルマを作ろう



### 単元のねらい

三原の祭りのひとつである神明市に関心を持ち、伝統を継承していくことの大切さに気づかせる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

生徒は毎年神明市に参加し、出店で飲食したり、ダルマを購入したりしている。ここではダルマづくりを進める中で、三原の伝統を継承する意識を育むとともに、商品を販売される方は、どのような思いで商売をされているのか他者意識を持たせたい。

#### 【ダルマづくり】



本来の作り方とは異なるが、生徒にも簡単に作ることができる方法で進めた。風船の上から新聞紙を薄めたボンドに浸したものを、重ねて貼り付けていった。

#### 【コミュニケーション活動】



神明市のみでなく、三原の祭りに対しての思いや、祭りで体験したことを語り合いながら製作した。作り方については、上級生が下級生に助言しながら進めている姿があった。

### 児童・生徒の変容

製作自体は複雑なものではなかったが、完成までに大変時間がかかり、集中力が持続しない生徒も見られた。完成後は、達成感を味わうことで、自信へとつなげることができた。また、祭りへの思いやダルマに携わる方への興味関心を高めることができた。

## 授業シート（各教科等を合わせた指導）

校種（種別）	中学校（知的障害）
対象学年	1・2 学年
領 域	生活単元学習
合わせた教科等	国語科・社会科・数学科・英語科・職業・家庭・特別の教科 道徳
単 元 名	手作りコースターを販売しよう



### 単元のねらい

- 作業工程を理解し、丁寧に作業をすることができる。
- お客様を意識した受け答えや挨拶などを考えて行うことができる。
- 販売量・お金の計算・売上額などの記録など行うことができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

普段、経験のないことや生徒が苦手としている内容について扱うため、繰り返し練習ができる単元計画を設定したり、計算表の作成をしたりなどして、少しでも安心して学習ができるよう工夫をした。

#### 【 応答の練習 】



受け答えや挨拶などを考え、実際行う前に何度も練習を行った。  
また、授業担任でない先生は緊張するだろうと考え、最初は本人に販売する先生数名を決めさせた。

#### 【 計算表の活用 】



計算表の記入できるレシートを作成し、お金の計算が正しくできるように工夫した。

### 児童・生徒の変容

工程を数段階に分け同じ作業を繰り返すことで、手順を覚えて一人で作業を進めていった。それによって、積極的に取り組むようになり作業能率も上がり、自信を持つことができた。いろいろな先生とコミュニケーションを図ることで、かかわりのない先生を知るきっかけができた。また、自分の製作した作品を評価してもらうことで、自己肯定感を得ることができ、次の作品製作や販売学習に対して意欲がさらに高まった。

## 授業シート（各教科）

校種（種別）	中学校（知的障害）
対象学年	2年
教科	外国語科
単元	「What am I?」わたしは何でしょう？



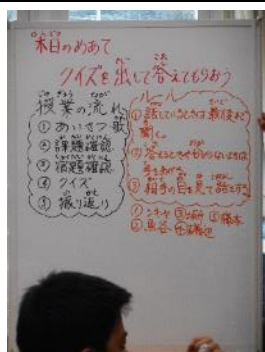
### 授業のねらい

○ 学習の中で理解した英語表現について自信をもって相手に伝えることができる。相手の話す簡単な英語を聞いて、それが表す事物の状態や特徴を理解し、英語の語句や動作などで応じることができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

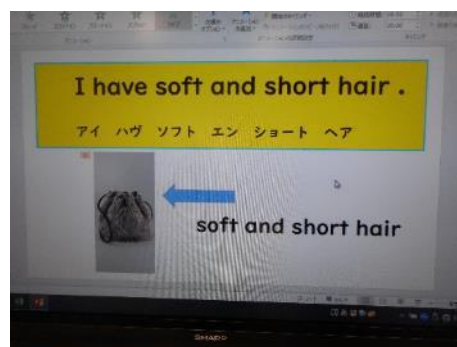
○学習のめあて、授業の流れ、発表の順番を表示し、見通しをたたせる。  
 ○パワーポイントを用いて自信を持って発表させる。  
 ○ヒントを与えながら、内容を概ね理解させるように支援する。  
 ○分からない表現があれば、キーワードを与えて推測させる。

#### 【授業のめあて等の確認】



授業のめあてや流れ、発表のルールを視覚的に示すことで見通しを持って授業を行った。

#### 【他教科との関連】



作業の時間でパワーポイントの基本を学びながら、クイズづくりを円滑に進め、意欲的に発表に臨んだ。

### 児童・生徒の変容

視覚支援や ICT 機器を用いることで意欲をもって授業に集中することができた。

事前にルールを確認したり、会話中心の授業の中で繰り返したりすることで、相手の話を最後まで聞いたり、アイコンタクトをすることができるようになってきた。

他教科との関連により、より深い学びにつながるとともに、授業の中でこれまでより意欲的且つ自信をもって取り組もうとする姿勢が見られた。



## 授業シート（各教科）

校種（種別）	中学校（知的障害）
対象学年	3年
教科	外国語科
単元	すごろくで話そう



### 授業のねらい

すごろくのコメントにしたがって、自分のことや身近な出来事などを、簡単な英単語を使って楽しんで話すことができる。

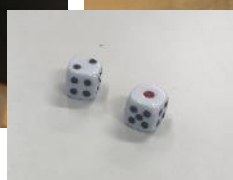
### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

授業のポイントは「楽しみながら英語で会話する」ことである。自分の好きなものや誕生日などのプロフィールや、他の人の良いところなどを言うことで、お互いのことを認めあえるような内容を盛り込んだ。

ゲーム的な内容（じゃんけんやあっち向いてホイなど）を入れて、体を動かしたり、競い合ったりすることで飽きないように工夫した。

サイコロを2個使って進みやすくし、授業時間内にゴールできるようにした。

### 【授業のようす】



### 生徒の変容

今まで習ってきた英単語や、生活の中で使っている英単語を使って、積極的に話そうとしている様子が見られた。わからない単語は辞書を引いて調べたり、お互いに教え合ったりして話すことができた。4名のクラスで気心も知れており、和やかに授業を進めることができた。

<b>スタート</b>	1 趣味は？	2 好きな果物は？	3 お名まえは？	4 好きな歌手は？	5 スタートにもどる。	6 誕生日は？	
	23 好きな教科は？	24 先生にお願いを 言いましょう。	25 好きな色は？	26 行けるとしたら過去と未 来どっちに行きたい？	27 最近うれしかったこと は？	28 好きなテレビ番組は？	
	22 今年の目標は？	39 朝ごはんは何を食べ た？	40 あなたの夢は？	41 知っていることわざを 一つ言おう。	42 旅行してみたいところ は？	29 右の人のよいところ は？	
	21 早口ことばを3回言う。 うまく言えなかったら 2つもどる。	38 右の人と3回じゃんけん 2回以上勝ったら2つ進 む。	47 残念 2つもどる。	<b>あがり</b> ゴール	43 好きな動物は？	30 好きな給食は？	9 校長先生のお名まえ は？
	20 家でよくするお手伝い は？	37 最近うれしかったこと は？	46 得意な料理は？		45 自分の好きなところ は？	44 残念 4つもどる。	31 最近見た夢を話して ください。
	19 好きな飲み物は？	36 あなたの名まえを逆さま から言ってください。	35 好きな本は？	34 今夢中になっていること は？	33 左の人とにらめっこをし ましょう。負けたら2つも どる。	32 あなたの血液型は？	11 好きなタレントは？
18 あなたの宝物は？	17 あなたの星座は？	16 左の人と「あっちむいて ホイ」をしましょう。勝っ たら2つ進む。	15 残念 3つもどる。	14 好きな果物は？	13 どのプロ野球チームが 好き？	12 今日の給食は何？	

## 授業シート（自立活動）

校種（種別）	中学校（知的障害）
対象学年	1・3年
6区分27項目	1(5), 5(1)
単元名	ストレッチ体操をしよう



### 単元のねらい

健康維持のために、何が必要か、何ができるかを考えることができる。さらに、それらを意識して体を動かすストレッチ体操を継続して実施できる。

### 単元のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

飽きや惰性に陥らないように複数の種目を考えた。また、ゲーム意識で取り組めるように、毎回の種目を自作ルーレットで決定するようにした。

#### 【実施のようす】



朝と帰りの短学活に組み込んで習慣化するようにした。

#### 【作成したルーレット】



以前やったことのある種目に加え、新聞の記事や家庭からの情報などから6種類を選んだ。種目の名前も相談して、わかりやすく楽しそうなものを考えた。

### 児童・生徒の変容

年度当初は、短学活の司会者がその場で決めていたが、惰性に陥ってしまいがちだったので改善するための方法を相談して決めていった。その過程でそれぞれの種目のポイントや要領に気付くことができた。

運動に苦手意識をもつ者もいるが、ルーレットのワクワク感からスタートすることもあり、やる気を維持して実施できている。





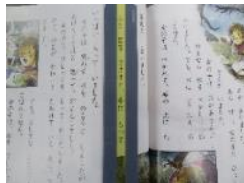
## 教材・教具シート

校種（種別）	中学校（知的障害）
対象学年	1～3年
教科	全教科・領域
場面	ワークシート学習・テスト




### 教材・教具の意図

教科の学習等で使うワークシートやテストを、生徒がやる気になるようにしたり、答えやすくなるように工夫した。

【教材・教具の様子】	【作り方】
<p>いつでも使えるように・・・</p>    <p>テストにチャレンジ!!</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 必要な情報を得るために、なるべく少ない文字数で、要点となる箇所にマーカーを引く。</li> <li>② ポイントが分かりやすいように、同じ色が続かないようにする。</li> <li>③ テストの場合は、問1の問題と解答欄が同じ色になるようにして、記入するところを迷わないようにする。</li> <li>④ 教科書の音読などで、リーディングトラッカーを使うこともある。</li> </ol>  
<p>【材料・道具】</p> <p>マーカーペン（3～4色）</p>	

### 生徒の変容

	<p>白黒で文字数の多いワークシートやテストを見ると、文字の集合体にしか見えず、自分で読もうという気が起こらなかった生徒が、カラー刷りにしただけで、主体的に見て、書き込もうとした。白黒でも、段落や問題ごとにマーカーで色分けすることによって、ワークシート学習やテストにも意欲的に取り組めた。</p>
---	--




## 教材・教具シート


校種（種別）	中学校（知的障害）
対象学年	3年
教科	その他
単元	藤井聡太になろう

### 教材・教具の意図

駒の動かし方を覚えにくいいため、視覚化することによって本児がどの程度知識が定着しやすくなるかアセスメントを行った。

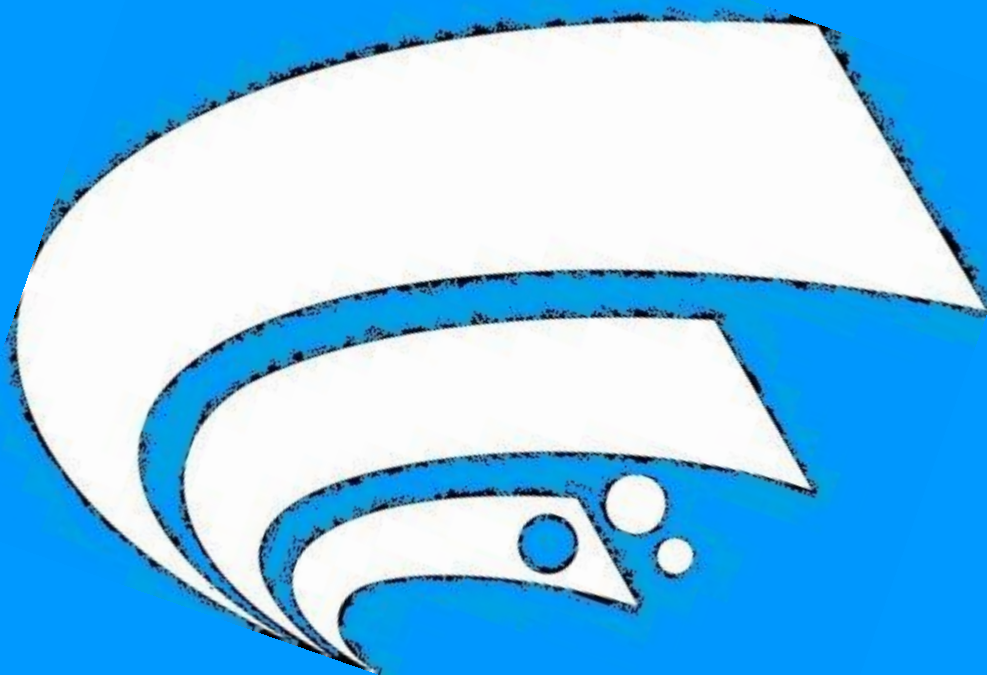
【教材・教具の様子】	【作り方・遊び方】
	<ul style="list-style-type: none"> <li>覚えにくい駒の表裏相互に、動かすことができる方向にマークを付ける。</li> </ul>
<p>【材料・道具】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>将棋の駒</li> <li>マジック</li> </ul>	

### 児童・生徒の様子，変容

	<p>毎回、金・銀や成金の動かし方を教師に聞いてきていたが、スムーズに動かせるようになった。</p> <p>生徒にとっては、視覚化することが記憶の手助けとなることが分かった。</p>
---	---



三原特別支援学校(小・中学部)  
各教科等を合わせた指導  
自立活動  
教材・教具







## 授業シート（各教科等を合わせた指導）

校種（種別）	特別支援学校小学部（知的障害）
対象学年	5年
領域	生活単元学習
合わせた教科等	国語科・算数科・生活科
単元名	お楽しみ会をしよう



### 単元のねらい

「お楽しみ会」に向けて、「お菓子係」として必要な準備を行う。参加する友だちが好きなお菓子を買うために、アンケートを作成したり、アンケート結果を集計したり、集計結果をメモして実際に買い物に行ったりすることを通して、課題発見・解決力を身に付けることができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

参加する友だちの意見を聞くために、相手を意識しながら視覚的に分かりやすいアンケートを作成した。集計したものは、実際に買い物に行く際に持参する「校外学習のしおり」にメモをさせ、買うものが分からなくなっても、自分で見て思い出し、一人で買い物ができるようにした。

#### 【相手に分かりやすいアンケート】



#### 【しおりへのメモ】



視覚的に分かるアンケートを作った。回答する児童にも、集計する児童にも分かりやすくすることで、自信をもって活動に取り組めるようにした。

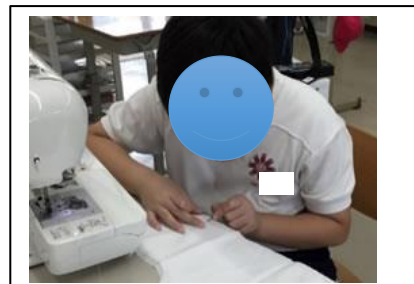
自分が買うものを、自分でメモさせることにより、必要な情報をメモする習慣や、忘れたことはメモを見て思い出す習慣を身に付けることができるようにした。

### 児童・生徒の変容

相手を意識してアンケートを作成する中で、「（漢字で書けるけど）ひらがなで書こう。」と発言していた。買い物中、買うものの個数が分からなくなったが、自分でしおりを見て確認し、「2個だった。」と言って、一人で買い物をする事ができた。

## 授業シート（各教科等を合わせた指導）

校種（種別）	特別支援学校中学部（知的障害）
対象学年	2年
領域	作業学習（手工）
合わせた教科等	家庭科・数学科
単元名	作業技術を身に付けよう



### 単元のねらい

布製品を中心に、道具の使い方や作業に必要な基礎技術を知ることができる。また、作業を繰り返し行うことで、作業技術を向上させることができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

まずは、全員が全ての作業内容を体験し、作業内容を知る。その後、個々の実態に応じて、布を切る、くるみボタンを作成する、ミシン等と作業を分け、繰り返し行う。最終的には、任された作業をほとんど一人でできるようにした。

#### 【くるみボタン作り】



布を切る、くるみボタンを作成する担当に分かれて、作業をおこなった。繰り返し練習することでやり方を覚え、一人で作業できるようになった。

#### 【ミシン】



縫う位置に印をつけておくことで、一人で縫う作業を行うことができた。また、失敗した場所もリッパーを使い、自分で補正するやり方を覚え、自分で直すことができた。

### 児童・生徒の変容

作業内容を分けたことで、生徒の実態に合わせて作業を進めることができた。また、生徒も自分の役割があることで意欲的に行うことができ、仕事を任された責任感をもつことにつながった。

## 授業シート（自立活動）

校種（種別）	特別支援学校小学部（知的障害）
対象学年	第1学年
6区分27項目	3（1），5（1），6（1）
単元名	いろいろなことにチャレンジしよう



### 単元のねらい

- 教師と一緒に日常生活に必要な簡単な動作を身に付ける。
- 教師や友だちに自分の気持ちを言葉やジェスチャー等で伝える。

### 単元のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

遊び感覚で手指の巧緻性を高めたり，転んだ時に手を出せるような体の動きの感覚をつかんだりする活動を取り入れた。また，言葉の語彙や発せられる言葉を増やすことをねらって，iPadでのコミュニケーションツールを使用した。

#### 【 手指を動かそう 】



#### 【言葉の練習】



ボタンを人差し指と親指でつまんでボタンの大きさギリギリの穴からケースに入れることで、『つまむ』ことを練習した。  
 転んだ時に手を出せるようにピーナッツボールに乗って両手をパと広げて，床につける練習をした。『パ』という声に合わせて手を出させるところから，ボールを前に転がして自分から手を出すようにつなげていった。

言葉の語彙が少なく，声に出すことが緊張により少ない児童に劇のセリフの一部を言う練習を行った。アプリの『ドロップトーク』を取り入れ，  
 ①セリフのイラストを押せば，セリフが出てくる練習 ②セリフの一部を真似して声に出す練習 ③その声を録音し，イラストボタンでセリフが言えるようにした。

## 児童・生徒の変容

【手指を動かそう】手の動きがぎこちなく、何でも『にぎる』という動きから『つまむ』ことができるようになってきた。虫の餌やりなどでフレークタイプの餌を上手につまんであげることに繋がった。又、転んだ時に手が出ないことが課題であったが、ピーナッツボールでの運動を行うことで両手を出せるようになり、実際に転んだ時に手が出せて、顔をケガすることはなかった。


【言葉の練習】声を出すことに緊張があり、発せられる語彙数も少なかったが、劇のセリフを言うという目的があり、アプリを使うことで『声に出す』ことのストレスを軽減することができた。その結果、『友だちがほしい。ダンスをしたい』の『と（もだち）』『だ（んす）』『し（たい）』と自分で言おうという意欲が出て、録音することができた。アプリを使うことで、全てを自分の力で言うのではなく、ストレスなく、セリフを言うことができた。




## 教材・教具シート

タイトル	わけて おとして	校種	特別支援学校
教科等	個人別の課題学習	対象	小学部第1学年 (単一障害学級)
教材・教具の概要及び使用方法	 <p>形を見て、穴に入れていきます。</p> <p>フタを半分に切っています。残りのフタは、別の形の穴を開け、付け替えられるようにしています。</p> <p>底に滑り止めを貼り、おはじき等を摘まみやすくしています。</p>		
アイデア・工夫	1つの容器で3種類の弁別、プットインができるようにしています。少し押し込むことで入るように穴を開け、指に力を入れる練習にもなるようにしています。		
製作材料	タッパ容器(大)×1 タッパ容器(小)×3 入れる物(ダボ, おはじき, サイコロ) マスキングテープ(フタの切り口で手を切らないように貼っています)		
児童生徒の様子	1つの容器で完結することで、出す物を少なくし、机上が煩雑にならないため、物が多い時に比べて集中して行う時間が増えました。また、好きな形(サイコロ)を入れることで、楽しみながら行う様子も見られています。		
備考			


## 教材・教具シート

タイトル	作りやすい形を考えよう	校種	特別支援学校
教科等	遊びの指導	対象	小学部第1学年 (単一障害学級)
教材・教具の概要及び使用方法	 <p>シャボン液につけて使います。小さいものはガムテープの芯で型取っています。</p> <p>大きいものでシャボン玉を作ることが難しい児童は、細長くすることでやりやすく感じていました。</p>		
アイデア・工夫	<p>児童たちが自由に変形できるようにアルミ製の針金を使用しました。枠の形や大きさによってできるシャボン玉は違うのか、シャボン玉を作りやすい枠はどのような形かを考えさせることをねらいとしました。</p>		
製作材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルミ製針金</li> <li>・ガムテープ</li> <li>・モール</li> </ul>		
児童生徒の様子	<p>遊んでいる途中に、「小さいのを貸してください。」や「僕は細いやつが良い。」などの発言をする児童もいました。</p>		
備考	<p>小学部1年の段階では自分で枠の形を変形することは難しいため、あらかじめいくつかの形を用意しておく必要があります。</p>		

## 教材・教具シート



タイトル	ぼたんが入るかな？	校種	特別支援学校
教科等	自立活動	対象	小学部第1学年 (重複障害学級) 親指と人差し指でつまむことが苦手な児童
教材・教具の概要及び使用方法	 	<p>大・中・小 大きさの違う穴に それぞれの大きさのボタンを 入れていきます。</p> <p>ぎりぎりの大きさなので親 指と人差し指でつままな いと入りません。</p>	
アイデア ア・工夫	人形遊びが好きな児童に着せ替えごっこ遊びをする中でボタンの練習ができないかと思っていたところ、ボタンをつまむことが難しいことがわかり、つまんで入れる練習を取り入れました。ボタンと穴とがちょうどいい大きさ幅なのでボタンを指でつままないに入らず、つまんで少し押したら入るようにしました。		
製作材料	スチレンボード(100円均一)、ボタン(大, 中, 小), ゴム, プラスチックケース		
児童生徒 の様子	初めは、ボタンを掌でにぎって入れようとして、うまく入らず、身体支援をして、親指と人差し指でつまむ方法で一緒に入れて、入った！と一緒に喜んでいくと、自分でつまんでやろうとするようになってきました。		
備考	目指すのは、ボタンをはめる事なので、次のステップは、布の穴に入れていく方法を考えています。		

## 教材・教具シート

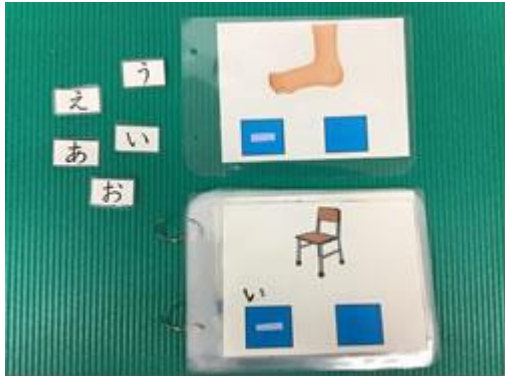
タイトル	シャボン玉の枠	校種	特別支援学校
教科等	遊びの指導	対象	小学部第2学年 (単一障害学級)
教材・教具の概要及び使用方法	<p>ワイヤーで作ったシャボン玉の枠</p> 		
アイデア・工夫	<p>①形を変えて、シャボン玉の形が変わるか児童に予想させる。 ②持ち手のテープで誰の物か分かるように！ ③モールを巻くことで、デザイン性と機能性アップ！</p>		
制作材料	<p>ワイヤー、ニッパー、モール、ビニールテープ (100円ショップですべて購入)</p>		
児童生徒の様子	<p>枠の形を1回目○⇒2回目□⇒3回目△の順で変えていったところ、○⇒□の時には、□のシャボン玉ができると予想した児童の方が多かったですが、□⇒△に変えた時には、シャボン玉は○になると予想した児童が多くなりました。一方、頑なに□や△のシャボン玉ができると予想し続けた児童もいました。</p>		
備考	<p>指導方法は、某教諭の指導方法をインスパイアしたものです。</p>		



## 教材・教具シート

タイトル	とんで とんで とんで	校種	特別支援学校
教科等	遊びの指導	対象	小学部第3・4学年 (単一障害学級)
教材・教具の概要及び使用方法	 <p>② 新聞紙の間をジャンプします。</p> <p>① 片足や両足とびなどに挑戦します。</p>		
アイデア・工夫	<p>① 新聞紙で簡単に制作しました。</p> <p>② 小学部用に歩幅を小さくしています。</p> <p>③ 10個マスがあるので数字を意識しながら跳ぶこともできます。</p> <p>④ 簡単に出せるようにビニールテープでひっつけています。</p>		
製作材料	新聞紙, ガムテープ, ビニールひも		
児童生徒の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスがあることで跳びやすい児童もいた。</li> <li>・両足跳びが難しい児童は片足でまたくこともできた。</li> <li>・簡単な活動なので意欲的に参加する児童が多かった。</li> </ul>		
備考	水には弱いので時間があれば耐水性の材料を使って製作したい。		



## 教材・教具シート

タイトル	ひらがなカード	校種	特別支援学校
教科等	自立活動	対象	小学部第4学年 (重複障害学級)
教材・教具の概要及び使用方法	 <p>ひらがなのあ行から始まる言葉(1音から3音までのもの)で、わ行までがあります。 一枚ずつめくりながら、イラストの名詞などを■を指差しながら声にだして言います。(何音で構成される言葉かを意識させます。) 「あしの『あ』は？」頭にある音を表すひらがなを選んで置きます。覚えるまでは、ホワイトボードマーカーで字を書いてマッチングさせます。 覚えてきたら、イラストを見ないで、「あしの『あ』下さい。」とひらがなカードだけ貰います。 50音全部覚えてきたら、名詞などの2音3音の文字も置けるように取り組んでいきます。</p>		
アイデア・工夫			ラミネートしてあることで、覚えていない字だけホワイトボードマーカーで字を書くことで、達成度に応じて支援の仕方に工夫ができ、児童に達成感をもたせやすい。
製作材料			エクセルで制作した ひらがなカード ラミネートシート リング
児童生徒の様子			自立活動と毎日の宿題で繰り返し行いながら、ひらがなを覚えてきている。字を忘れた時も、ホワイトボードで字を書いてもらい、正しい字を自分で置くことができるので、意欲的に取り組み続けることができている。
備考			

## 教材・教具シート


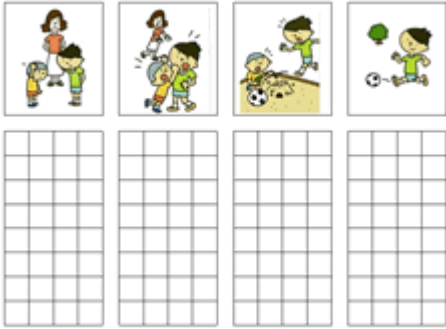
タイトル	<b>タイマーなるまで 頑張ろう</b>	校種	<b>特別支援学校</b>
教科等	<b>日常生活の指導</b>	対象	<b>小学部第5学年 (単一障害学級)</b>
<b>教材・教具の概要及び使用方法</b>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>左側の手順表で、「どのようにするのか」、右のタイマーで「いつまでするのか」が分かります。</p> <p>左の手順表は、ラミネートした状態のものをセロハンテープで貼り付けてあるだけなので、簡単に貼り替えが可能です。ラミネートした白い紙を貼りつけておいて、ホワイトボードマーカーで書き込めば、即席で手順表を作ることにも可能です。</p>		
アイディア・工夫	<p>活動を集中して丁寧に行うことが難しい児童に対して作成しました。</p> <p>歯磨きの手順は分かっている児童ですが、手順をこなすことが目的になり、1分程度で歯磨きを終わっていました。</p> <p>時間の感覚はあり、①「終わり」が分かっていたら集中できること②手順が分かる作業は集中して取り組めることから、「<u>手順と終わりの時間が一目で分かる</u>」ようにしました。</p> <p>手順表をいくつか用意して、図画工作科や掃除など他の場面でも、<u>集中して丁寧に取り組めるための支援具として、活用したい</u>と思っています。</p>		
製作材料	<p>手順表、ラミネートフィルム、タイマー、テープ、L字の亚克力板(自立するように)</p>		
児童生徒の様子	<p>タイマーが鳴るまで、静かに集中して歯磨きをすることができるようになった。終わりを自分で判断して生活できるので、「えー、もう終わり？ 早くない？」と言われる場面が減り、お互いに気持ちよく過ごせています。</p>		
備考			

## 教材・教具シート

タイトル	ピタゴラ装置自作キット	校種	特別支援学校
教科等	遊びの指導	対象	小学部第5学年 (単一障害学級)
教材・教具の概要及び使用方法	① 	スロープ等を高低差, 角度, 速度などを工夫, 調整をしながら組み立てます。	
	② 	プログラミング学習, 課題解決学習につながります。 児童も工夫をしながら熱中して遊んでいました。	
アイデア・工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰でも簡単に組み立てることができるシンプルな構成で, 道具も用途に応じて分かりやすいものを扱います。</li> <li>・教室にある机や椅子, ホワイトボード等, いろんなものと組み合わせて, 自由自在にカスタマイズできます。</li> </ul>		
製作材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スロープ, パイプ(L, T) ※ホームセンター等で購入</li> <li>・S字フック, 洗濯ばさみ, 割り箸, 養生テープ, 紙コップ, 壁掛けラック(100円均一※200円以上のもの含)</li> </ul>		
児童生徒の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転がすビー玉が繋がらなかった時に, どういった問題があるのか分析して, それに対してある道具の中から工夫, 調整をして遊んでいる姿が見られた。</li> <li>・みんなで順番に, 何度も繰り返しビー玉を転がして, 熱中して遊ぶ姿が見られた。</li> </ul>		
備考			






## 教材・教具シート

タイトル	助詞の使い方に慣れよう	校種	特別支援学校
教科等	個人別の課題学習	対象	小学部第6学年 (単一障害学級)
<b>教材・教具の概要及び使用方法</b>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>① 助詞の使い方カード</p>  </div> <div style="width: 48%;"> <p>② お話を作ってみよう！</p>  <p style="font-size: small;">★お話をくんだりの「お話し」。</p> </div> </div> <p>① 「助詞の使い方カード」を使って、どの助詞をどんな時に作るのか、このカードを見れば分かるようにしています。(2枚あります。)</p> <p>② 自分でお話を作る課題をすることで、助詞の使い方に慣れることを目的として作りました。</p>		
<b>アイデア・工夫</b>	<p>① 助詞の使い方が分からず、文章が上手く作れない様子を見て、この教材を作成しました。助詞は、一つの助詞にも、色々なケースの使い方があるため、分かりにくい要因の一つになっていました。そこで、よく使うケースを取り上げて、イラストや例文を付けて、分かりやすく示しました。</p> <p>② お話の展開を自分で考え、お話を作ることができるようにすることで、興味・関心を高められるようにしました。</p>		
<b>製作材料</b>	紙・ラミネートフィルム		
<b>児童生徒の様子</b>	分からないことがあれば、この助詞カードから、当てはまるケースを探して文章を作ればよいため、以前よりも、助詞の間違いが減りました。また、ただ文書を書くよりも、自分で物語を構成することで、意欲的に学習できています。		
<b>備考</b>			

## 教材・教具シート

タイトル	「リズムであそぼう」 音符	校種	特別支援学校
教科等	音楽	対象	中学部第1学年 (単一障害学級)
教材・教具の概要及び使用方法	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムを楽しむ入り口として作成した。</li> <li>・四分音符，八分音符，四分休符，八分休符を自由に貼っていき，演奏してみることで思いがけない面白いリズムができる。</li> <li>・授業の中ではソロパートで自分の作ったリズムを演奏した。</li> </ul>		
アイデア・工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自分で貼り直しができるように厚みのあるマグネットを裏に貼りつけた。</li> <li>・生徒に音符の色付けをしてもらうことで楽しい雰囲気が出た。</li> </ul>		
製作材料	紙(ラミネートする), マジック, マグネット		
児童生徒の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の並べた音符が実際に演奏されると笑顔で一緒に演奏していた。また，他の人のリズムにも興味をもつことができた。</li> <li>・カラフルな音符のため，音符に興味のない生徒も進んで並べて演奏できた。</li> <li>・逆に自分が叩いたリズムを音符でどう表すかなどの広がりが見られた。</li> </ul>		
備考			

## 教材・教具シート

タイトル	A ボールを「すどん」 B 色分けボール C「はさむぞ」ぼん	校種	特別支援学校
教科等	個人別の課題学習	対象	中学部第1学年 (単一障害学級)
教材・教具の概要及び使用方法	<p>・フェルトボールを小さな穴の中に入れることで、目と手の協応性を高める</p> <p>・フェルトボールを色別に分ける</p> <p>・洗濯ばさみで紙を挟む</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>A</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>B</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>C</p>  </div> </div> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">} ‘つまむ’ ことで 指の巧緻性を高める (洗濯ばさみでは、より指の力を使うことができる)</p>		
アイデア・工夫	色に反応を示す生徒なので、発色の良いフェルトボールを使うことで意識を向けやすくなった		
製作材料	お菓子の筒, フェルトボール, 厚紙, 洗濯ばさみ		
児童生徒の様子	何をすることが分かりやすく、どれだけやったら終わりかも見える課題ということで、落ち着いて取り組むことができる。「今は課題をする時間」という意識付けにもなっている。		
備考			

## 教材・教具シート


タイトル	立体絵本 「どうぞのいす」	校種	特別支援学校
教科等	自立活動	対象	中学部第1学年 (重複障害学級)
教材・教具の概要及び使用方法	 <p>お話の土台となります。タイトルは入れ替え可能です。本の形なので、開くことでお話の始まりを感じることができます。</p>  <p>お話を読みながら、人形を動かしていきます。</p>		
アイディア・工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人形を動かすことで話の流れがわかりやすい。</li> <li>・人形を触って楽しめる。クマとキツネは口にどんぐりやハチミツ(瓶)が入る。</li> <li>・土台を本の形にしたことで、絵本感を出した。</li> </ul>		
製作材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェルト・綿・裁縫セット・木工用ボンド</li> </ul>		
児童生徒の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな絵本が立体になることで、話の流れがわかりやすく、また触れて楽しむことができるのではないかとと思われる。(欠席のため、未実施)</li> </ul>		
備考			

## 教材・教具シート



タイトル	服たたみ器	校種	特別支援学校
教科等	個人別の課題学習	対象	中学部第2学年 (単一障害学級)
教材・教具の概要及び使用方法			
アイデア・工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の服のサイズに合わせて、段ボールに折り目をつけています。</li> <li>・生徒の実態に合わせて、たたむ順番を番号や色で区別すると、スムーズにたたむことができます。</li> </ul>		
製作材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段ボール</li> <li>・カッター</li> <li>・ガムテープ</li> </ul>		
児童生徒の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たたむ順番を言葉かけや指差し確認をすることで、スムーズに服をたたむことができます。練習するにつれて、たたみ方を理解し、自分から積極的にたたむことができるようになります。</li> </ul>		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りのことを少しでも多く自分でできるようになるために最適な教材教具のひとつです。作り方も簡単ですので、ぜひ児童生徒の活動に取り入れてみて下さい。</li> </ul>		



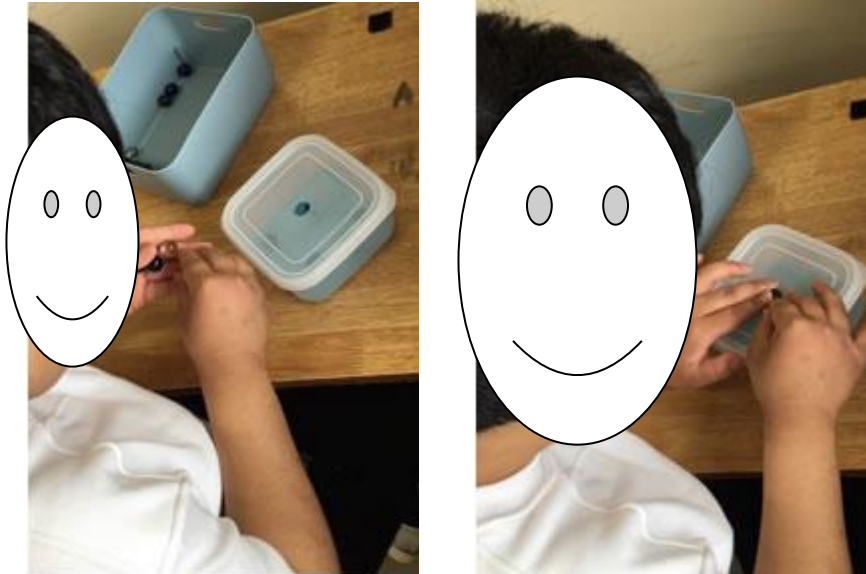
## 教材・教具シート

タイトル	朝の会をしよう (Finger Board Pro)	校種	特別支援学校
教科等	日常生活の指導	対象	中学部第2学年 (単一障害学級)
教材・教具の概要及び使用方法	<p>・iPad の画像をタッチすると、司会の言葉を読み上げます。</p> 		
アイデア・工夫	<p>発語することが難しい生徒が1人で朝の会の司会ができるように作成しました。写真や音声を自由にプログラミングできるアプリを使用し、授業のあいさつや帰りの会なども作成しました。様々な教材を作って共有できるので、学校全体で取り組みたいです。</p>		
製作材料	<p>iPad アプリ(Finger Board Pro)</p>		
児童生徒の様子	<p>最初はタッチする場所が分からず、教師が指差して支援したが、2回目からはタッチする場所を覚えており、教師が次のスライドに送るだけであとは1人で操作できていた。</p>		
備考	<p>爪や指先でタッチしてしまい、反応しないことや連打してしまって音声読み上げが途中で途切れることがあった。爪や指先でのタッチは繰り返すことで改善させ、連打はタッチの設定を変えて対応していく。</p>		


## 教材・教具シート

タイトル	ベンチ椅子	校種	特別支援学校
教科等	自立活動	対象	中学部第2学年 (重複障害学級)
教材・教具の概要及び使用方法	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>児童生徒実態に応じて、マットを好きな色(認識しやすい色)等に変えると、意識や学習意欲も高まります。</p> </div> <p style="text-align: center;">写真のベンチ椅子の大きさは 縦:約70cm 横:約42cm 高:約38cm</p>		
アイデア・工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体幹の保持, 筋力向上, 心肺機能の維持・向上等のための取組を行うために製作しました。</li> <li>・児童生徒の実態に応じて, 後方介助, 抱きかかえ姿勢, 座位姿勢等をとって活動することができます。</li> <li>・児童生徒実態によっては, あぐら座位時等に机としても使用できます。</li> </ul>		
製作材料	<p>ベンチ椅子1台当たりの費用:3500円程度(大きさや製作個数によって増減) ※専用カッター, 専用ボンド代除く</p> <p>&lt;材料&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イレクターパイプ</li> <li>・イレクターパイプ用各種ジョイント</li> <li>・ジョイントマット</li> <li>・合板(0.8~1.2mm厚)</li> <li>・専用パイプカッター</li> <li>・専用液体ボンド</li> <li>・ボルト, ナット類</li> </ul>		
児童生徒の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頭が上がることによって, 覚醒レベルが上がりやすい。</li> <li>・排痰のサポート等を行いやすい。</li> <li>・目線が前になることにより, 興味・関心が高まりやすい。 等々</li> </ul>		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の大きさに応じた任意のサイズで製作することができます。</li> <li>・合板を切る際には, 木工の得意な先生に指南していただくなど, 安全に切りましょう。</li> </ul>		

## 教材・教具シート

タイトル	プットイン教材	校種	特別支援学校
教科等	個人別の課題学習	対象	中学部第3学年 (単一障害学級)
教材・教具の概要及び使用方法			
アイデア・工夫	<p>①プットインするビー玉より少し小さめに穴をあけることによって、押し込む際に抵抗が生まれ、入れた感覚が分かりやすいようにした。</p> <p>②プットインしたビー玉の落下音が小さくなるように、底の部分にフェルトを張り付けた。</p>		
製作材料	プラスチック製タッパー、ビー玉、フェルト		
児童生徒の様子	使い方を理解してからは、プットインする穴をよく見ながらビー玉を押し込む姿が見られた。		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タッパーの蓋に、押し込むための穴をあける際、デザインカッターなどの小さく切れ味の良いものを使ったほうがきれいに仕上がる。</li> <li>・生徒が使用する際にけがをすることがないように、切り抜いた穴のふちの確認を必ずする。</li> </ul>		

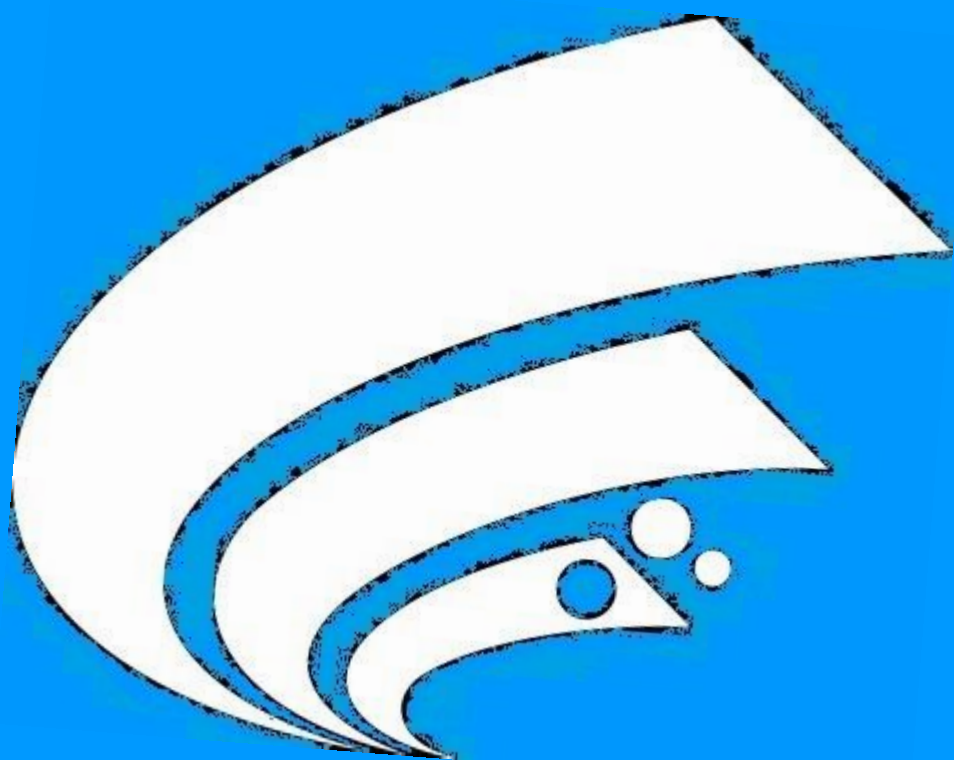
## 教材・教具シート

タイトル	はなまるください	校種	特別支援学校
教科等	日常生活の指導	対象	中学部第3学年 (単一障害学級)
教材・教具の概要及び使用方法			
アイデア・工夫	授業カードを左端にまとめ、活動→トイレ→手洗いがセットで確認できるようにした。活動が終わるにつれ、はなまるカードが増え、達成感を感じられるようにした。		
製作材料	① 色画用紙, ② マジックテープ, ③ ラミネーター, ④ ラミネートシート		
児童生徒の様子	やり方を覚えると、自分でカードを確認しに行ったり、「はなまるください。」と教員に言ったりすることが増えた。		
備考			





小学校(自閉症・情緒障害)  
各教科  
自立活動  
教材・教具





## 授業シート（各教科）



校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	3年
教科	算数科
単元	まるい形を調べよう

### 授業のねらい

球を含む、いろいろなまるい形の物について、真上や真横から見て調べ、どこから見ても円に見えるという球の特徴を理解することができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

図形を様々な方法でイメージする力が弱いため、形をつかませるために、操作活動や断面図を見える化するなどの工夫をした。

#### 【操作活動を用いた学習】



具体物を用意し、実際に操作させながら、図形や立体の特徴をつかみやすくした。

#### 【立体の特徴をつかむ学習】



「真上や真横から見ると～に見える」ことを端的につかませるためには、シルエット化できる装置を作成した。

### 児童・生徒の変容

今回作成した教具は、児童が形に興味をもち、楽しみながら、二人で上手に協力し合いながら学習することに有効であった。

授業の終末で、いろいろな形の身の回りにある物（大小ちがう球や円柱や楕円形の物）を用意し、自分たちで仲間分けをさせたが、「どこから見ても円」の言葉をキーワードに、球とそれ以外の形の物にきれいに分けることができた。

どこから見ても円に見えるという球の特徴をしっかりと理解し、立体の図形への見方を広げることができた。

日常生活の中で、ボール等の身の回りの物を「これは球だ！」などと、形として認識をする発言が見られるようになった。

## 授業シート（各教科）

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	2年
教科	生活科
単元	あしたへジャンプ



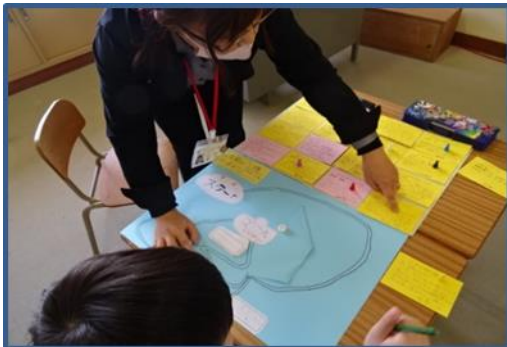
### 授業のねらい

自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考え、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、自分のよさや可能性に気づき、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする事ができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

- 本児が、45分の学習をやり切り、自らの成長に気付くための支援
- 短いスパンで多様な活動を仕組み、本児が興味を持てる「すご六」作りを取り入れた。

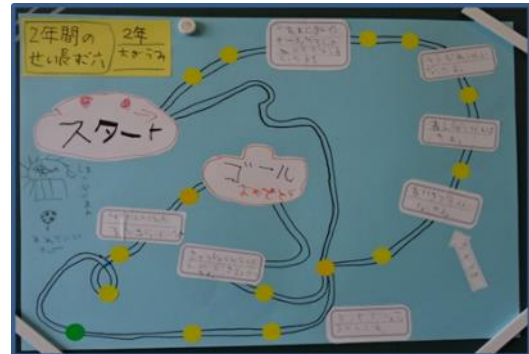
【もらった「すごいね」カードから7枚を選ぶ】



友達や上級生・先生方からもらった「すごいねカード」や「ありがとうカード」は、整理しやすいようセロテープで留め一覧にした。そして、カードを選ぶときに、印となる物を置いた。

14時30分からすご六ができるよう意識させるために、算数セットの時計を机の上に置いた。

【本児が作成した「すご六」】



「見通しを持たせるため」と、「時間内に本時のねらいが達成できる」よう前時に「スタート」と「ゴール」道を書いておいた。

本児の集中力が持続することと時間短縮のため、シールになった枠カード（字を書きやすいよう罫線入り）やコマを進めるための○シールを準備した。

### 児童・生徒の変容

他の児童や先生方が、自分の成長に気付いてくれていることを大変喜び、自己肯定感を高めて、本校でめざす資質・能力の「自信・最後までやり切る力」を発揮することができた。

## 授業シート（各教科）

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	4～6年
教科	算数科
単元	わり算の筆算



### 授業のねらい

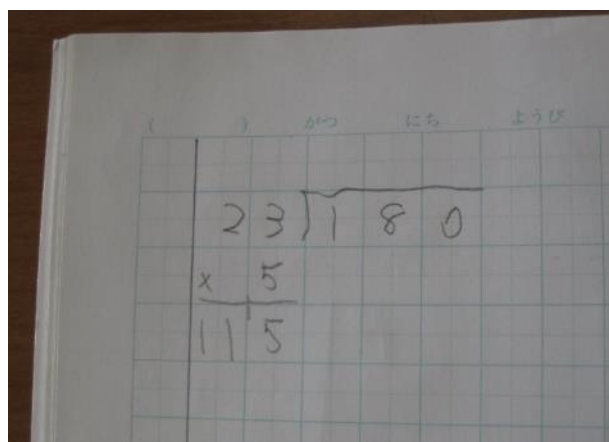
2桁で割るわり算の筆算において、商の見立てをスムーズに行うことができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

商を見立てるにはおよその数の理解や九九の習熟等、見立てのメカニズムに付加要素が関わっているため、商を立てられずやる気をなくしてしまう児童をよく見かける。ストレスなく自信をもって商を見立てることができるようになるために、「5」を基準に商を見立てさせた。

また、筆算の形ではかけるべき割る数と商が離れた位置にあるので、割る数の下に筆算を展開させた。

#### 【最初の見立て】



まずは5を立てて試してみる。  
まだまだたりなさそうだと理解できる。

#### 【最終計算】



大小を見極め、増減することによって正解を導く。

### 児童・生徒の変容

商立てはなかなかの難関で、これまでやる気をなくす児童、固まってしまっている児童もいたが、この方法を取り入れてからは、自信をもって取り組める姿が多く見られる。

児童が取り組みやすい要因として次の3つが効果的だと思われる。  
○まず5を立てることで悩む必要がないこと。



○5 の段は九九の中でも簡単で計算に自信が持ちやすいこと。

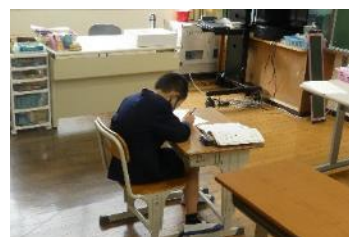
○中央値のため上に振れても下に振れても答えにたどり着きやすいこと。

また、慣れてくれば5から2つとばしや3つとばしでよりスムーズに答えにたどり着いたり、5倍を見越して5以外の数を立てたりすることに至った児童の例も見られた。

いずれにしても、苦手な算数で「このやり方ならできる!」という切り札を持たせてやることは、学習のモチベーションを大幅に上げることができると思う。

## 授業シート（各教科）

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	3年
教科	算数科
単元	かけ算の筆算



### 授業のねらい

2位数×1位数（部分積を加えたときに繰り上がりあり）の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

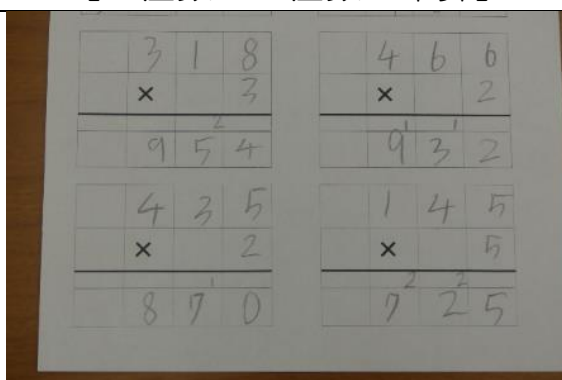
ワークシートでかけ算の筆算を計算するようにした。繰り上がった数を書く欄を作り、各位の数と区別して書くことで、計算の仕方が理解できるようにした。

#### 【かけ算の筆算の手順】



筆算の仕方が分かるよう、計算手順をカードに示し、確認しながら計算できるようにした。

#### 【3位数×1位数の筆算】



繰り上がりの数を書くスペースを加えて、答えの数と繰り上がりの数を区別して計算させた。

### 児童・生徒の変容

はじめは、筆算の計算をすることに意欲がなかった児童が、計算の手順を示すことで、筆算に取り組もうとするようになった。

繰り上がりの数を書くスペースを加えて、計算させることで、答えの数と繰り上がりの数を区別して計算することができた。

計算できるようになると、3位数×1位数の筆算も意欲的に取り組むことができた。

## 授業シート（各教科）

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	6年
教科	算数科
単元	対称な図形 つり合いのとれた図形を調べよう

### 授業のねらい

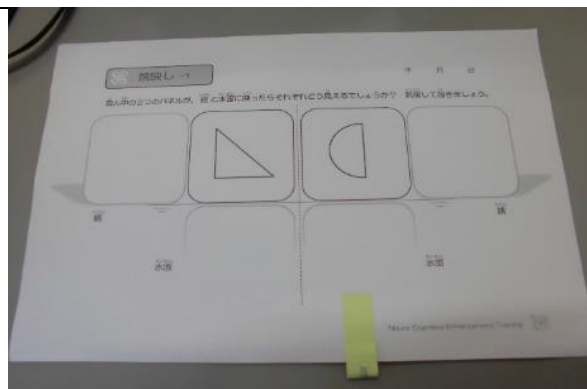
線対称・点対称な図形の意味や性質について理解し、線対称・点対称な図形を書くことができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

授業のポイントは、「スモールステップで楽しみながら書く」ことである。はじめに「コグトレプリント：鏡写し」を5分程度行い、線対称・点対称のイメージを持たせ、点と点を直線で結ぶ「点つなぎ」を行い定規を使った書き方に慣れさせた。

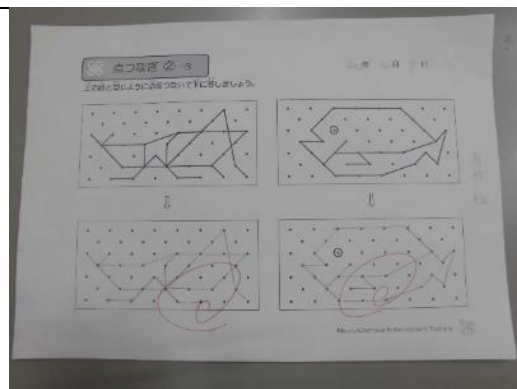
（引用「コグトレ～みる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング～  
宮口幸治 著 三輪書店」）

#### 【 鏡写し 】



「真ん中の2つのパネルが、鏡と水面に映ったらそれぞれどう見えるでしょうか？想像して描きましょう。」と書かれている。生活体験から繰り返しイメージさせた。

#### 【 点つなぎ 】



「上の絵と同じように点をつないで下に移しましょう。」書かれている。上と下を見比べながら点を決定して、直線で結ぶ作業もスモールステップの一つ。

### 児童・生徒の変容

はじめは、線対称をイメージすることも難しく、書くこともできなかった。

そこで授業はじめに「鏡写し」をフリーハンドでさっと書かせ、「点つなぎ」で定規の使い方や点の取り方を予習し、「鏡写し」や「点つなぎ」を確実にやり、線対称・点対称の理解が進む中で、点つなぎは好きになり、鏡写しは正答率が高くなっていった。

結局、線対称・点対称を一人で書けるようになったが、時間が空くと点対称を書くことは厳しい。

## 授業シート（各教科）

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1年
教科	国語科
単元	おとうとねずみ ち口



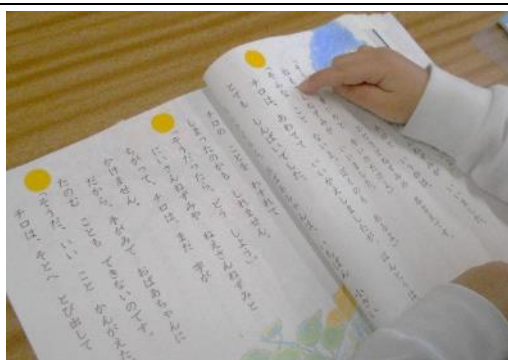
### 授業のねらい

人物の様子が分かる言葉から、人物の様子や気持ちの想像を広げ、その人物になった気持ちで、会話文の音読の仕方や動作を考えることができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

授業のポイントは、人物になりきって音読をすることである。会話文を工夫して音読するために、どんな声で読んだらよいかを考え、音読の工夫を視覚化して教室内に掲示した。

#### 【 教材文の焦点化 】



主人公の会話文が見つけやすいように、カラーシールを活用して焦点化し、視覚支援を行った。

#### 【 音読劇 】



人物になりきり、声の出し方や動作を工夫しながら、会話文を音読できるように、音読劇の活動を設定した。

### 児童・生徒の変容

音読する会話部分を焦点化することで、全文を目で追うことが難しい児童もカラーシールを目印にして、自分で音読することができるようになった。人物になりきって音読の工夫を考える際に、はじめは声の大きさや強弱、声の雰囲気、動作で表現していたが、学習が進むにつれて、表情でも表現できることに気付いていた。音読劇の活動を設定し、お互いに聞き合うことで、工夫した音読を豊かに表現できたとともに、友達の表現の良さを認めることができるようになった。



## 授業シート（各教科）

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	3年・5年・6年
教科	国語科
単元	落語の門をたたこう！



### 授業のねらい

- 我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。
- 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いたり自分の考えを広げたりすることができる。
- 国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

- 落語には話の面白さに加え、独特の語り口調や言い回しなどがあることに気付かせ、親しみを感じ取らせる。
- 自分たちも声に出して読むことで、それぞれの個性的な話しぶりや歯切れのよい、はっきりした話しぶりなどを工夫することで、音読の幅を広げる。
- OCDやDVD等を活用したり、個に応じたワークシートを準備したり、学習意欲が持続するよう工夫する。
- 発表の場を設定し自分たちの力で活動できるように的確に支援し、自分たちでやり遂げた達成感を味わわせる。

#### 【導入の工夫】

#### 【場面の様子・内容の大体をつかむために】



DVDを活用し、「落語」への親しみを持つとともに、週末に設定している「落語会」に向けての意欲を持たせる。また、音読の仕方（声の強弱、言葉の明瞭さ等）を意識させ、一人一人の目標に応じて、音読練習に取り組むよう意欲付けを図る。

場面の様子や内容の大体をつかむことができるように全文を掲示し、イラストを用いて示していった。誰のセリフであるかを明確にすることで内容の把握、掛け合いの面白さなどを児童が感じることができた。音読発表への自信をもつことができた。

### 児童・生徒の変容

○3年生は、「我が国の言語文化に親しみ理解する」「文章を読んで感じたことや考えたことを共有する」「思いや考えを伝え合おうとする」を目標にしていた。落語の学習は初めてだが、単元末に発表会を設定し役割分担をすることで張り切って学習に取り組むことができた。また、全文掲示することで、今やっているのが誰の、どういう役割のセリフなのか等、捉えながら学習に取り組む、自分の意見も友達に伝えようとしていた。

○5年生は、特に「文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いたり、自分の考えを広げたりすることができる。」「国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度」に力点を置いた。DVDの視聴や、全文掲示を通して、内容の面白さをとらえ、感想を積極的に言葉で伝えたり、表現の工夫に活かしたりすることができた。友達に伝える姿も見られた。また、友達の表現の良さを、みんなに伝えたり、自分の表現に取り入れたりして活かす場面も見られた。



○6年生は、「文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いたり、自分の考えを広げたりする」「国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う」ことを重点目標とした。学習の中で、自分の感じた面白さを友達に伝えたり、それを声に表したりして、豊かに表現することができた。友達の感想も、本人の自信につながった。

○週末に「落語会」を設定することで、学級の学習意欲が高まり、内容の読みを深まるなど、発表会への意欲付けとなった。児童の学年も、実態も異なるため、それぞれの目標を明確にしながら、学習を進めてきた。発表会は参観日をあてて、保護者の方に聞いていただくことができた。その際、名前に関わる内容だったため、保護者の方から、各児童の名前に込められた思いを伝えていただいたことも、内容の理解をさらに深めることにつながったと考える。

○内容を読むことの面白さ、表現することの楽しさを実感することができ、その後の国語科の学習につながっている。今後も教材を工夫することで学習への意欲を高めていきたい。

## 授業シート（各教科）

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	2学年
教科	算数科
単元	「新しい計算を考えよう（かけ算） ～さあ秋祭りのじゅんびだ！めざせ！九九達人～」

### 授業のねらい

被乗数，乗数の意味を理解し，数量の關係に着目し，乗法の用いられる場面をとらえ，言葉や式で説明できる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

- 乗法が用いられる場面を絵や図，言葉，式で表して，かけ算の式の意味をしっかりと理解させる。
- 「楽しそう！やってみたい！」といった意欲が高まるように，児童が興味をもつような問題にした。
- 視覚的に分かりやすい課題提示をし，作業（活動）を取り入れた学習を仕組み，他者と学び合いながら，意欲適に学習に取り組めるようにした。

#### 【算数科ワークシート】



問題場面ごとに色を変えて，ワークシートを作成した。児童は，どこが違うか比較しながら問題を正確に解くことができた。

#### 【式と絵カードのマッチング】



式に合う絵はどれか考えることで，問題の意味を理解しながら，式・絵・図をつなげることができた。

### 児童・生徒の変容

授業導入時より，（一つ分の数）（いくつ分の数）に，力点をおいて授業を進めることができた。授業者が意識することで，児童にもそれが伝わり，言葉にこだわり，式と言葉，図や絵などを一致させながら理解を深めることができた。かけ算九九を利用して，物の数を数える等，生活の中に活かすことができてきた。

また，文章題を読んでイメージをつかむために，図や絵にかいて問題を解決することができた。

## 授業シート（各教科）

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	3・4・5学年
教科	算数科
単元	「分数をくわしく調べよう ～大きさをくらべゲームをしよう～」

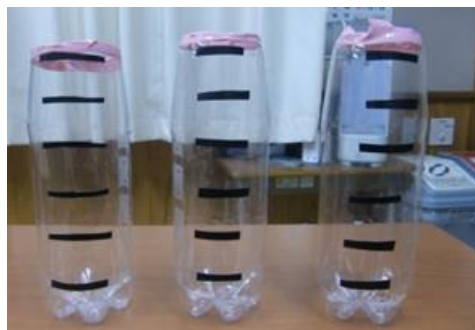
### 授業のねらい

<p>第3学年：端数部分などを表すのに分数を用いることを知り，分数の意味や表し方を理解する。また，同分母分数の加減計算ができる。</p> <p>第4学年：分数の意味や表し方についての理解を深め，1より大きい同分母分数の加減計算ができる。</p> <p>第5学年：約分や通分の意味とその仕方を理解し，異分母分数の加減計算ができる。</p>
--

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

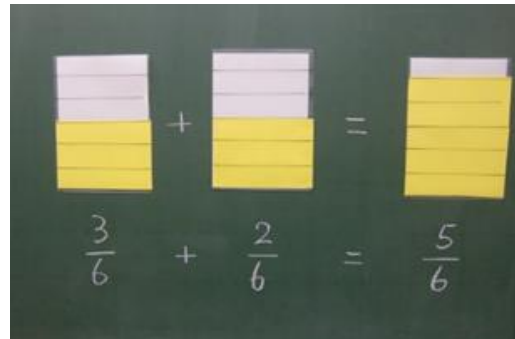
- 全員で単元の始めに色々な分母の分数のカードで大きさ比べゲームをして，大きさを比べることができないことから課題を発見させる。
- 5年生が，3・4年生の学習の手伝いをしたり，分かりやすく説明したりすることで，理解を深めさせる。

#### 【1/6 に区切った1Lます】



1Lますを1/6に区切った教具を活用することで，分数を視覚的にとらえられるようにした。

#### 【クリアファイルを使って分数を視覚化】



クリアファイルを活用した教具を活用することで分数のたし算の意味を視覚的に理解させるようにした。

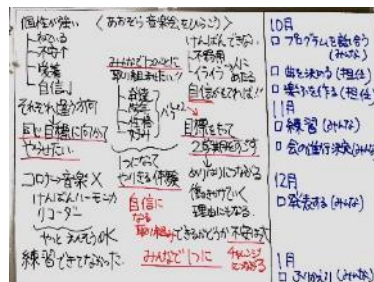
### 児童・生徒の変容

実際に色水を使って量を測ったり，クリアファイルを使って分数を視覚化したりすることで，分数の計算は1/〇の何個分かで考えるとわかりやすいということを実感をもって理解することができた。

異学年で学習することで，3年生の学習を5年生が手伝ったり，5年生も3年生の問題をヒントに，答えを導きだしたりすることができた。

# 授業シート（自立活動）

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1・3・4・6年
6区分27項目	2（1）3（1）（2）（3）（4）
単元名	「あおぞらチャレンジ」 ～みんなで作る ぼくらの音楽～



<b>単元のねらい</b>	
○自分について考え、よりよく人と関わることができる。 ○自分の感情や衝動をコントロールすることができる。 ○みんなで協力して、1つのことをやり遂げる。	

<b>単元のポイント 及び ねらいにせまる工夫点</b>	
ゴールを「3学期の参観日に笑顔で合奏の発表ができる」と設定し、そのゴールに向けて、どんな事が必要なのか考えさせていく。自分に必要なことだけでなく、同じ目標に向かって集団の視点でも考えさせる。お互いにカバーし合う、教え合う、協力する、自分の精一杯で取り組むなど、演奏の技能ではない面に目を向けていけるように声をかける。自分の演奏スキルを友達への助けに使っている実感、一生懸命取り組んでいる自分への信頼感、協力して一つの事に取り組む達成感など、人間関係の形成に欠かせない視点を大切にしながら、どの児童も安心して自己表現できる学習の場を提供できるように考えた。	

【ルーティンの活動で安心な場作り】	【認めあうための話し合い活動】
自立活動の流れは、ルーティンとして決めている。そのため、児童は見通しをもって取り組むことができる。 ①コグトレ②マインドフルネス ③今日の活動④ふりかえり ※写真は、コグトレを行っている場面。	毎回、個々の目標を自分の言葉で決める。その目標を意識して1時間の活動に取り組む。また、児童の発言した言葉は、板書、ホワイトボード等に残していくことで「認められている」という実感をもたせる。また“どんな意見もお互いに大切にできる普段の人間関係作り”を重視している。

<b>児童・生徒の変容</b>	
どのような活動の中でも、自立活動としてのねらいを個々に設定し、意識して取り組んでいくことで、児童の変容がみられると考えている。この学習の中では、合奏という形態を取りながらも、器楽の練習ではなく、協力や自己コントロールなどの課題を設定した。躰いたら話し合うという活動を繰り返しながら、児童はそれぞれに自分の課題と向き合っていた。それは、日々の生活のなかでも活かされていると感じている。	



## 授業シート（自立活動）

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	2・3・5年
6区分27項目	1（4・5）2（1）3（3）4（2）5（2・5）
単元名	「あおぞらチャレンジ」 ～自分発見大作戦～



### 単元のねらい

- 自分について考え、よりよく人と関わることができる。
- 自分の感情や衝動をコントロールすることができる。
- 日常生活において自己の心と体の健康管理を意識する。

### 単元のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

『こころのスキルアップ教育（大野裕）』を参考に、認知行動療法的なプログラムに取り組んだ。自分の気分はその時の考えに影響を受けていることが分かり、しなやかな考え方を身につけていくこと（認知再構成法）をねらいとした。また、問題解決のスキル、気持ちのコントロール（アンガーマネージメント）の仕方、コミュニケーションのスキルなども一緒に学べるように構成した。自分の課題について具体的に解決したり、よりよいコミュニケーションの方法を身につけたりできる内容を考えて。

#### 【理解しやすいキャラクター設定】



なじみやすい  
キャラクターの挿絵

怒りの感情を「イカリング」というキャラクターとして設定した。その他にも、児童がなじみやすいキャラクターが教室にはたくさん設定している。

#### 【自分に置き換えて考える工夫】



付箋に自分の考えを書き、みんなで一枚の「なやまかいけつシート」にまとめた。悩みをみんなで解決していくという視点は、お互いを理解し合ったり、自分のこととしても考えたりすることにつながった。

### 児童・生徒の変容

認知行動療法など、心理学的な視点を自立活動に取り入れることは、とても重要だと考えている。また、それを、児童が理解しやすい形にしていくこと、自分の事として考えることを大切にしている。特に小学校の現場では、年齢、発達の幅が広く、みんなが同じレベルで理解することは難しい。適切なアセスメントを基にした個々の目標を本人が自覚して学習することで、それぞれの成長が見られると考える。そのためにも、常にキャリアの視点をもって学習に臨んでいる。そのこともまた、1人1人の変容につながっていると感じている。



## 授業シート（自立活動）

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	2年
6区分27項目	2（1）, 3（1）, 6（1）（2）（5）
単元名	みんなで楽しく協力！ ～めざせ玉ころがし名人～



### 単元のねらい

ルールを守り、友達の良いところを見つけ、言葉で励ましたり、楽しくゲームをしたりすることができる。

### 単元のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

友達への適切な声かけを「キラキラことば」とし、事前に全体で重点的に学習した。その後、声に出すことができた際は全体の前で評価した。繰り返すことで前向きな言葉が多く見られるようになった。

#### 【視覚支援】



なかなか集合することが難しい児童たちだが、ラバー円盤を置くことで、スムーズに座ることができた。板書で、「授業の流れ」「ルール」「キラキラことば」の掲示をすることにより、全体像が掴めた上に、声かけの際の言葉も出やすくなった。

#### 【肯定的評価】



チーム内で励まし合って良い声かけが多く出た。その結果、多くのピンを倒すことに成功した際チーム内で喜びを共有し、表現できていた。また、授業の最後に表彰式を設け、一人一人に肯定的評価と共に金メダルを手渡すことで全員が笑顔で終わることができた。

### 児童・生徒の変容

参加意欲が低い児童もいる中、ルールを全員で考えて決めることができた。「人の話を静かに聞くこと」に課題はあるが、内容を板書しておくことで気にして見るようになった。また、「キラキラことば」を日常生活でも使っている場面が多々見受けられるようになっている。

## 授業シート（自立活動）

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	4～6年
6区分27項目	2(2), 3(3), 6(5)
単元名	仲良く楽しく神経衰弱！



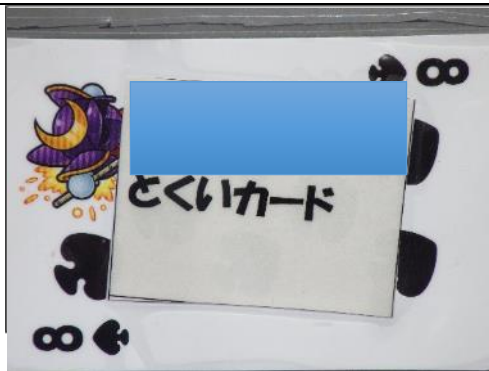
### 単元のねらい

ゲームのルールやみんなで活動するときの約束を守り、友達と仲良く楽しく活動することができる。

### 単元のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

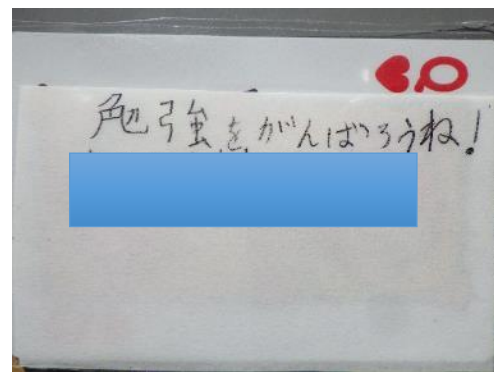
それぞれの児童が得意なものをもっている。それらをクイズ形式にして課題を出すことを通して、学級で共有し本人の自己肯定感を高めていく。

#### 【グループづくり】



それぞれの児童が得意なものをもっている。それらをクイズ形式にして課題を出すことを通して、学級で共有し本人の自己肯定感を高めていった。

#### 【必然性のあるグループ討議】



学習の流れを表示することによって、児童が見通しをもち、落ち着いて学習に取り組むことができた。

### 児童・生徒の変容

友達が課題を解決している時に、「がんばって。」「すごいね。」と言ったような友達を称賛したり、応援したりする言葉が出てきた時には、肯定的評価をしていた。また、子どもたちが関わり合えるような課題を出し、コミュニケーションの場を与えたため、日々の生活でも相手の立場を考えた発言が少しずつ見られるようになった。

## 授業シート（自立活動）

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1年，3年，4年，5年，6年
6区分27項目	3（3）（4），5（5）
単元名	みんなで協力してお楽しみ会をしよう

### 単元のねらい

同じ係の友達と話し合ったり共同作業したりすることを通して、コミュニケーション能力を高めることができる。

### 単元のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

異学年交流の係をつくり，共同作業をさせた。

#### 【司会係の進行】



進行をするにあたり，自分たちで原稿や分担を考えさせた。低学年の児童が原稿を書くのに困ったときは高学年が書き方を教えることで，低学年の児童も自信をもって司会をすることができた。

#### 【飾り係による掲示】



高学年が中心となって，どんな飾りがよいか話し合い，製作した。花紙や折り紙，画用紙等を使い，季節や雰囲気合った飾りを作ることができた。複雑な工程がある作業は高学年が手本を見せながら進めることで，低学年の児童たちも作り上げることができ，全員が達成感を味わうことができた。

### 児童・生徒の変容

係で活動する中で，自分の意見を通そうとする児童が見られたが，話し合ったり活動したりする中で，相手のことを受け入れることができるようになった。発表がある児童は何度も練習して本番に臨み，自信を高めることができた。

## 授業シート（自立活動）

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1年・3年
6区分27項目	2(2)(3), 3(1)(2), 6(1)(2)(5)
単元名	こんなときどうするの

### 単元のねらい

他人の気持ちを考えたうえで自分の意見を言ったり, 話を聞いたりする活動を通して, コミュニケーション能力を高めることができる。

### 単元のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

学級の中でよくあるトラブルに似た映像を見せることで, 自分の行動を客観的に捉えることができるようにした。

#### 【授業風景】



思いやりの心が持てることをねらって, 3年生と1年生でペアを組んで活動させた。

#### 【板書】



DVDの中に出てきた, プラスの言葉・マイナスの言葉を取り上げて, その理由を対比させることで, 自分たちが目指すべき声掛け・行動について考えられるようにした。

### 児童・生徒の変容

最初は緊張していたが, 「自分ならどうするかペアで話し合ってください」といって, 3年生は1年生の意見を「それは〇〇ってこと?」とやさしく聞き返したり, 1年生は3年生の意見を「すごく良い意見だね。」と肯定的に評価したりする中で, お互いが気持ちよく授業に臨むことができた。

ペア活動に対しては当初, 否定的な児童が多かったが, 授業の中での意見を否定せず受け取ることを続けているうち, 「自分は受け入れられている。」という安心感が高まり, 「またしたい」と前向きな発言をするようになっていった。それまで頻発していた3年生による1年生への威圧的な言動や態度が少なくなっている。



## 授業シート（自立活動）

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1, 2, 3, 4, 6 学年
6区分27項目	2(1), 3(4), 6(5)
単元名	ひまわりの大冒険



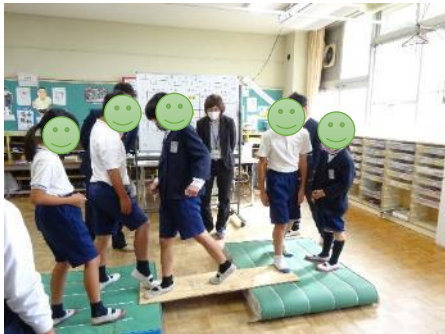
### 単元のねらい

友達と協力しながらゲームのルールを守って楽しく活動することができる。作戦や改善点・友達の良かったところなどを自分に合った方法で相手に伝えることができる。

### 単元のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

成功体験が味わえ、協力しないとできないような活動をしていき、成功体験を積み自らへの自信を高めていきたい。また、その要因を振り返ることで、協力の大切さや人を信頼すること、コミュニケーションをとることの大切さに気付かせたい。

#### 【協力が必要な活動】



「しまなみ海道わたり」の活動をし、ルールを守り、グループで話し合ったり教え合ったりして全員が協力してゲームに取り組んでいる。

#### 【協力や信頼への気づき】



成功した要因を考える中で、友達や自分の頑張りを認め合うことで、自己肯定感を高め、協力や、友達を信頼することの大切さに気付くように振り返りを行う。

### 児童・生徒の変容

「一生懸命に」「公平に」「心も体も安全に」「楽しく」の4つの約束や活動のルールを守り、目標に向かって活動していった。途中、機嫌が悪くなった児童もいるが、6年生がリードし、一人一人が懸命に活動した。途中参加できなくなっていた児童も、みんなからの声かけもあり、無事渡りきることができた。成功体験を味わい、自らへの自信を高めるとともに、協力の大切さや人を信頼することの大切さに気付くことができた。



## 授業シート（自立活動）

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1，3年
6区分27項目	3(1)(4)，6(1)
単元名	「わくわくすごろく」で なかよくあそぼう！



### 単元のねらい

ルールを守り，友達と関わり合いながら楽しく活動することができる。

### 単元のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

主体的に学ぶことができるように，楽しく遊ぶためのルールを話し合わせたり，一人一人にめあてを持たせたりした。また，学級集団を作るために，関わり合う場面を意図的に設定した。

#### 【一人一人にめあてを持たせる】



本時のゴールを達成するために自分が頑張ることを一人一人に決めさせ，振り返りを行った。活動前に自分のめあてを明確にしたことにより，めあてを意識して活動することができた。

#### 【関わり合う場面の設定】



「わくわくすごろく」では，「しれい」のマスに止まると，カードの指令に従って隣の人とじゃんけんをするなど，友達と関わる場面を意図的に設定した。

### 児童・生徒の変容

1年生が入学してすぐに臨時休業になり，学級の友達と一緒に遊んだり，関わり合ったりする経験が少なく，まだ人間関係が十分作れていない状況であった。しかし，すごろくの「しれい」のマスで友達と関わったり，「こんなときどうする？」のマスで，困った場面での解決策を一緒に考えたりすることを通して，友達と楽しく遊んだり，1年生が困っているときには3年生が手伝ってあげたりすることができるようになった。

## 授業シート（自立活動）

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	4～6年
6区分27項目	3（2）, 4（5）, 5（5）
単元名	身の回りを整とんしよう



### 単元のねらい

- 身の回りの整頓を進んで行うことができる。
- 自分の整頓だけではなく、他者に声をかけたり、協力したりすることができる。

### 単元のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

- 「身の回りを整とんしよう」の学習後に意識向上や定着に向けて取り組んだ。

#### 【今日はどっち？カード】



赤のカードと緑のカードを提示し、児童に全体を見て相互に評価できるようにする。

評価の指標として、ロッカーにレッドカード・イエローカードを指導者が提示する。

#### 【振り返り・評価カード】



一日の振り返りの中で、整頓についての評価を◎, ○, △, ×で記入しそれぞれ点数で表す。

月の合計ポイントにより、学級全体でショートタイムでのお楽しみ会などする。

### 児童・生徒の変容

- 整頓への意識化・共有化を図ることができた。自分だけでなく、他者の様子にも気づき、自然と声掛けをする姿が見られた。
- ロッカーの整頓だけでなく、机の中や使ったものの後始末などに気を付け、声掛けをする姿が見られた。

## 授業シート（自立活動）

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1・3・4・5・6学年
6区分27項目	3(3)(4), 6(5)
単元名	みんなで作ろう2



### 単元のねらい

いろいろな課題をクリアすることで達成感を持たせることを通して、主体的に活動していく力を育成する。

### 単元のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

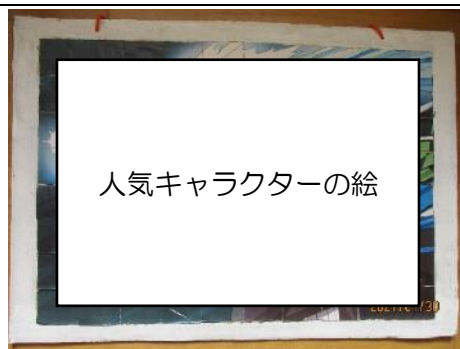
課題をクリアするたびにパズルのピースをもらうことができ、だんだんパズルができあがっていくことで意欲を継続し最後まで活動に参加できるように工夫した。

#### 【課題に取り組む様子】



「課題に取り組むところ」「採点してもらおうところ」「パズルのピースと次の課題をもらおうところ」の場所を分けてスムーズに活動ができるようにした。

#### 【完成したパズル】



できるだけ多くの児童が興味を持つことができるキャラクターのパズルを準備して、意欲を継続させることができるようにした。

### 児童・生徒の変容

半分ぐらいできたあたりから何の絵なのか分かってきたが、あいたピースを早く仕上げることに盛り上がりを見せた。

自分の問題をやり終えてしまった高学年の児童は、低学年の問題を手伝いやパズルを並べる手伝いをするなど主体的に活動する場面が見られた。

最後まで活動に参加することができ、自己肯定感を感じている児童も見られた。

## 教材・教具シート

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	2年
教科	算数科
単元	引き算の筆算

### 教材・教具の意図

視覚的支援として、アニメーションなどの動きを取り入れている。

### 【教材・教具の様子】

31 - 12 =

1 - 2 = ?

1 - 2 がダメなら  
2 - 1 をしちゃえ!

1 - 2 がダメでも  
2 - 1 をしてはいけません!

ぼくがたすけてあげるよ!

へんしん!

31 - 12 = 19

### 児童・生徒の様子，変容

アニメーションを交えて授業を進めることで、集中力も持続し、意欲的に授業に臨むことができるようになった。

また、計算が苦手な子ども、お金に変換して計算することで、繰り上がりや繰り下がりを理解することができ、その後の大きな数の計算にもつながっている。




## 教材・教具シート

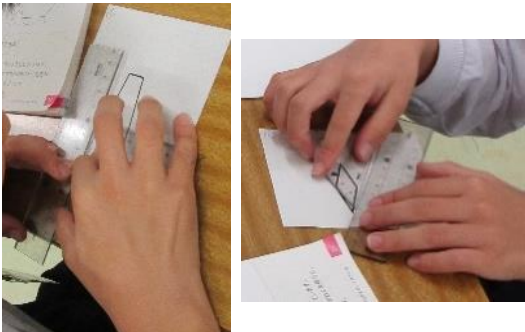
校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	4年
教科	算数科
単元	垂直・平行と四角形

### 教材・教具の意図

垂直や平行な直線のかき方が混乱して苦手な児童のヒントカードとして、直定規と三角定規を使った手順表を考えた。覚えやすいように「ヨットの形」にすることや、かく時のポイントを視覚的にわかるように工夫した。板書用と児童用を作成し、支援の必要に応じて使えるようにした。

【教材・教具の様子】	【作り方・使い方】
	<p>☆固定する方は、直定規 ☆動かすほうは、三角定規</p> <p>〈垂直な直線のひき方〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① はじめの直線に、直定規を合わせる。</li> <li>② ヨットの形になるように三角定規の直角のある辺をぴったり合わせる。</li> <li>③ 三角定規を動かす。</li> </ol> <p>〈平行な直線のひき方〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① はじめの直線に、三角定規を合わせる。</li> <li>② 直定規をぴったり合わせる。（ヨットの形でなくても大丈夫）</li> <li>③ 三角定規を動かす。</li> </ol>
【材料・道具】	
ラミネート	使い方が視覚的にわかるように、パソコンで作成したものをラミネートする。

### 児童・生徒の様子，変容

	<p>三角定規1組を使って作図していた時には、どちらを固定して、どう動かしたらよいか混乱していたが、直定規と三角定規を使うことで、とてもスムーズに作図することができるようになった。また、児童用の手順表を机わきに掛けておくことで、困った時に、自分ですぐ確認しながら作図することができた。</p>
---	--



## 教材・教具シート

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1～6年
教科	自立活動
単元	遊び方を工夫しよう ～ホッケーゲーム～

### 教材・教具の意図

卓上用のホッケーゲームを床面で行えるように、側面の壁を作成した。遊ぶ人数や学年によって、ゴールの幅を広げたり狭めたりすることができるようにした。

#### 【教材・教具の様子】



#### 【材料・道具】

木材  
ホットボンド  
ノコギリ

#### 【作り方・遊び方】

##### 【作り方】

側面用の木材は長さ 150 センチ・幅 13.5 センチ・厚さ 2 センチ。上底 4センチ・下底 10 センチ・厚さ 2センチの台形を脚部とする。側面用の木材の両端から 10 センチの所に、ノコギリで幅 2センチ・高さ 3センチの切れ込みを入れる。脚部の台形の上部中央に同様の切れ込みを入れる。側面の切れ込みと脚部の切れ込みを接続し、ホットボンドで接着部分を補強する。

##### 【遊び方】

ホッケーゲームの側面として使う。また、ゴールの目安にもなる。

### 児童・生徒の様子，変容



遊ぶ人数や相手によって壁の広さを調整したり、その他のルールを考えたり、どうすればみんなが楽しめるかを、自分たちで考えるようになった。

## 教材・教具シート

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	4年
教科	図画工作科・自立活動
単元	計画したことを形に ～ダンボールでガチャを作ろう～



図工室に作品を掲示

### 教材・教具の意図

児童と自分が取り組んでみたいことを話し合い、ダンボール工作と決めた。インターネットを使って、作りたいものを探し、ダンボールで作るガチャと決める。自分でやってみたいことを決めることで登校意欲を高めると共に、ガチャに入れるものをおみくじにすることで友だちと一緒に楽しむ機会を作ることができるものにした。

### 【教材・教具の様子】



製作の様子



ダンボールガチャ完成

### 【材料・道具】

ダンボール、カプセル、紙、アクリル板（100均のファイル入れ）、ホットボンド、カッター、ものさし、鉛筆

### 【作り方・遊び方】

- ① インターネットから自分が作ってみたいガチャを決める。
- ② 設計図（教師が作る）をもとに、ものさしを使って、ダンボールに必要な部品を描く。
- ③ カッターとものさしを使って、ダンボールを切っていく。  
（カッターの使い方を指導）
- ④ ホットボンドをつかって、作る順番を確認しながら、接着していく。
- ⑤ カプセルの中身のおみくじを作りおみくじをカプセルの中に入れてガチャに投入し完成。

### 児童・生徒の様子、変容



校長先生に作品紹介

○最初カッターが怖くて使えなかったが、やり方を見せたり、ダンボールに先に切れ目を入れたりして、少しずつ慣れさせ、自分で使えるようになった。（いろいろな道具になれることができた。）

○知的障害学級の児童が作品に興味をもって、一緒に遊ばせてほしいと本人と話をし、一緒に遊ぶことができた。また、校長先生に作品を紹介することができた。

○その後、知的障害学級の児童と一緒にクッキングやいもほりなどの活動を一緒にできるようになり、交流を持てるようになった。

## 教材・教具シート

校種（種別）	小学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	5年
教科	算数科
単元	面積の求め方を考えよう

### 教材・教具の意図

面積の学習において、三角形や平行四辺形の面積は、高さと底辺が等しければどんな形でも等しくなることを理解させるために作成した。

【教材・教具の様子】	【作り方・遊び方】
	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 工作用紙を2まい壁に貼る。</li> <li>② 底辺を数え棒より少し短い長さの場所に押しピンを差す。</li> <li>③ 数え棒を押しピンの上に置く。</li> <li>④ 輪ゴムを押しピンの所にかける。</li> </ol> <p>※輪ゴムを動かして三角形や平行四辺形に形を変えて調べることができる。見た目の広さと実際の広さを工作用紙が下にあるので、マス目を数えて調べる。</p>
【材料・道具】	
工作用紙 輪ゴム 押しピン 数え棒	

### 児童・生徒の様子，変容

	<p>児童が自分で輪ゴムを動かして形を変えながら面積について数学的活動を行うことができた。</p> <p>見た目では、どちらが広いのかわかりにくいものがあることが分かった。</p>
--	--

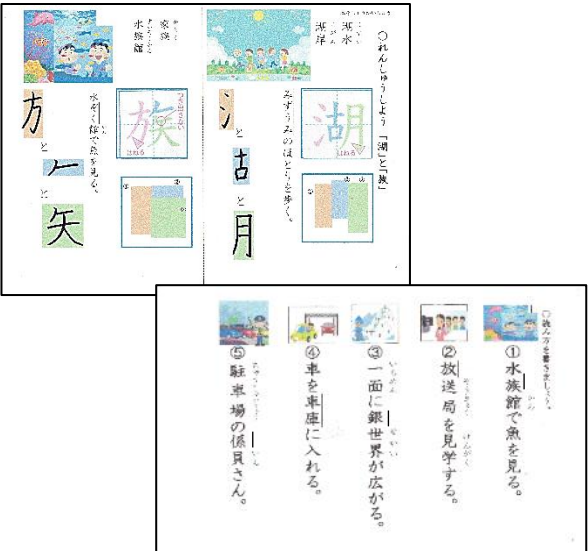
## 教材・教具シート

校種（種別）	小学校(自閉症・情緒障害)
対象学年	3年
教科	国語科
単元	「漢字ワーク・読み・書き」

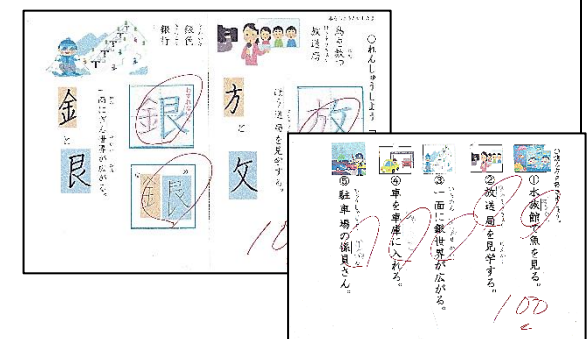
### 教材・教具の意図

○識字が苦手なため、漢字が覚えられないため、医師や作業療法士の話や保護者と相談しながら、漢字のつくりが理解できるドリルを制作した。

○漢字が読めるようになることに目標を焦点化し、制作した。

【教材・教具の様子】	【作り方・遊び方】
	<ol style="list-style-type: none"> <li>① パソコンで、漢字ドリルの色付の漢字をスキャナーで取り込んだものを貼り付ける。</li> <li>② 漢字を2～3パーツに色分けした口を2か所に分けて貼る。 (漢字の全体像がわかるものとパーツに分けたもの)</li> <li>③ 漢字を使った熟語や例文を書きこむ。</li> <li>④ 例文に合うフリー画像をインターネットで探し、貼り付ける。</li> <li>⑤ 印刷後に、色分けした口に文字のパーツを書き加える。</li> </ol> <p>【使い方】 漢字を5個ぐらい練習したら、イラストと例文を使った問題をして漢字の定着を見取る。</p>
<p>【材料・道具】</p>	
<p>漢字ドリル（色付の漢字） フリー画像（例文に適した画像） ペン</p>	

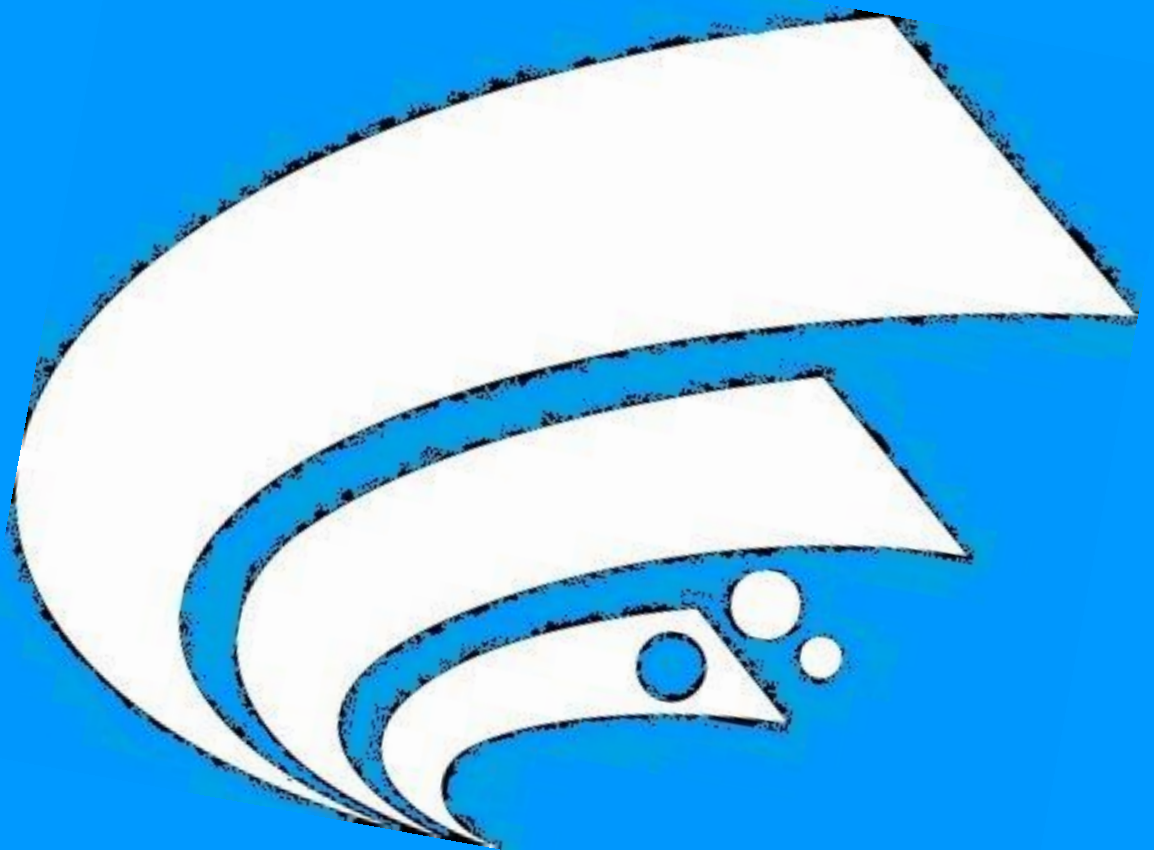
### 児童・生徒の様子、変容

	<p>他の方法では、漢字の理解が難しかったが、文字の練習数が少ないために記憶量が少なくても覚えやすく、色でパーツ分けされているので、漢字のつくりが理解しやすい。</p> <p>少しずつ読めるようになり、そのことが児童の自信につながって「書く」意欲の高まりも見られるようになった。</p>
---	---





中学校(自閉症・情緒障害)  
各教科  
自立活動  
教材・教具





## 授業シート（各教科）

校種（種別）	中学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1年
教科	国語科・英語科
単元	ローマ字を覚えよう

### 授業のねらい

自分の読みたい本をパソコンでローマ字入力することを通して、ローマ字表を見ずに調べることができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

いろいろな言葉を知るために、自分の興味・関心のある本をパソコンの検索で調べさせた。この学習でパソコン入力を通して、アルファベットとローマ字をリンクさせ、50音のローマ字を覚えることをポイントにして取り組んでいる。

#### 【図でタッチタイピングを覚えよう】



タッチタイピングの図を提示して、1字1字を見ながら、入力した英語文字が正確に変換されるようにアルファベットの場所の位置を見つけることができるように支援した。

#### 【表を活用して覚えよう】



表を提示して、自らが見て入力した。分からない場面ではローマ字のスペルとアルファベットが一致するように視覚支援と発音支援を行い、分からなかったローマ字を覚えることができた。

### 児童・生徒の変容

はじめは、ローマ字入力で1字1字ローマ字表を見ながら入力していたが、英語のスペルを発音する支援を繰り返すことで、ローマ字の文字とひらがなが一致するようになり、ローマ字を理解できるようになった。

また、50音だけでなく、濁音・半濁音・拗音・促音などの表記の仕方を質問するなどいろいろな言葉をローマ字で表記することに興味を持つようになった。

## 授業シート（各教科）

校種（種別）	中学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1年
教科	国語科
単元	表現プラザ 変わり身の上話（創作）



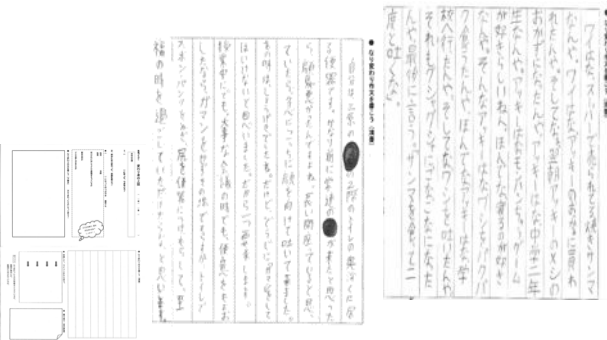
### 授業のねらい

自分以外のものになり変わり、その視点から見える世界や思いを、独白のように書くことができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

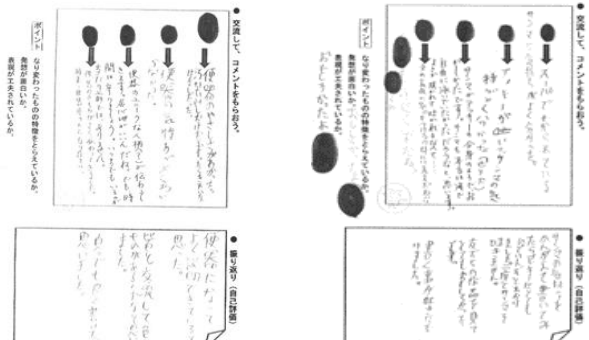
授業のポイントは、「楽しみながら書く」ことである。まず、「書いてみよう」という意欲を立ち上げるために、完成作品をクイズの形で紹介する。そのものになり変わった視点から考えることの面白さや楽しさを知った上で、自分の作品作りに取りかからせる。その際、級友と話し合いながら材料集めをしたり助言をもらったりする。自由な想像や構想を膨らませるために、書くための材料となる視点を設けたワークシートを準備する。また、できあがった作品を他の特別支援学級の生徒と交流する（ワークシートを読んでコメントを書き合う）機会を設け、読み手を意識した創作活動を仕組む。

#### 【 なり変わり作文 ワークシート 清書 】



ワークシートに従って書くことで、具体的なキャラクターを設定でき、その後創作活動に入った。清書は、読み手を意識して丁寧に書いた。

#### 【 交流コメント・本人の振り返り 】



読んだ後、書き手に対して各人がコメントを書いた。その際「自分の名前を書き正直に感想を書く」ことを意識した。コメントを読んでから、振り返りを書いた。

### 児童・生徒の変容

生徒は、書くことに苦手意識を持っている者が多く、書く授業があると拒否反応を起こしている。それ故、導入部分で「書いてみよう」という思いを持ったことが、最後までやり切ることができた要因であった。何になりきるか、何を語るかも、創作者に委ねられている。その中で、視点を変えることでものの見方が変わることに気づくことができた。また、具体的なキャラクター設定が話を書く土台にもなった。なり変わるものに「心情や感情」を語らせる作業は、正に自分の思いの発露でもあった。さらに、書いた作品を互いに読み合いコメントを書くという取り組みは、新鮮だったようで、真剣に読み合っている様子が印象的であった。「書くことは難しくないかもしれない」という思いを少しだけ持つことができた。

## 授業シート（各教科）

校種（種別）	中学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1年
教科	数学科
単元	1次方程式



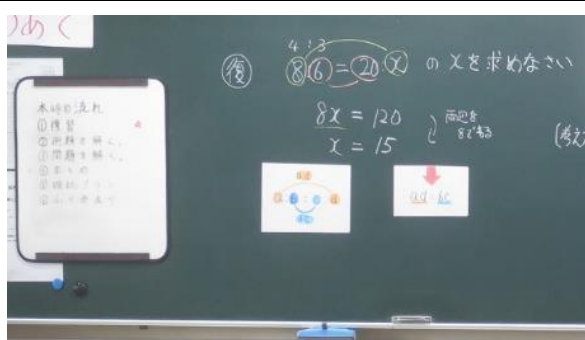
### 授業のねらい

適切な分量を求めるために比例式をつくることができる。

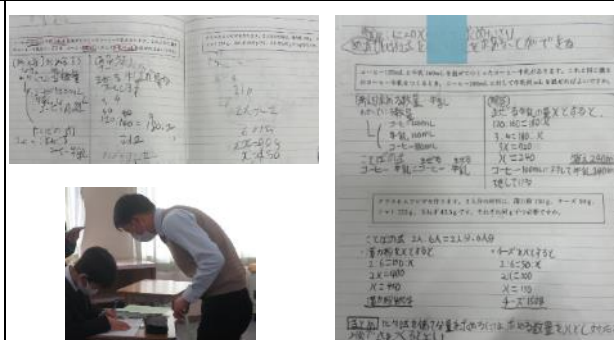
### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

本時の流れを最初に提示し、今どの活動をしているのかを示すことで学習の見通しを持たせる。発問や課題を生徒にとって興味・関心のあるものにする。机間指導で個々の状況を把握しながら支援することを通して集中を持続させた。

#### 【 板書 】



#### 【 内容 】



本時の流れを最初に提示し今どの活動をしているのかを示すことで学習の見通しを持たせた。また、ポイントに色を付け視覚支援を行った。

自立活動や家庭科で、生徒が実際に作りたいものを事前にアンケートを取り、分量を量るものを決めて扱った。繰り返し問題を解き黒板を参考にし、解けるようにした。

### 児童・生徒の変容

自立活動と結び付けたことで、授業になかなか位置づけられない生徒が、見通しを持ち楽しみながら授業に参加できた。要点を繰り返し扱うことで、材料ごとに分量を求めることができた。視覚的に学習内容を整理したり、繰り返し扱ったりすることで、数学に苦手意識を持っている生徒でも問題を解くことができた。成果として、後日行った適応問題を全員解くことができた。



## 授業シート（各教科）

校種（種別）	中学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1年（4人）・2年（1人）・3年（2人）
教科	理科 場所：理科室
単元	1年：顕微鏡の使い方，2年：火山の噴出物， 3年：電流がつくる磁界

### 授業のねらい

3学年の学習をそれぞれ同時に並行して進行しながら，場面に応じて，学年で交流して学習を行う。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

- 基本は，指導する学年以外は，各自で課題を学習する。
- 実験や観察は，3学年一緒にする場合もある。1年の内容であれば，2，3年は復習として行うことができる。（その逆は難しい）
- できるだけ，2・3年生が1年生に指導できるようにしている。

【1年】	【2年】	【3年】
<p>&lt;各自&gt;顕微鏡の各部の名称や使い方をワークシートに記入してまとめる。</p> <p>&lt;教師&gt;答えを確認する。顕微鏡を実際に使ってみよう。</p>	<p>&lt;各自&gt;火山の噴出物をノートにまとめる。</p> <p>&lt;教師&gt;教科書を見て，噴出物を確認。火山灰を顕微鏡で見よう。</p>	<p>&lt;実験：教師がつく&gt;コイルに電流を流し，方位磁針のN極が示す向きを調べる。</p> <p>&lt;各自&gt;実験の結果から分かることを考える。</p>
<p>&lt;観察&gt;花の花弁（はなびら）をみんなで観察しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・顕微鏡は人数分（7台）準備する。</li> <li>・①：1年生に2年生と3年生がついて指導する。  <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>&lt;A&gt;1年2人に3年生1人</span> <span>&lt;B&gt;1年2人に2年1人と3年1人</span> </div> </li> <li>・②：1人ずつ顕微鏡で観察をする。2年生は火山灰の観察をする。</li> </ul>		
<p>&lt;各自&gt;スケッチをして気づきを書く。</p>	<p>&lt;各自&gt;火山灰のスケッチ。</p> <p>&lt;教師&gt;鉋物の種類の確認。</p>	<p>&lt;教師&gt;コイルのまわりの磁界の規則性を確認</p> <p>&lt;各自&gt;問題を解く。</p>

### 児童・生徒の変容

複数の学年が同じ教室で別々の単元を学習するのは難しいが，共通した話題や共通した操作（顕微鏡観察など）があれば，短時間でも一緒に学習するようにしている。下の学年は，一人一人について指導してもらえるため，分かりやすいようであった。上の学年は，復習になるし，教えることによって自分の理解も深まった。協力して活動することにより，人間関係も深まった。

## 授業シート（自立活動）

校種（種別）	中学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1年
6区分27項目	3(2)(4), 6(2)
単元名	いっしょに将棋を楽しもう



### 単元のねらい

場面や相手の状況に応じてコミュニケーションをとることができる。

### 単元のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

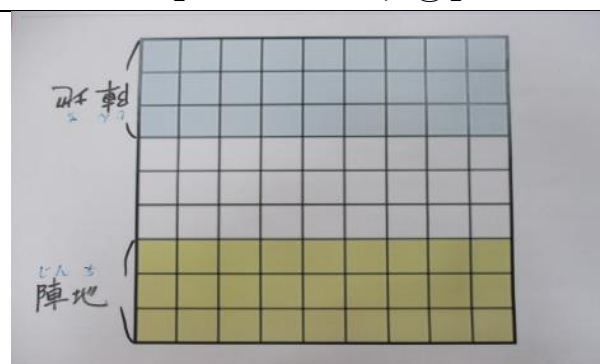
説明カードを用意して、ルールの視覚支援となるよう工夫した。

#### 【ルールシート①】



将棋の駒の動きを理解させるために、視覚的に分かりやすくなるよう矢印を入れて示し、工夫した。

#### 【ルールシート②】



将棋のルールの基本として、相手方の陣地と自分の陣地の範囲を、色分けして示し、工夫した。

### 児童・生徒の変容

相手の説明を理解して聞くことができ、説明のポイントをつかむことができるように、関心・意欲をもって取り組むことができる題材を設定した。相手の話を聞いて、自分の思いを表現することの手立てとして、発声や具体的な身振りの表出方法について、支援していった。また、将棋の駒の並べ方について困難感を持つことを予想して、並べ方の写真などを提示して支援した。さらに、将棋の駒の持ち方を指導することで、指先の細かな動かし方の支援を行った。円滑なコミュニケーションに至るまでには、これからも継続した支援が必要であるが、日々の支援の積み重ねにより、基本的なコミュニケーションの技能を身に付けつつある。

## 授業シート（自立活動）

校種（種別）	中学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	3年
6区分27項目	2(1)(2)(3), 4(2)(3)(4)
単 元	過ごしやすい環境づくりをしよう

### ね ら い

情緒の安定を獲得するための場所を設置することで、自らが状況に対処し、困難を解決・克服していこうとする力を身につけることができる。

### ポイント 及び ねらいにせまる工夫点

- 省スペースだが、空間が狭く限られているため、落ち着き度が高い。
- 教室の中に設置されているので、音声による情報は聞き取れる。
- 必要と感じたら、いつでも、すぐに、利用できる。

#### 【 設置前 】



物理的に他と隔離することはできるが、同じ空間に在ること、落ち着きが得られなかつたり、かえってパーティションの向こう側が気になつたりしてしまふ。

#### 【 現 在 】



3方に壁面があり、スペースが最小限であること、安心してクールダウンに専念できる。  
教室内なので、授業中でも、学習の内容を確認できる。

### 生徒の変容

いつでも気軽に利用できるスペースを設けたこと、教室に入りやすかつたり、教室の外へ出たりという状況をなくすことができた。

我慢できる時間が延びたり、見通しをもって活動したりすることが、情緒の安定につながつたと思われる。

また、学級の仲間同士のかかわりでも、一定の距離が取れるよふになつたり、相手を気遣う態度が見られたりした。

## 授業シート（自立活動）

校種（種別）	中学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1年・2年
6区分27項目	3(1), 6(1)(2)(3)(5)
単元名	買い物体験をしよう

### 単元のねらい

買い物体験による、売る側や買う側の立場に立つことを通して、状況に応じたコミュニケーション能力を高めることができる。

### 単元のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

売ったり買ったりする活動を通して、相手を見たり、声の大きさに注意したりするなど、一人一人に応じた買い物場面のやりとりを楽しませる。

#### 【 レジをつくる 】



段ボールを使って、自分たちでレジ作りを行った。電卓を埋め込んだり、お金を入れるところを工夫したりして、楽しそうに創作していた。

#### 【 売る側・買う側の立場に立つ 】



買う側は、いろんな客を演じた。また、教員にも客役になってもらい、大人にも対応できるようにした。

### 児童・生徒の変容

自分たちでレジを手作りすることにより、互いに話し合い、分担しながら創作することができていた。電卓を埋め込むなど、自分たちで考えて創意工夫していた。

コミュニケーションのスキルを身につけ、人と関わり合うことができたという成功体験により、他者とのコミュニケーションに対する自信を深めることができた。



## 授業シート（自立活動）

校種（種別）	中学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	3年
6区分27項目	2(1), 3(3), 5(5)
単元名	卒業記念作品の製作に挑戦しよう。



### 単元のねらい

得意なこと（美術・配色）を生かし、卒業記念作品の製作を通して、製作計画を立て根気よく製作完成させることで達成感を味わい、作業の段取りを学び、自己肯定感を高めることができる。

### 単元のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

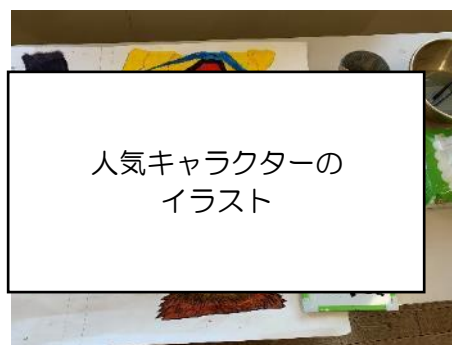
製作の年間計画を考え、月毎・週ごとに計画を修正しながら、見通しを持って作業できるようにした。作業については具体的に例を示し、イメージしやすく支援した。

#### 【下書き】



最初は、インターネットの画像から選択したイラストを見本に模写するためカーボン用紙を使って、転写することを助言すると意欲的に行った。

#### 【配色】



配色に対して、授業で褒められてから自信を持っていたので、微妙な色も絵の具を組み合わせ、試行錯誤しながら、色づくりを行った。

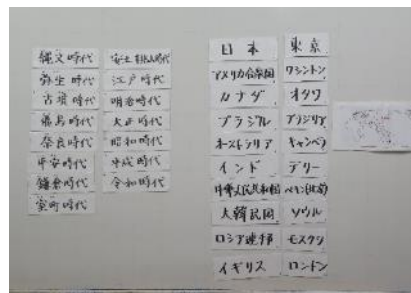
### 児童・生徒の変容

好きなことや得意なことは、意欲的に取り組み始めた。模造紙サイズの作品で約6か月間の長期製作となったが、進度に合わせて、自分で計画修正しながら行った。2月完成を目標に「いつまでに、ここまで」と作業に見通しを持って行うようになった。なかなか集中ができないときも、気持ちを切り替える努力をしていた。特に色づくりは、何度も試行錯誤しながら、粘り強く行った。日々の生活でも集中する時間が少しずつ伸びてきているように見られる。



# 教材・教具シート

校種（種別）	中学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1年・2年
教科	国語科・社会科・理科・特別活動
単元	学習意欲を高めるために



教材・教具の意図	
●（フラッシュカードを使った学習）	各教科の暗記内容を10枚前後のカードを用意し、みんなで声を出しながら暗記をしていく。カードを使い視覚的支援を行う。短学活に短い時間で毎日行う。教科への興味関心を高め、気持ちの切り換えや、自己肯定感を上げる手立ての一つにしていく。
●（新聞を使ったワークシートの活用）	新聞記事を読み、内容を読み取りプリントにキーワードを入れることにより、内容の理解を促す。社会の動きが、クラスでの共通の話題になる。一つの記事について、10分から15分短い時間で学習でき隙間時間で行うことができる。

【教材・教具の様子】	【作り方・遊び方】
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●フラッシュカードを使った学習                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○時代のカード（縄文時代～令和時代）</li> <li>○20か国の国名・首都・場所のカード（カード・世界地図）</li> <li>○広島県の10の市の名前と場所</li> <li>○虹のカード（赤・橙・黄・緑・青・藍・紫）</li> <li>○原子記号</li> <li>○睦月から師走のカード</li> </ul> </li> <li>●新聞を使ったワークシートの活用                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○記事と切り取り、内容について問うキーワードを入れるワークシートを作る。</li> <li>○新聞社から出ているワークシートを活用してもよい。</li> </ul> </li> </ul> <p>（例）アメリカ大統領選挙    コロナ問題 ワクチンについて    はやぶさ2についてなど 1週間に1枚から2枚</p>
【材料・道具】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●画用紙・ペン    マグネット</li> <li>●新聞紙（新聞社のワークシートの活用）</li> </ul>	

生徒の変容	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●クラス全員で行うので、刺激し合って覚えやすくなるようである。短学活の短い時間で、全員で声を出して行うことにより、気持ちも前向きになり、発散する時間にもなっている。</li> <li>●新聞を読む機会のない生徒もおり、ワークシートの記入により、記事の内容が理解しやすいようだ。はやぶさ2の記事の前後に、道徳の教材に「はやぶさ」に関する内容があり、理解を深めることができた。</li> </ul>

## 教材・教具シート

校種（種別）	中学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1～3年
教科	自立活動（SST）
単元	コミュニケーション能力をつけよう



### 教材・教具の意図

自立活動では、自己選択や自己決定・実行する経験と達成感を感じることができる活動内容を取り入れ、「できた」「わかった」「人の役に立った」などを実感できるような学習活動を行いたい。その中で、自己肯定感をはぐくみ、個々の主体性を養い、意欲的に取り組めるような学習にしていきたい。本教材は、ゲーム感覚で、楽しみながら簡単にソーシャルスキルを身に付けることに適している。

参考資料：「手軽にできる SST エクササイズ集」（教育研修センター 特別支援教育課）  
LD・ADHD へのソーシャルスキルトレーニング（日本文化科学社）

### 【教材・教具の様子】



### 【材料・道具】

もしも BOX  
得点表  
拡大まちがいさがし  
イラスト・単語カード

### 【作り方・遊び方】

教材集は1～23 までである。簡単なものから、少し難しいものまである。「こんなの乗ってくれるかなあ？」と心配する内容でも、生徒の実態に合わせて工夫することで、盛り上がる。

簡単なゲームだけれど、繰り返し行うことで、新しいルールを自分たちで作ったり、バージョンアップしたりすることができる。

対戦方法は、個人戦でもよいが、クラスを2チームに分け、団体戦にするとより効果的である。チームで勝つために作戦を立てたり、工夫したりすることで団結力が育ち、協力の大切さを実感し達成感を得ることができる。

#### ☆中学生おすすめゲーム☆

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 3, 船長さんの命令  | 15, エスパー     |
| 17, もしも BOX | 20, ブラック BOX |
| 21, 言葉の名探偵  | 22, ショートスピーチ |

### 児童・生徒の様子，変容



盛り上がったゲームは、「もう一度やろう。」「今度は〇〇入れよう。」「題は俺らで考えたのを入れようや」など、工夫した意見が出る。

ゲームを通して、クラスの団結力が培われる。

また、スピーチは、題を自分たちで書き、もしも BOX に入れて、日直が毎日短学活で引いて、1 分間スピーチを行っている。

## 教材・教具シート

校種（種別）	中学校（自閉症・情緒障害）
対象学年	1年
教科	自立活動
単元	ボール運動でコミュニケーションを図ろう

### 教材・教具の意図

「板リアンパスだ」：ソフトバレーのアンダーハンドパスが苦手な生徒のための支援具。

「ボールでご箆」：ソフトバレーのオーバーハンドパスが苦手な生徒のための支援具。

【教材・教具の様子】	【作り方・遊び方】
 	<p>「板リアンパスだ」 平らなボードの裏面に取っ手を付けて、臍の前で握って構える。表面に的を●で視覚化し、そこでボールを受けるよう表示した。</p> <p>「ボールでご箆」 丸みのある風呂桶に取っ手を付けて、頭上で握って構える。</p>
【材料・道具】	
取っ手，ボード，マジック，風呂おけ	

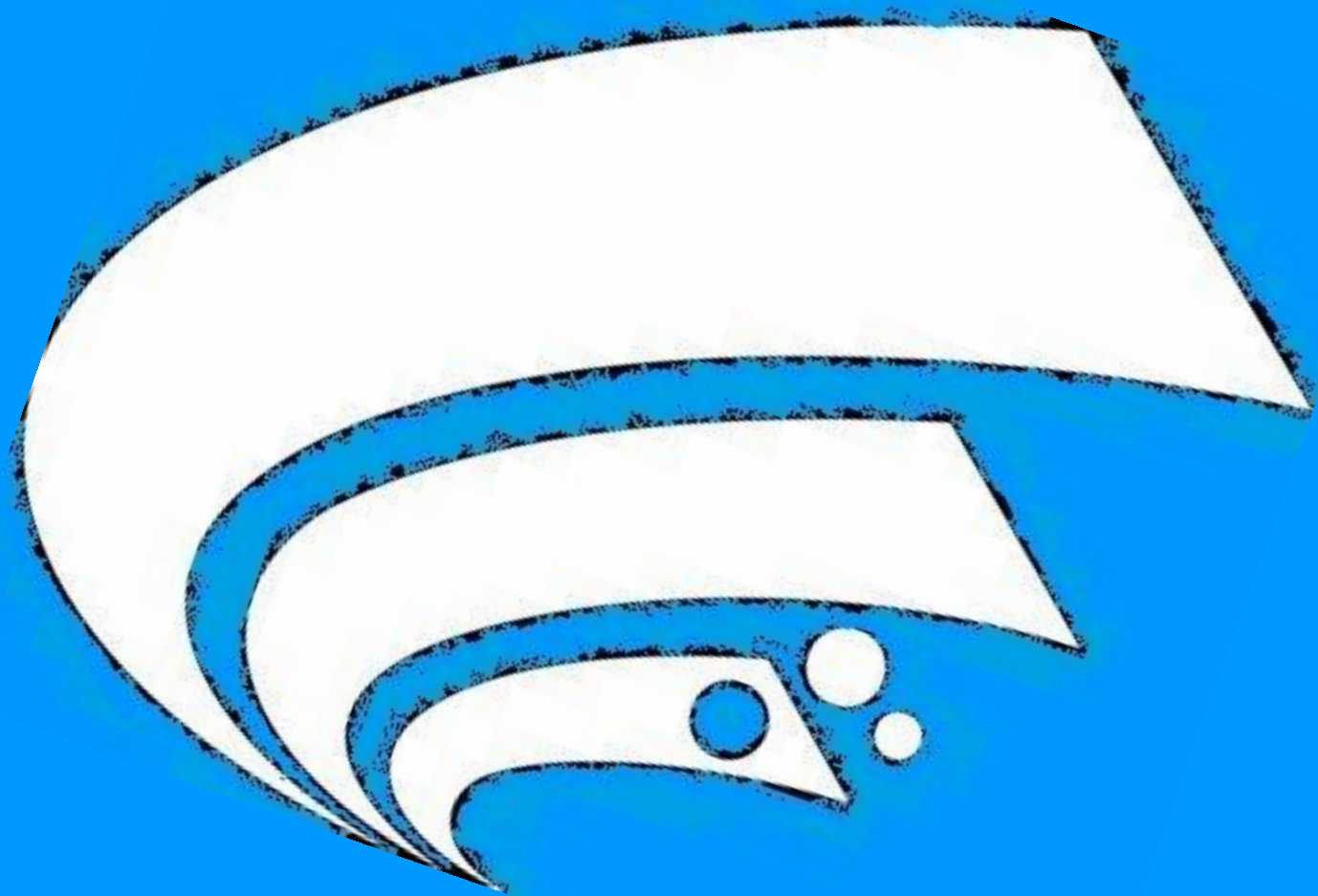
### 児童・生徒の様子，変容

支援具を使用して、ボールを捕らえることで腕や手首の動かし方の感覚を養うことができた。

技能改善により、より楽しくコミュニケーションを図ることができた。



# 小学校(難聴) 各教科

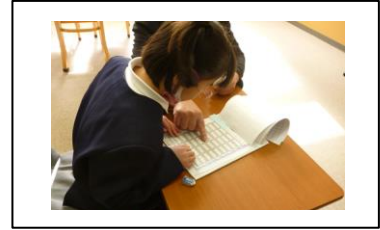






## 授業シート（算数）

校種（種別）	小学校（難聴）
対象学年	1年
教科	算数科
単元	どんなけいさんになるのかな



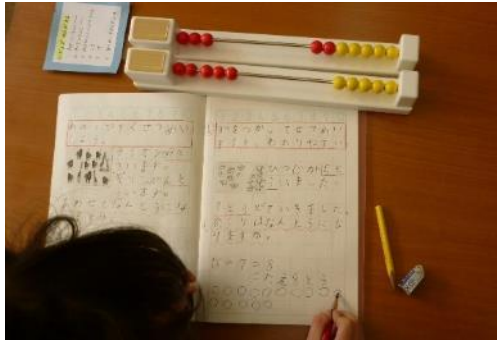
### 授業のねらい

加法や減法を適用して問題を解決し、説明することを通して、論理的思考力を養うことができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

操作活動や作図を通して問題を整理し、論理的に説明させるため、具体物やヒントカードを数種類用意しておき、自分で必要なものを選んで使わせた。

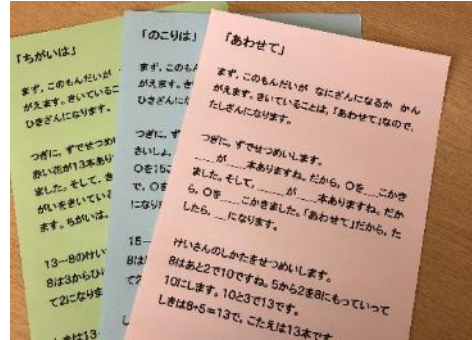
#### 【十玉計数機を使って考える】



十玉計数機を使って計算の仕方を考えさせた。十玉計数機でやると、机上にブロックが散乱することなく落ち着いて活動できる。また、操作が容易にできる為、不器用な児童も取り組みやすい。

十玉計数機では、10の分解を捉えやすい。さらに、6+7の時など5と5で10、1と2で3、10と3で13という5と5のまとまりに着目しやすい。

#### 【説明の話型】



文章題の説明のための話型を覚えさせる為、話型を繰り返し読んだり、話型カードを見ながら説明させたりした。だんだんと話型を見ないで、指示棒で問題文や図を指しながら、説明することができるようになってきた。

### 児童・生徒の変容

説明の話型を覚えることにより、説明することに自信が持てるようになってきた。机上の学習だけでなく、前に出て指示棒を使って説明することを楽しんでやるようになった。問題を読んだ後、具体物を操作しながらお話しすることにより、問題把握が確実になってきた。具体物の操作を繰り返し行う活動を通して、数量のイメージ化ができ、計算が速くなった。



# 小・中学校(肢体不自由) 各教科等を合わせた指導

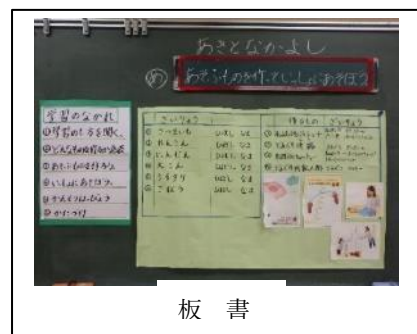






## 授業シート（各教科等を合わせた指導）

校種（種別）	小学校（肢体不自由）
対象学年	5年・6年
領域	生活単元学習
合わせた教科等	国語科，算数科，生活科，特別の教科 道徳
単元名	あきとなかよし



板書

### 単元のねらい

遊びを選択しながら，その場に応じて，相手とのコミュニケーションをとることができる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

- ・身近にある秋の材料を使って作ることで遊びの体験を増やす。
- ・その場に応じ，コミュニケーションを取りながら活動をする。

#### 【身近な材料で遊びの体験を増やす】



身近にある松ぼっくりやサツマイモを使って，楽しく遊べる物を作った。交流の場を設け，「よく作ったね。」と友達の頑張りを認めるとともに，自分も作ってみたいという次への意欲付けの場を設定した。

#### 【コミュニケーション活動】



カラービニールがはさみで切れない時には，押さえていて欲しいとお願いをする，サツマイモに紐が通らない時には「やってください。」というサインを送り支援を得ることなどを設定した。

### 児童・生徒の変容

- ・身近にある材料で，作ってすぐに遊ぶことのできる題材だったので，意欲的に活動することができた。また，互いの作った物に興味を示し，サツマイモのブンブンゴマを回してみたり，松ぼっくりのパラシュートに触ってみたりしていた。
- ・松ぼっくりのパラシュートではカラービニールを切るのが難しかったが，押さえてもらうことで自分の力で切ることができ，自分で作ったという成就感をもった。サツマイモのブンブンゴマは，初め野菜ということで抵抗を示していたが，紐を通してもらい，いつものように回してみるとよく回ったので，とても気に入り壊れるまで回し続けた。

## 授業シート（各教科等を合わせた指導）

校種（種別）	中学校（肢体不自由）
対象学年	2年・3年
領域	生活単元学習
合わせた教科等	国語科・社会科
単元名	新聞投稿記事を読んで，自らの感想を語り，切り取ってスクラップしよう。



### 単元のねらい

今，社会で起こっていることや，同年代の子供の考えや思いに触れさせ，自分の行動や生き方を体験的に学習させることによって，社会参画に対する夢や意欲を育てる。

### 授業のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

生徒が興味関心をもっている事や同年代の子供の考えや思いについて注目し，それを蓄積する活動を行った。新聞記事を読んだ感想を発表し，他者とコミュニケーションをすることを大切にして指導した。

#### 【関心を持った記事を選ぶ】



新聞を読み，様々な出来事や，中学生の意見文などから，関心を持った記事を選び，丁寧にスクラップし，読めない漢字をチェックし，調べる。

#### 【記事を読み感想を述べる】



記事についての感想を考え，発表する。他の生徒が発表した内容について，思ったことを交流する。

### 生徒の変容

新聞を開き，見たり，読んだりすることにより，今社会で起きている現象や，問題に対して関心が少しずつ高まってきた。またその内容について自分の考えや，思いが少しずつ，言えるようになった。

# 通級指導教室 自立活動







## 教材・教具シート

校種（種別）	小学校（通級指導教室）
対象学年	1年～6年
教科	自立活動
単元	パターンブロックのしきつめをしよう



### 教材・教具の意図

パターンブロックを使って正多角形の形に敷き詰めることによって、図形に慣れ親しみ、指先の器用さや空間認識を養う。

#### 【教材・教具の様子】



#### 【材料・道具】

パターンブロック、カラーボード B4 が 2 枚、型紙、カッターナイフ、カッターマット、定規、スプレーのり、接着剤（ポリスチレン対応のもの）

#### 【作り方・遊び方】

ベニヤ板や MDF 版は糸鋸機械を使うので加工が難しいとい声があった。そこでもっと加工しやすい素材としてダイソーで扱っているカラーボード（ポリスチレン）45×30×0.5 cm が良いのではないかと思い紹介したい。

- ① カラーボードにスプレーのりで型紙をはりつける。
- ② 定規を使って線に沿ってカッターナイフで切っていく。
- ③ 型紙をはがし、のりをふきとる。
- ④ 接着剤をぬってカラーボード 2 枚を貼り合わせる。
- ⑤ 平らなところに置き、重しをのせて一晩おき固定する。
- ⑥ 枠がきつい時はカッターナイフで修正する。
- ⑦ パターンブロックを敷き詰めて遊ぶ。隙間がないように枠いっぱいにはすべて敷き詰められたら完成。

### 児童・生徒の様子， 変容



六角形は比較的簡単だが、八角形はやや難しい。どの子も喜んで挑戦し完成すると達成感を味わうことができる。対称形に同じ形のブロックを敷き詰めるより、ランダムに違う形で敷き詰める方が難易度が高い。後日、Nくんが八角形の敷き詰めをしたところ、私が思い持つかなかったパターンでブロックを敷き詰めたので驚いてしまった。違うパターンで完成させたら大いに褒めてやりたい。



**参考：使える市販の教材・教具・遊具**

通級指導教室で1対1となるためルールや用具を簡単に使用した。

○『SSTカード教材 気持ちチップ』

(かもがわ出版)

お題カードを読み、自分の気持ちがバロメーターのどこに位置するか考える。気持ちの切り替え方、気持ちのコントロールの対処法を考える。

○『こんなときどうする?』

(合同出版)

家や学校で起こるハプニングを取り上げ、絵カードを見てこんな時自分ならどうするか考える。自分で判断して行動する力を身につける。

○『SSTカード 言動と反応の対比』

(エスファール)

ある場面での二通りの言動とそれらの反応を対比することによって、よりよい言動・コミュニケーションの仕方を学ぶ。

○『こころかるた』

(クリエーションアカデミー)

「話し手」はカードをめくり書いてある内容を声を出して読み上げ、その質問に気持ちのままに話せる範囲で答える。相手は「聞き手」に徹する。次に「話し手」と「聞き手」が交代する。お互いを理解し、関係性を深める。「アンゲーム」のバージョンアップしたもの。

○『熟語トランプ 初級編(1~3年) 上級編(4~6年)』

(ビバリー)

熟語神経衰弱：伏せてあるカードの中から2枚めくる。その2文字で熟語ができれば(わからないときは熟語リストを参照する)熟語ペア成立。最後に一番獲得カードが多かったプレイヤーの勝ち。遊びながら熟語が学べる。

○『あわせ漢字ビンゴゲーム ①(2~3年) ②(4~6年)』

(太郎次郎社エディタス)

「へん・つくり」「かんむり・あし」のいずれかのカードを選び、ゲーム盤に左右か上下どちらかのカードを並べておく。残ったカードを順番にめくってあわせ漢字ができるところへカードをおく。マス目の漢字が1列5つそろったら「ビンゴ」でビンゴカードをもらえる。遊びながら漢字の部首や漢字の組み立てが学べる。

○『ぴっくテン』

(メビウスゲームズ)

合計がちょうど「10」になるようにカードを出せたら、出ているカードすべてを取ることができる。10を超えてしまったら相手に取られる。順番にプレーしてたくさんカードを集めた人が勝ち。暗算・計算力が鍛えられる。



○『<sup>とと</sup>魚魚あわせ』

(環境総合テクノス 魚魚工房)

カードを裏返して並べ、順番に表替えてペアがそろえば自分の取り分となるマッチングゲーム。初めはカードを少なくして慣れたら増やす。短期記憶が鍛えられる。

○『ドラえもんのことわざかるた』

(小学館)

読み上げCDでランダムに流せば2人でもできる。おなじみドラえもんの声でことわざを学ぶことができる。

○『はあっていうゲーム ① ②』

(幻冬舎)

プレイヤーはカードをめくりセリフの中からシチュエーションを選んで演じる。相手はどれを演じているかを当てる。身振り手振りは禁止、声と表情だけで表現する。表現力が鍛えられる。

○『コグトレ みる・きく・想像するための認知強化トレーニング』

CD付き(三輪書店)

○『教室で使えるコグトレ』(東洋館出版)

○『もっとコグトレさがし算60 初級 中級 上級』(東洋館出版)

いずれも児童精神科医・医学博士の宮口幸治さんの著作。困っている子どもたちの特徴として、認知機能の弱さ、感情統制の弱さ、融通の利かなさ、不適切な自己評価、対人スキルの乏しさ、身体的不器用さがあるとして、それらを支援するための認知強化トレーニング「コグトレ」である。





## 教材・教具シート

校種（種別）	小学校（通級指導教室）
対象学年	1～6年
教科	自立活動
単元	体ほぐしの運動を通して




### 教材・教具の意図

○体ほぐし運動を通して、自分の気持ちを安定させるとともに、他者とのかわりを通して、相手の気持ちなどを考えることができる。

【教材・教具の様子】	【作り方・遊び方】
 	<p>体幹が弱く、姿勢が続かない児童や、運動に抵抗感があったり、相手の立場や気持ちを考えることができなかつたりする児童に有効。</p> <p>○遊び方 ドッジボールやバドミントン、床で行うホッケー、野球など、様々な運動に取り組ませる。 1対1の運動で相手の状況をとらえさせながら、他者への意識を持たせながら学習をさせていく。 遊んだ後にふりかえりなどの時間を活用して、今の気持ちや今後の願いなどを表現しあい、お互いの気持ちを理解させる。</p>
<p>【材料・道具】</p> <p>バランスボール、ビーチバレーボール、バドミントン、卓球、ホッケー、バスケットボール、バッティング、ドッジボール、プレルボール</p>	

### 児童・生徒の様子， 変容

	<p>ボール運動では、相手に勝つことと同時に危険性を防ぐ工夫をするようになった。</p> <p>相手の気持ちや押し量ることや力を加減することができるようになった。</p> <p>また、結果として体育の学習に自信をもって取り組めるようになった児童もいる。</p>
---	--



## 通級指導教室における自立活動の実践

### 教室環境等の工夫

○教室を3つのスペースに分けて構造化



**リラックスの場**  
オセロ・トランプ・かるた・SSTボードゲーム・アンゲーム等ゆっくり座って活動できる。

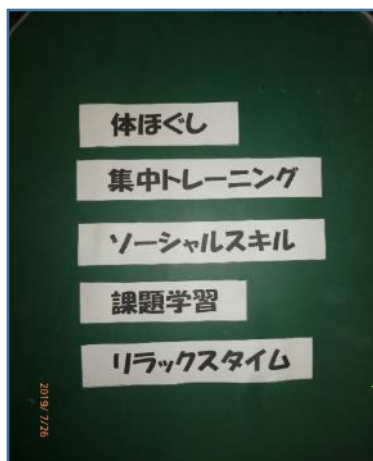


**運動する場**  
バッティングやバトミントン、卓球、ホッケー等、しっかり動くことができる広い空間。



**学習の場**  
バランスクッションで少し体がぐらぐらしても大丈夫

### ○教室環境等の工夫



見通しをもたせる工夫



気持ちを落ち着かせる工夫

## 指導の工夫①

### ソーシャルスキルトレーニング

#### ○児童実態

- ・相手の気持ちを推し量ることが苦手である。自分が想像したことを現実と受け止めて、パニックに陥ることがある。勝ち負けにこだわり、できないことから逃げてしまう。



#### ○実践

- ・SSTすごろく、アンゲームなどを通して、周りの状況を把握したり自分の気持ちを表現したり相手の気持ちを考えたりする。
- ・SST絵カードを使って、状況を把握し、適切な言動について考える。

#### ○結果

- ・SST絵カードで状況を把握する時に、実際に起きた場面と比較させたことで、どう行動するとよかったか、その時の相手の気持ちはどうだったかを考えさせることができた。

1



2



3



## 指導の工夫②

### 「コグトレ」認知機能強化トレーニング

宮口 幸治 三輪書店（平成 27 年）

### 『写す』視覚認知の基礎力（模写・形の把握）

#### ○児童の実態

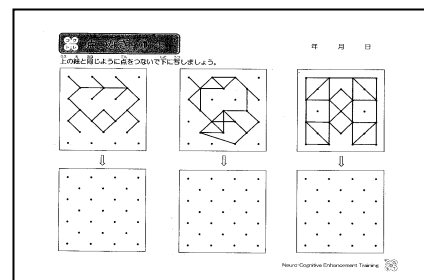
- ・漢字が覚えられない。
- ・マス目から字がはみ出す。
- ・凶形の模写が難しい。
- ・文字の形が整わない。

#### ○実践

- ・点つなぎで、みる力の基礎力をつける。

#### ○結果

- ・凶形全体をみて、点をつないでいくことができるようになった。
- ・漢字や文字の線の向きや数に気をつけて書くことができるようになった。





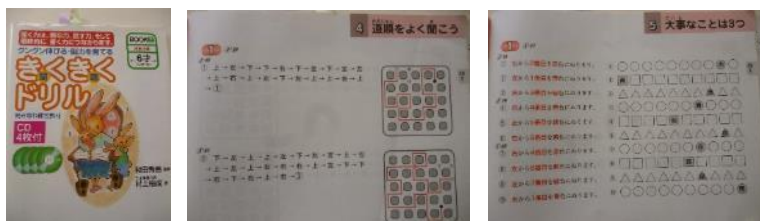
### 指導の工夫③

きくきくドリル—グングン伸びる・脳力を育てる

村上 裕成, 和田 秀樹 文英堂 (平成 16 年)

短期記憶強化トレーニング

『聞く』聴覚認知の基礎力



#### ○児童の実態

- ・指示が覚えられない。
- ・きいてもすぐに忘れる。

#### ○実践

- ・「きくきくドリル」を使って、聞き取ったことを元を書いたり話したりする。

#### ○結果

- ・集中して聞くことができるようになった。
- ・何を覚えるかが分かり、できたことで自信を持つようになった。

### 指導の工夫④

ことばさがし

#### ○児童の実態

- ・教科書を読むことが難しい。
- ・語彙数が少ない。

#### ○実践

- ・ひらがな表記の中に、意味のある言葉を見つける。

#### ○結果

- ・単語として言葉を見つけることができるようになってきた。
- ・教科書を読むときに、どこで区切るかが分かるようになった。

### 指導の工夫⑤

漢字が覚えられない

#### ○児童実態

- ・漢字に抵抗感がある。
- ・言葉の知識や語彙力に課題がある。

#### ○実践

- ・国語の教科書は読み聞かせをし、言葉の意味などを説明する。
- ・教科書にルビを打ち、内容の理解に重点を置く。
- ・映像を使った学習で意欲を持たせる。(社会・理科)

#### ○結果

- ・学習内容や設問を理解することができ、学習意欲が高まった。

## 指導の工夫⑥

リラックスタイム（お楽しみ）

- ・オセロ・どうぶつしょうぎ・トランプ
- ・レゴ・数学ブロック・人生ゲーム・読書
- ・パターンプロック・ジェンガ

児童がいつも楽しみにしている時間である。

微細運動・図形認識・ソーシャルスキルにも役立っている。



## 授業シート（自立活動）

校種（種別）	小学校（通級指導教室）
対象学年	3年
6区分27項目	2(2), 3(2), 6(1)(2)(5)
活動名	ルールを守って楽しく活動しよう

### 活動のねらい

- ルールを守ることができる。
- 相手のことを考えて活動できる。
- コミュニケーション能力を高めることができる。

### 活動のポイント 及び ねらいにせまる工夫点

楽しみながら苦手な学習を抵抗なく取り組む。  
メンバーで考えた遊びのルールを決めて、楽しく関わるができる。

#### 【活動内容】



#### 【活動のポイント】

##### ○漢字ビンゴゲーム

自分で選んだ漢字をビンゴカードに書く。  
漢字カードをめくり、その漢字を書いたり熟語にしたりしながらゲームを進める。  
全部がビンゴになった人が勝ちになる。



##### ○トランポリン遊び（体ほぐし）

体幹が弱く姿勢が崩れやすい、体のバランスが悪いなどの児童が多い。トランポリンで楽しく跳ぶことにより、体を強くすることができる。  
複数の児童と一緒に跳んだり交代で跳んだりする。触れ合ったり譲り合ったりして人との関わりを学ぶことができる。  
いろいろな跳び方をして空中感覚を味わうことで気持ちの安定につながる。

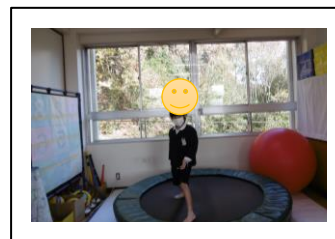
### 児童・生徒の変容

書字が苦手、字形が整わない、漢字がなかなか覚えられないなどの状況にある児童が多く、漢字を書くことに抵抗を感じている。単に漢字を書いて覚えるのではなく、ビンゴゲーム形式で楽しみながら進めることで、少しずつ読めたり書けたりできる漢字を増やすことができた。

教室に来るとどの児童も一番にトランポリンに乗って跳んでいる。そうすることで気持ちを落ち着け、初めての学習に自分から取り組むことができている。また、複数の児童と一緒に楽しく跳んだり譲り合ったりして跳ぶことで、自然の中で人との関わりがうまくできるようになった。体の使い方やバランスも良くなっている。



## 教材・教具シート

校種（種別）	小学校（通級指導教室）
対象学年	2年～6年
教科	自立活動
単元	お話タイム




### 教材・教具の意図

サイコロを振って出た目の話題について話すことで、提示された話題への即応力や想像力を培う。

【教材・教具の様子】	【作り方・遊び方】
 	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 白ボール紙で、1辺が8 cmの立方体を2体作る。</li> <li>② 色上質紙で、8 cmの正方形を12枚作る。</li> <li>③ ②に話題を書く。                      例〈1〉楽しかったこと・うれしかったこと・楽しみにしていること・がんばっていること・行ってみたいところ・悲しかったこと                      〈2〉あったらいいなこんなもの・あったらいいなこんなこと・船に乗って行くとしたら・宇宙船に乗って行くとしたら・もしもキリンになったら・もしもありになったら</li> <li>④ ③をラミネートする。</li> <li>⑤ ①のサイコロに④の色上質紙をビニルテープで貼る。</li> <li>⑥ サイコロを振って出た目の話題について話す。</li> </ol>
<p style="text-align: center;"><b>【材料・道具】</b></p> <p>白ボール紙・色上質紙・ビニルテープ・マジック・はさみ・ラミネートフィルム・ラミネーター</p>	

### 児童・生徒の様子，変容


	<p>最初は、サイコロを振って出た目の話題に即応して話すことができなかった児童も、回を重ねるうちにすぐに話すことが出来るようになってきた。</p> <p>サイコロ〈1〉に慣れると、想像力を要する〈2〉のサイコロに挑戦させた。</p> <p>その後、児童に振るサイコロを選択させると、より楽しんで話す様子を見ることが出来た。</p>
---	---

## 教材・教具シート

校種（種別）	小学校（通級指導教室）
対象学年	1～6年
教科	自立活動
単元	遊びを通して、人と関わり方を考えよう

### 教材・教具の意図

- 成功体験を増やし、行動や気持ちをコントロールする力を付け、状況理解を促すことで、友達との関わり方を改善する。
- 担当者と二人で勝ち負けのある、関わり合うゲームを使って、コミュニケーションを図りながら、担当者と信頼関係をより深める。
- ルールを守り成功体験を増やす。

【教材・教具の様子】	【作り方・遊び方】
	<p>マンカラ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①じゃんけんなどで順番を決める。</li> <li>②全てのポケットの中に石ストーンを4つずつ入れておく。</li> <li>③順番に自分の陣地のポケットのうち1つを選び、その中に入っているすべてのストーンを取り出す。</li> <li>④取ったストーンをひとつずつ右隣のポケットやゴールに入れる。</li> <li>⑤最後のストーンがどちらかのゴールに入ったらとき、もう一度ポケットからストーンを取って移動させることができる。</li> <li>⑥陣地のポケットを先に空にしたら勝ち</li> </ol>

### 児童・生徒の様子，変容

- 集団参加の苦手な児童に対して、ゲームの楽しさ感じさせたり、達成感を味わわせたり、人と関わる心地よさを体験させることができた。
- 勝ち負けのあるゲームは、楽しさを増減させる要素をもつので、いつも勝つとは限らないことを体験させたり、負けても“大丈夫”と気持ちを切り替えたり我慢したりするような体験させることができた。
- 友達に自然に声をかけることができた。
- 穏やかにはっきりした声で会話ができた。



# 1 その他の教材・教具

- ① ぴっぐテン
- ② 人生ゲーム
- ③ トランプ, UNO
- ④ すごろく, かるた
- ⑤ 動物将棋, 将棋
- ⑥ オセロ など



## ○ 教材の意図

担当者も一緒の小集団のグループの中で、お互いに「協力」したり、ルールを守ったりすることで、他者との関わり方を学ぶ。

# 2 ゲームを取り入れた算数学習の取組

- ① ぴっぐテン
- ② 算数カルタ
- ③ 九九ビンゴ

## ○ 教材の意図

- ① クイズやゲームを取り入れることで、興味を持って算数の課題に取り組むことができる。

ちょうど「10」になれば自分のカードとしてもらえ、「10」を超えると相手のカードになる。「+5」「-5」のカードもあり、たし算、ひき算をしながらゲームを進める。

- ② 読み札の答えの数字を探すカルタ

例 6m 何センチかな? ⇒ 600cm

12時の1時間前 ⇒ 11時

おだんご3こ 2こ 食べちゃった のこりは? ⇒ 1こ

算数カルタは、学年の実態に合わせて使うカードを選ぶようにする。



- ③ 九九ビンゴやかけ算迷路絵本  
九九シート、シール、サイコロを用意する。  
数字を隠すシールを、答えの上に、まばらになるように置く。  
のこりのシールを同じ枚数に分けて持ち、順番に2つのさいころを振る。  
2つのさいころの出た目どうしをかけたところの数字を答える。



- 数字の上にシールがあった場合  
⇒隠れている九九の答えが言えればシールがもらえる
- 数字の上にシールがなかった場合  
⇒手持ちのシールをその位置に置く

最後に一番多くシールを持っていた人が勝ち。


☆九九の答えがすぐに出ない子どもの場合は、必要に応じて別の九九表を

## 教材・教具シート

校種（種別）	小学校（通級指導教室）
対象学年	2・3年
教科	自立活動
単元	九九に親しもう

### 教材・教具の意図

九九を楽しく確実に覚えることができるように、「九九ビンゴカード」を作成した。

【教材・教具の様子】	【作り方・遊び方】
	<p>{作り方}</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 5×5ますの枠を作る。（A4用紙の大きさに書けるだけ作る。）</li> <li>② 用紙の下に九九の答えの数字を書いておく。</li> </ol> <p>{遊び方}</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 25マスに九九の答えを書く。</li> <li>② トランプの出た数字を掛け合わせその数字を書いているところに○をつける。</li> <li>③ 縦・横・斜めなどビンゴに早くなった方が勝ち。 （ビンゴの数はその時の様子で決める。全ビンゴもあり。）</li> </ol>
【材料・道具】	
トランプ（1～9）2組	

### 児童・生徒の様子，変容

これまでも、九九カードを使いタイムを計るなどして、九九を覚えられるように意欲付けを行っていた。「九九ビンゴカード」は、ゲーム感覚で行うことができ、勝敗がはっきりとつくため、児童は楽しく取り組むことができた。進んで「九九ビンゴカード」をやりたいという児童が増え、九九を楽しく確実に覚えることができるようになった。

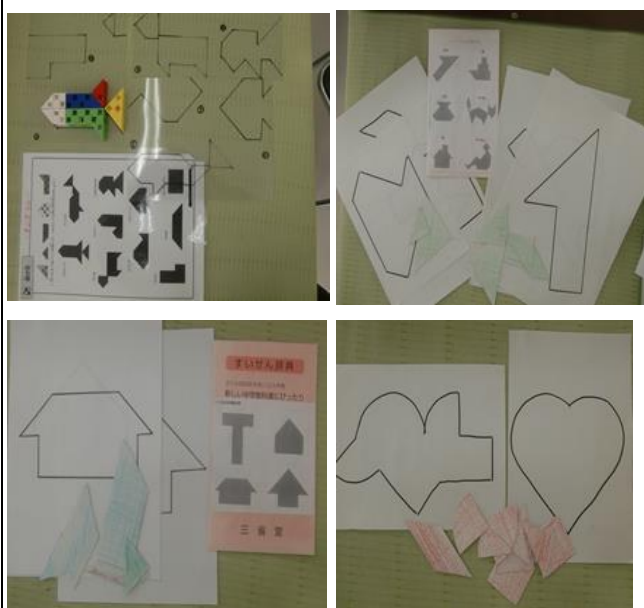
## 教材・教具シート

校種（種別）	小学校（通級指導教室）
対象学年	3～6年
教科	自立活動
単元	図形に親しもう

### 教材・教具の意図

同じ形でも向きを変えたり回したりしながら、枠の中におさまる図形を作っていくことで、図形の認識を高めていく。

### 【教材・教具の様子】



### 【作り方・遊び方】

○タングラムの形はブロックで作ったり厚紙で作ったりする。  
 始めはブロックでやる方が立体的なので簡単である。  
 ○段階に応じて複雑化していく。

### 【材料・道具】

ブロックや厚紙  
 はさみ マジックや色鉛筆

### 児童・生徒の様子，変容

児童は、形をいろいろ組み合わせ、指定の図形を作れたときは達成感を感じ、図形への認識を深めるとともに、次の活動への意欲を高めていた。  
 児童の発達段階に応じて、指定する図形を複雑にしていったり、実際に形を動かさず想像させたりすることで、さらに図形への認識を深めていく。

## 教材・教具シート

校種（種別）	小学校（通級指導教室）
対象学年	4～6年
教科	自立活動
単元	都道府県に親しもう

### 教材・教具の意図

日本の都道府県がどこに位置しているか忘れていた児童が多いので、パズルをバラバラにして組み立てていく過程で県名や位置を覚えさせる。また、その土地の特産物などの絵もあるので合わせて学習していく。

### 【教材・教具の様子】



### 【作り方・遊び方】

パズル「日本地図（名産物や名所などの絵入り）」

（日本地図をコピーしラミネートして作るのも可能）

{遊び方}

全部バラしたり地方ごとにバラしたりしてパズルを完成させていく。

### 【材料・道具】

パズル（木製）

### 児童・生徒の様子，変容

日本地図を、バラバラにすることを楽しみにしている児童もいる。活動中、知っている県名や行ったことがある県名などが出てくると、知っていることや経験したことなどを進んで話すなど、意欲的に学習することが出来た。また、児童は、各地の特産物や名物などについても、興味をもつなど楽しみながら取り組むことができた。



## 教材・教具シート

校種（種別）	小学校（通級指導教室）
対象学年	4～6年
教科	自立活動
単元	漢字に親しもう

### 教材・教具の意図

2枚のカードを引いて、トランプの神経衰弱のルールのように漢字を組み合わせることで、記憶力や語彙力が付くことをねらいとしている。できた熟語の意味を調べたり他にできる熟語はないか考えたりしている。（熟語トランプ 漢字博士）

### 【教材・教具の様子】



### 【作り方・遊び方】

#### 熟語トランプ

トランプの神経衰弱のルールと同じで2枚のカードを引いて熟語を作る。熟語ができたならカードを取る。多くのカードが取れた人が勝ち。

#### 漢字博士

へんかつくりに分け、引いたカードから漢字を作る。たくさん漢字が作れた人が勝ち。

### 【材料・道具】

熟語トランプ  
漢字博士（市販）  
厚紙でカードを作るのも可能

### 児童・生徒の様子，変容

漢字が苦手な児童も漢字を書かなくてもいいので興味を持って取り組んだ。またカードの枚数などで難易度が調整できるので便利である。

# 教材・教具シート

校種（種別）	小学校（通級指導教室）
対象学年	2～6年
教科	自立活動
単元	かけ算・九九



教材・教具の意図	
九九の定着が進みにくい児童のために、楽しみながら九九の習熟を図る。 かけ算の意味理解が苦手な児童のために、様々な問題に取り組むことを通して、かけ算の立式や解答がスムーズにできるようになる。	

【教材・教具の様子】	【作り方・遊び方】
	<p>【作り方】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①式を見て答えを言う問題や文章問題、九九を唱える問題など様々な問題を作成する。5cm×9cmのカードに、上記の問題を印刷してラミネートする。</li> <li>②中身が見えないように、色画用紙で覆う。</li> </ol> <p>【使用方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①九九くじボックスから、無作為にカードを1枚ひかせて、問題に答えていく。できたら次々にカードを取り、問題に答えさせていく。</li> <li>②実施時間を設定し、目標達成枚数を決めさせ、意欲を持たせる。（自己決定） （例：3分間で50枚を目指すなど）</li> <li>③ラッキーカードが出たら、途中でもタイマーを止めて、好きなルールを追加できる。（例：時間を〇分追加するや〇の段の暗唱をするなど）（興味・関心、意欲を高める）</li> </ol>
<p>【材料・道具】</p> <p>問題が書かれた紙・ラミネート くじが入っている箱 ラッキーカード（数枚）</p>	

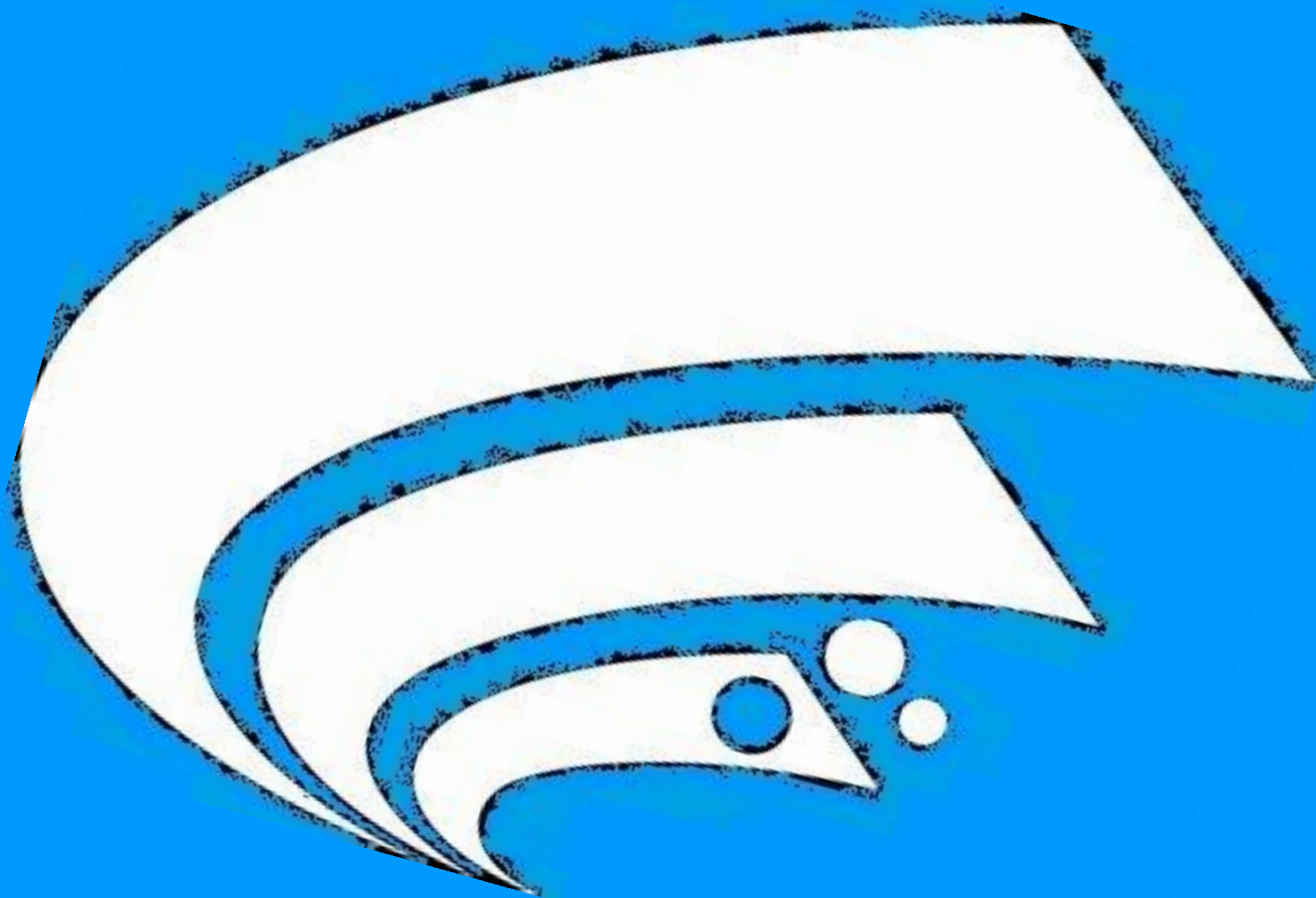
## 児童・生徒の様子，変容

	<p>実施当初は、少しの枚数しか答えられず、つまりながら答えていたが、主体的に学習する姿勢が徐々に見受けられるようになった。「今日は、こんな問題を出してください。」と児童から言う等、教師が想定していなかったようなルールや要望をするようになってきた。（自主・主体性、思考力・判断力・表現力等）</p> <p>通級に通っている2年生児童2名が、校内で行っている九九暗唱カードをコンプリートした。合格証の免許をもらい大変喜び、達成感を味わい、次への意欲につながっている。</p>
--	--

# 學習指導案集

小・中學校(知的障害)

小學校(自閉症・情緒障害)





## 「水のかさをしらべよう」

児童数

本単元で育成する資質・能力(コミュニケーション能力)

## 1 単元観

特別支援学校学習指導要領小学部3段階の内容項目 C 測定

- ア 身の回りにある長さや体積などの量の単位と測定の意味について理解し、量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、測定することなどについての技能を身に付けるようにする。
- イ 身の回りにある量の単位に着目し、目的に応じて量を比較したり、量の大小及び相等関係を表現したりする力を養う。
- ウ 数量や図形の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。

3段階の「測定」では、属性に着目した二つの量の大きさの比べ方を指導する。二つの量の大きさの比べ方とは、例えば、体積の属性における比較では、同じ入れ物に入れて高さで比べたり、任意単位の幾つ分かによって二つの量の違いを判断したりすることである。なお、普遍単位については中学部1段階の目標としている。

## 2 児童観

(省略)

## 3 指導観

本単元では、単元導入で、どんな時に水(液体)の量を量っているか生活場面を想起させ、体積を量ることの必要性が感じられるようにする。また、生活単元学習と関連付け、野菜を調理したり、ご飯を炊いたりするなど実際に水の量を量る体験をさせ、実生活と結び付ける。

できないことや分からないことに対する抵抗感が強いことから、はじめは明らかに量の違いが見て分かる容器で比べさせ、段々と、見た目では判断できない容器に入っている物を比べさせるようにする。単元末には、1Lマスを使う良さに気付くことができるようにしていく。

(省略)



#### 4 本単元において育成する資質・能力

育成する資質・能力	目指す児童の姿
A 課題発見・解決能力	身の回りにある入れ物に入る水の体積に着目し、体積の比べ方を考えようすることができる。
B コミュニケーション能力	自分の考えを相手に伝えることができる。
C 主体性	問題場面を把握し、生活経験と結び付けながら、生活に生かそうとすることができる。
D 自己理解	自己評価により、自分の学習する姿やできるようになったことを振り返り、表現することができる。

#### 5 単元の目標及び評価規準

体積の比較などの活動を通して、体積とその測定についての基礎的な意味を理解し、身の回りにあるものの体積について任意単位や1 Lマスをを用いて比較する力を養うとともに、体積についての感覚を豊かにし、日常生活に活用しようとする態度を養う。

評価の観点	評価規準
ア 知・技	体積についての基礎的な意味や、比較の方法、任意単位、1 Lマスによる測定の方法を理解し、体積についての基礎的な感覚を身につけ、直接比較や間接比較、任意単位、かさの単位による測定などによって、身の回りにある入れ物に入る水の体積を比べている。
イ 思・判・表	身の回りにある入れ物に入る水の体積に着目して、直接比較や間接比較、任意単位による体積の比べ方を考えたり、かさの単位により体積を数値で表したりしている。
ウ 態度	身の回りにある入れ物に入る水の体積に関心をもち、比較の方法を工夫した過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

#### 6 単元指導計画

全3時間（本時2 / 3時）

次	時	学習活動	資質・能力	評価の観点
1	1	○身の回りにある入れ物に入る水の体積に着目し、水の体積を任意単位による比較の方法で調べ、体積を入れ物の杯数で表し、水の体積を数値化して比べる。	A C	ア
	2	○身の回りのいろいろな入れ物に入る水の体積を1 Lマスを使って比較し、体積を数値化する方法で比べる。	B	イ
	3	○身のまわりにある入れ物に入る水の体積をますの何杯分かで比べることができる。 ○学習したことのまとめをする。	D	ウ

7 本時の学習

(1) 本時の目標

5つのペットボトルに入る水のかさを、1Lマスを使って比べる活動を通して、数値でかさの大小を比べることができる。(5年)

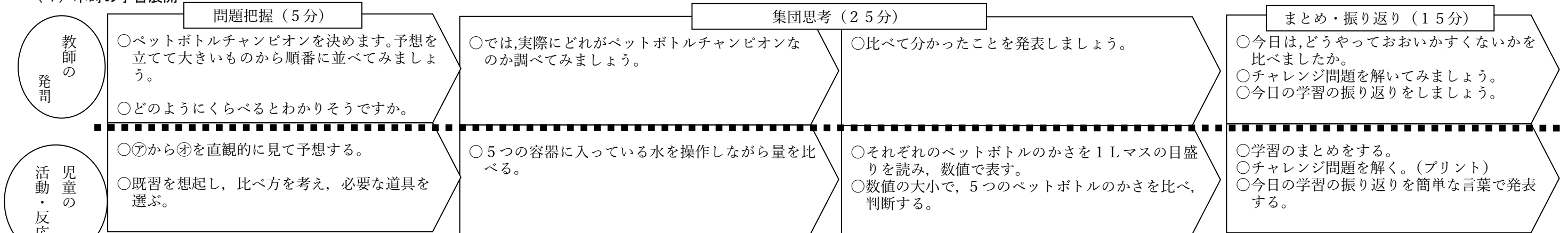
(2) 本時の評価規準

イ 身の回りにある入れ物に入る水の体積に着目して、かさの単位により体積を数値で表し、体積の大小を判断している。(5年)

(3) 本時で育成したい資質・能力

B 自分の考えを相手に伝えることができる。(5年)

(4) 本時の学習展開



10/26 かさくらべ

めあて ペットボトルチャンピオンをきめよう。

よそう

ふといからおおくはいいそう。

せがたかいからおおくはいいそう。

うっしかえる。  
ちがういれものにいれてみる。

- ・おおきいコップ
- ・ちいさいコップ

けっかはっぴょう

1い 2い 3い

1000ml 600ml 500ml 400ml 300ml

コップ3はいぶん 2はいぶん 1はいぶん

まとめ

- ・おなじコップに入れると、なんはいぶんかでチャンピオンがわかる。
- ・けいりょうカップでめもりをみると、チャンピオンがわかる。

ふり回り

コップをつかってくらべたのがたのしかった。

けいりょうカップをつかうことができた。

○指導・支援  
㉗ ㉘ ㉙  
A B C D  
資質・能力評価

- 単元全体を貫く課題をおさえ、本時の学習のねらいを明確にする。
- 学習意欲を持たせるために、似たような容器を準備したり、水に色を付けたりする。
- 自由にどちらの容器の方が多くはいるかの予想を立てさせ、どうしてその考えを思いついたのか、理由を言わせる。
- 前時にどのようにかさを比べたのかを想起させ、何を使ってかさを比べるとよいのかを選ばせる。
- かさが目で見確認できるように、ワークシートに数値が書け、比較しやすいようにしておく。
- ①身の回りにある入れ物に入る水の体積に関心をもち、比較の方法を考えている。(5年)(発言, 行動観察)
- かさを比べた結果を発表させ、わかったことを自分の言葉で表現させる。
- どのように伝えればよいかわからないときには、わかっていることだけでもよいことを伝え、言葉を補いながらまとめる。
- ②自分の考えを相手に伝えている。(発言)
- 本時のめあてに対するまとめを簡潔な言葉で表す。
- チャレンジ問題を解かせ、本時の学習が理解できているか自分で確認できるようにする。
- ①体積の大小を1Lマスのめもりを読み、数値で判断している。(5年)(適用問題)
- 振り返りを簡単な言葉で表現させ、本時の学習がよくわかったか・楽しく学習ができたかを自分で振り返られるようにする。

# 特別支援学級（知的障害）作業学習 学習指導案

1. 日時・場所 令和2年11月18日（水）5時間目

2. 学年・学級 特別支援学級（知的障害）

3. 単元名 「エコバックをつくろう」

## 4. 単元について

### 単元観

作業学習は、作業活動を学習活動の中心にしながら、生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。作業学習の指導は、単に職業及び家庭の内容だけではなく、各教科等の広範囲の内容が扱われる。作業学習で取り扱われる作業活動の種類は、農耕、園芸、紙工、木工、縫製、織物、金工、窯業、セメント加工、印刷、調理、食品加工、クリーニングなどのほか、販売、清掃、接客なども含み多種多様である。（文部科学省 2009 pp.419-420）この「エコバックをつくろう」という単元では、手工芸におけるミシンを安全に使用する基礎技術を習得させることをねらいとしている。

### 資質・能力観

本単元で育成したい資質・能力は、「主体性」である。自分で、作業の計画を立て、ミシンを正確に安全に使い「エコバック」を完成させることにより、基礎的な知識・技能を定着させるとともに、生徒自らが気づき、行動する主体性を引き出したい。

### 指導観

指導にあたっては、集中力を持続させる工夫として、学習の流れを黒板左側に提示し、生徒が見通しを持って学習できるようにするとともに、説明を聞く時は生徒机、作業するときは後ろの作業台といった教室内での配置を工夫する。また、黒板を見て作業工程や活動の全体が見通せるようにする。

同じ活動を繰り返し行わせることで、基礎的な知識・技能を定着させ、生徒自らが気づき、行動する主体性を引き出したい。指導者からの説明や言葉掛けはできるだけ最小限にし、手順を見ながら自分で考え、判断する時間を多く設定する。ただし、危険のないように作業台の上は整理整頓させるなど安全面は徹底する。

## 5. 単元の目標

- ・集中して活動することができる。
- ・時と場に応じた服装、動作及び言葉遣いをすることができる。
- ・活動に積極的に取り組み、最後までやり切ることができる。
- ・わからないときや、手伝ってほしいときは、自分から支援依頼することができる。
- ・人と協力して活動することができる。
- ・衛生面、安全面に気をつけて活動することができる。
- ・ミシンの使い方を理解し、自分なりの工夫をして縫うことができる。

## 6. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	創意工夫	技能	知識・理解
自分のお気に入りのデザインを作ろうと、作業や実習ができる。	エコバックの幅や深さ手提げ部分の幅を工夫できる。	ミシンで直線縫い、返し縫ができる。	ミシンの操作方法や道具の使い方を理解できる。

## 7. 指導と評価の計画（全5時間・本時は4/5）

次	学習内容(時数)	評 価				評価方法	資質・能力の位置づけ	
		関	工	技	知			評 価 規 準
1	・エコバック作りの工程を知り、布を裁断する。 課題の設定 (1時間)	◎	○			・完成品をイメージできる。 ・布の裏と表が理解できる。 ・ハサミでパーツごとに裁断できる。	行動観察	・主体性
2	・ミシンに糸をセットして直線縫い、返し縫をする。 情報の収集 (1時間)			◎	○	・教師と一緒に、ミシンに糸をセットできる。 ・直線縫い、返し縫ができる。	行動観察	・主体性
3	・手提げ部分をつけて完成させる。 整理・分析 (1時間)		◎	○		・手提げ部分を本体に位置を考えて取り付けることができる。 ・改善点を考えることができる。	行動観察	・主体性
4	・エコバックを自分の力で完成させる。 まとめ・創造・表現 実行 (1時間)	○	◎	○		・自分のお気に入りのデザインを作ろうと、作業できる。 ・エコバックの幅や深さ手提げ部分の幅を工夫できる。 ・ミシンで直線縫い、返し縫ができる。	行動観察 作業日誌	・主体性
5	・改善点を考えて、次の計画を考える。 振り返り (1時間)		◎	○		・できた製品の改善点が考えられる。	行動観察	・主体性

## 8. 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ・集中して作業を行える。
- ・ミシンの使い方を理解して、縫うことができる。

### (2) 観点別評価規準

- ・自分のお気に入りのデザインを作ろうと、作業できる。(関心・意欲・態度)
- ・エコバックの幅や深さ手提げ部分の幅を工夫できる。(創意・工夫)
- ・ミシンで直線縫い、返し縫ができる。(技能)

### (3) 学習過程

	学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	○評価規準 (評価方法) ◇資質・能力 の評価 (評価方法)
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の復習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・エコバックの作業工程を思い起こす。</li> </ul> </li> <li>○前回よりもいいエコバックを1時間で作るための改善方法を考える。</li> <li>○本時の目標の確認 本時の目標</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇実物と板書で思い起こさせる。</li> <li>◆考えたことを言葉で表現させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のお気に入りのデザインを作ろうと考える。(行動観察)</li> </ul>
<b>お気に入りのエコバックを製作する。</b>			
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動内容 作業日誌に本時の目標と個人の目標を書く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料と道具を作業台に持っていき製作する。</li> <li>・布の裁断</li> <li>・袋の部分のミシン縫い</li> <li>・手提げの部分のミシン縫い</li> <li>・手提げ部分を縫いつける位置を決定する。</li> <li>・手提げ部分を縫い付ける。</li> </ul> </li> <li>○後片付けをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇作業日誌の書く欄を指示する。</li> <li>◆不十分な時には、支援する。</li> <li>資質・能力を育成する場面 改善点を生かして頭の中でデザインし、工夫して裁断をする場</li> <li>◆教員が求めに応じて補助をする。</li> <li>◆ケガのないように、道具の扱い方や管理に注意する。</li> <li>◇作業が途中で時間も時間で切る。(続きは次の時間にさせる。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○エコバックの幅や深さ・手提げ部分の幅を工夫できる。(行動観察・作業日誌)</li> <li>◇主体性(行動観察)</li> <li>○ミシンで直線縫い、返し縫ができる。(行動観察)</li> </ul>



終 結	○振り返りをする ・自己評価  ○次時の学習の見通しの確認	◇出来具合を言葉で自己評価させる。 (10点満点で何点か) ◇将来, 最終的に売れる製品を作れるようになることが目標	(行動観察)
--------	--	--	--------

(4) 板書計画

本時の目標 お気に入りのエコバックを製作する。

学習の流れ

- ① 先生の話
- ② 目標の確認
- ③ 作業
- ④ 片付け
- ⑤ 振り返り

製作手順

実物

展開図①

同じ展開図②

(1枚物)

(バラバラになる物)

# 作業日誌

日時		月	日 ( )	曜日 ( )
校時				
本時の目標				
個人目標				
自己評価	今日の作業を反省しましょう。 【 よくできた ◎      できた ○      もう少し △      】			評価
	1	時間に遅れなかった。		
	2	作業にふさわしい服装をした。		
	3	あいさつや言葉づかいがきちんとできた。		
	4	丁寧に作業した。		
	5	きちんと報告できた。		
	6	片付け、掃除ができた。		
反省				
次回の目標				先生から



## 算数科学習指導案

- 1 日 時 令和2年10月27日(火) 第2校時
- 2 学 級 自閉症・情緒障害特別支援学級  
第1学年男子4名, 第4学年男子2名, 第6学年男子2名 計8名
- 3 単 元 名 かたちあそび(1年), 垂直, 平行と四角形(4年), 角柱と円柱の体積(6年)  
～はっけん!かたちをみてみると～
- 4 場 所
- 5 本単元で児童に働かせたい「見方・考え方」

図形を構成する要素に着目し, 図形の性質調べや作図を通して, 図形について理解するとともに, 図形に対する感覚を豊かにし, 生活や学習の中に生かすこと。

- 6 児童の実態 — 省略 —
- 7 単 元 観

本単元は, 1学年は立体図形や平面図形についての基礎となる感覚を豊かにすること, 4学年は直線の位置関係や四角形の構成について, 6学年は角柱と円柱の体積の求め方について理解し, それらを用いることができるようにすることが主なねらいである。

### (1) 本単元の指導内容

学習指導要領に照らし合わせて, 主に次のようにまとめられる。

#### 第1学年

- ① 形の特徴を知り, 具体物を用いて形を作ったり分解したりすること
- ② ものの形に着目して形の特徴を捉えたり, 具体的な操作を通して, 形の構成について考えたりすること

#### 第4学年

- ① 平行や垂直の関係について理解したり, 平行四辺形, ひし形, 台形について知ったりすること
- ② 図形の構成要素や直線の位置関係に着目し, 平行四辺形, ひし形, 台形の性質を見いだすとともにその性質をもとに既習の図形を捉え直すこと

### (2) 本単元の目標

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
1 年	身の回りにあるものの形について特徴を捉えたり, 構成や分解をしたりするとともに, 図形についての豊かな感覚をもつことができる。	身の回りにあるものの形に着目し, 図形の特徴を捉えたり, 構成や分解をしたりして表現することができる。	身の回りにあるものの形について, 観察や構成, 分解したり, 特徴を捉えたりした過程や結果を振り返り, そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとする。
4 年	直線の垂直や平行の関係を理解し, それらを活用して平行四辺形やひし形, 台形の特徴について理解することができる。	辺の位置関係や構成要素に着目して, 様々な四角形の性質を見いだして表現したり, 様々な四角形と対角線の特徴を整理して考えたりす	直線の垂直や平行の関係や様々な四角形の性質について考えた過程を振り返り, そのよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとする

		ることができる。	る。
6年	角柱や円柱の体積の計算による求め方について理解し、公式を用いて角柱や円柱の体積を求めることができる。	図形の構成要素に着目し、角柱や円柱の体積の求め方について考え、図や式を用いて表現することができる。	角柱や円柱の体積の求め方を公式として導いた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする。

## 8 「見方・考え方」を働かせて深く学び合うための指導観

本単元では、各学年の学習内容をふまえたうえで、各学年を関連させながら単元構成を行う。低学年の児童は、日頃から積み木遊び、空き箱での工作などを楽しんでいる。しかし、形そのものを明確に意識しているわけではなく、無意識にとらえていると思われる。また、高学年の児童も図形の特徴や空間概念が捉えにくい児童が多い。そこで、児童が楽しみにしている社会見学を題材にすることで、興味関心をもたせながら、「課題発見・解決学習」を展開し、「主体的な学び」を実現させたい。また、課題解決に向けて、個別の学習をもとにみんなで一つの作品を作成していく中で、友達とのやり取りやコミュニケーションの力、自分や友達のよさに気付く力を育てていきたい。さらに、指導内容にそって以下の指導を行う。

### ① ものの形や垂直・平行、さまざまな四角形について理解すること

1年生にとっては、初めての図形学習であるので、身の回りの空き箱や積み木などを触ったり観察したりしながら形作る活動をして、楽しみながら形の特徴や機能に気付かせたい。4年生では、直線の交わり方や交わってできる四角形を調べる活動をして、既習のいろいろな三角形や四角形、立体図形の学習をもとに、図形の位置関係や構成要素に気付かせたい。さらにどの学年も、気付いた特徴をもとに形を分類したり既習の図形を捉え直したりする活動を通して、図形についての見方や感覚を豊かにしていきたい。

### ② 角柱と円柱の体積の求め方について理解すること

6年生では、既習の直方体の体積の求め方を振り返り、高さ1cmの四角柱の体積を表す数と底面積を表す数を比べる活動を通して、公式を導き出していく。高さ1cmの四角柱を色分けしてそれが積み上がっている形を視覚的に示し、考える際の手立てとしていく。

### ③ 図形を構成する要素に着目して、作図をしたり体積を求めたりすること

立体図形を構成している「しかく、さんかく、まる」などの面の形や、転がりやすい、積み上げやすいなどの形の機能に着目させたり、辺の位置関係や長さ、角度、底面積、高さなどに着目させるために、いろいろな形を写し取ったり実物を手に取って触ったり、色分けしたりして操作活動を通して考えさせていく。また、いろいろな作図の仕方を提示し、児童に作図しやすいやり方を選ばせたり、児童の実態に応じてヒントカードを準備したりして自力解決できるようにし、達成感をもたせていく。そして、できた形や作図の仕方、体積の求め方をお互いに交流し、どんな材料をどんな理由で使ったか言葉で表現したり、図と関連付けながらかき方や形、式を説明させたりすることで理解を深めるとともに、友達の考えを共感的に受け止める力や改善点を見つける力も育てていきたい。



9 単元の評価規準

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りにあるものの形について特徴や機能を理解し, 分類することができる。</li> <li>立体図形の面の形を写し取り形を構成することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形に着目し, 特徴や機能を捉え, 言葉や具体物を用いて説明している。</li> <li>立体図形の面の形に着目して, 丸, 三角, 四角などを見出し, 説明している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りにあるものの形の特徴や機能を生かして, いろいろなものを作ろうとしている。</li> <li>立体図形の特徴や機能を捉えた過程や結果を振り返り, そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>垂直や平行の意味を理解し, 三角定規を用いて作図することができる。</li> <li>平行四辺形, 台形, ひし形の特徴を理解し, 作図することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直線の位置関係や交わり方に着目して, 垂直や平行について説明している。</li> <li>辺の位置関係や構成要素に着目して, 様々な四角形について説明している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直線の垂直や平行の関係や様々な四角形の性質について考えた過程を振り返り, 生活や学習に生かそうとしている。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>角柱や円柱の体積は, 「底面積×高さ」にまとめられることを理解している。</li> <li>角柱や円柱の体積を, 公式を用いて求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>角柱や円柱の体積の求め方を図や式を用いて考え, 説明している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直方体を組み合わせた図形を角柱とみることにより, 既習の公式が適用できることに気づき, 活用しようとしている。</li> </ul>

10 本時の展開

(1) 本時の目標

- 立体図形をなかま分けしたり, 面の形を写し取ったりする活動を通して, 特徴を生かしながら形を構成したり, 言葉や具体物を用いて説明したりすることができる。(1年)
- 四角形をなかま分けする活動を通して, 平行な直線に着目して考え, 図や言葉を用いて説明したり, 自分の考えと比べながら聞いたりすることができる。(4年)
- 角柱や円柱の体積について考える活動を通して, 求め方を図や式, 言葉を用いて説明したりよりよい方法を考えたりすることができる。(6年)

個人 の 目 標	
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>形や特徴を考えながら立体図形をなかま分けしたり, 写し取ったりすることができる。</li> <li>なかま分けの理由や選んだ面の形について, 言葉や具体物を用いて伝えることができる。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>立体図形から写し取った面の形をいくつか組み合わせて絵をかくことができる。</li> <li>立体図形のどの面のどの形を使って何の絵をかいたのか, 言葉や具体物を用いて伝えることができる。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>立体図形をなかま分けしたり, 形を選んで写し取ったりする活動に取り組むことができる。</li> <li>どの面を写し取ったのか, 具体物を指さして伝えることができる。</li> </ul>

D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体図形の面の形を写し取り，その形からイメージした絵をかきすることができる。</li> <li>・立体図形のどの面のどの形を使ったのか，言葉や具体物を用いて伝えることができる。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平行な辺の組を見つけて，いろいろな四角形をなかま分けすることができる。</li> <li>・なかま分けの理由について，図や言葉を用いて相手に伝えたり聞いたりすることができる。</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平行な辺の組が何組かを考えて四角形をなかま分けすることができる。</li> <li>・なかま分けの理由について，図や言葉を用いて相手に伝えたり自分の考えと比べながら聞いたりすることができる。</li> </ul>
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・底面や高さを見つけて，角柱や円柱の体積を求めることができる。</li> <li>・どこを底面，高さとみたか，図や式，用語を用いて相手に伝えたり自分の考えと比べながら聞いたりすることができる。</li> </ul>
H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の内容を振り返りながら，角柱や円柱の体積を求めることができる。</li> <li>・どのように体積を求めたか，図や式，用語を用いて相手に伝えたり自分の考えと比べながら聞いたりすることができる。</li> </ul>

## (2) 本時の評価規準

- 図形の構成要素や位置関係に着目して，なかま分けをしたり体積を求めたりし，その理由や求め方を図や式，言葉を用いて説明している。

## (3) 本時で育成したい資質・能力

既習の内容を振り返りながら考え，自分の考えを友達に伝えたり自分の考えと比べながら聞いたりしている。(既習の知識・技能)(合意形成能力)(批判的思考)

## (4) 本時で働かせたい「数学的な見方・考え方」

図形を構成する要素に着目し，既習内容を振り返りながら考えたり，活用したりする。

## (5) 準備物

- ・スケジュール表 ・積み木 ・画用紙 ・はさみ ・のり ・クレパス ・三角定規 ・ものさし
- ・電卓 ・ワークシート ・ホワイトボード ・ヒントカード

(6) 本時の展開

		学習活動 (○) 及び個への指導・支援 (※)						☆評価 ★評価 (6つの要素)	
		児 童							
		A	B	C	D	E	F		G
問題把握	1 本時のめあてと学習の流れを確認する。	かたちをみつけて、どうぶつやのりもののえをかいてみよう。		いろいろな四角形をなかまわけしてみよう。注目するところはどこかな。		ベンチやテーブルなどの形の体積を求めてみよう。			
		<p>※学習の流れに見通しをもたせるために、スケジュール表を使い、視覚的に捉えさせる。</p> <p>※学年ごとにスケジュールを確認する。</p>							
自力解決	2 個別の課題に取り組む。								
		<p>○ 積み木や空き箱などをなかま分けしたり、面の形を写し取って絵にかいたりする。</p> <p>※一人一人にいくつかの具体物を渡して、どの児童もなかま分けの活動ができるようにする。</p> <p>※児童の実態に応じて、写しとって絵をかく方法を選べるようにする。</p> <p>※社会見学で行く動物園に関する絵をかくことで意欲的に学習に取り組めるようにする。</p> <p>※写し取る活動では、少しずつでも大丈夫なことや友達と押さえ合ったりいいことを伝え、活動に対して安心感をもたせる。</p>		<p>○ 四角形のなかま分けを考える。</p> <p>※既習内容を提示しておき、考える手立てとする。</p> <p>※平行な直線に色をぬるよう声をかける。</p> <p>※平行かどうかを三角定規を使って確かめるよう声をかける。</p> <p>※垂直や平行な直線のかき方の手順表を準備しておく。</p> <p>※なかま分けの理由をワークシートにかくことで、図形の理解を深める。</p> <p>※時間や児童の実態に応じて、なかま分けした形を動物園に関するものに見立てる活動を設定する。</p>		<p>○ 複合図形の体積を求める。</p> <p>※既習内容を提示しておき、考える手立てとする。</p> <p>※立体模型を準備しておき、児童が操作できるようにする。</p> <p>※角柱とみることを意識させるために、底面積はどの面になるか考えさせる。</p> <p>※底面積と高さが分かるように、色分けをしたり、数値を記入したりしてから、体積を求めるよう声をかける。</p> <p>※実態に応じて、電卓を活用する。</p> <p>※時間や実態に応じて課題を調整する。</p>			



<p>※ 写し取る際に思うようにならず気持ちが不安定になる場合は、立体物を一緒に支えたり、少しずつでも大丈夫なことを伝えたりして安心感をもたせる。</p>	<p>※とりかかりに時間がかかるときは、そばで声をかける。面の形を組み合わせたり、肯定的評価を行い、意欲を高める。</p>	<p>※児童の様子に応じて、課題量や活動を調整する。気持ちが高ぶり言動が落ち着かない場合は、児童の意欲を評価しながら、一緒に取り組んだりそばで声をかけたりする。</p>	<p>※とりかかりにくい場合は、2～3つの立体物を提示しその中から選べるようにする。形を見て、見立てることが難しい場合は、見本を提示し、イメージをもたせる。</p>	<p>※とりかかりにくい場合は、そばで声をかけたり、既習の内容を指さしたりして、学習へのとりかかりを促す。平行な直線に色をぬるよう声をかける。</p>	<p>※早くできた場合には、なかま分けした形を表に貼ったり、方眼を利用して、形をかいたりするよう声をかける。焦ったり気持ちが高ぶったりしている場合は、できていることを評価していく。</p>	<p>※底面や高さが見つかりにくい場合は、立体模型の向きを変えてみるよう声をかける。気持ちが高ぶっている場合は、できているところまでをそばで確認し、落ちて取り組むことを意識させる。</p>	<p>※とりかかりにくい場合は、どの立体図形の体積を求めるか選ばせたり、既習の内容を指さしたりして、学習へのとりかかりを促す。底面積や高さなど、分かったことに印を付けたり数値を記入したりするよう声をかける。</p>	<p>☆ 図形の構成要素や位置関係に着目して、なかま分けをしたり、体積を求めたりすることができる。</p>
<p>3 友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりする。</p> <p>※ペアトーク、ワークシートにまとめるなど、児童の実態に応じて設定する。 ※算数用語を意識付けるために、既習事項やキーワード等を掲示しておく。</p> <p>○ 写し取った形の絵や形を組み合わせた絵の中から、みんなに見せたいものを選んで伝え合う。 ※時間に応じては、どの形を使ったのかをクイズにする活動を加える。</p> <p>○ どのようになかま分けをしたか伝え合う。</p> <p>○ どのように体積を求めたか、伝え合う。</p>								<p>★ 既習の内容を振り返りながら考え、自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いたりしている。</p> <p>(既存の知識・技能) (合意形成能力)</p>
<p>※ 進んで発表しようとしている意欲や態度をほめ、達成感をもたせる。</p> <p>※ 選んだ形や理由を具体物やキーワードを用いて説明できた際には、しっかり評価し、全体へ広げる。</p>	<p>※形の特徴を生かして絵をかいたり、形を組み合わせたりしたら肯定的評価を行い、全体へ広げる。</p> <p>※気持ちが高揚している場合は、落ち着くよう声をかけたり、できていることを肯定的評価したりする。</p>	<p>※児童の様子を見ながら、肯定的な声かけを行い、学習への参加を促す。</p> <p>※友だちの考えを聞くことができているから、すぐ評価する。</p>	<p>※説明しにくい場合は、ヒントカードを提示する。</p> <p>※肯定的評価を行い、自信をもって取り組むことができるようにする。</p>	<p>※平行な辺について、図や言葉を使いながら説明できた際には、すぐに評価し、大切なことを意識づける。</p> <p>※説明が難しい場合は、ワークシートを活用したらよいことを声をかける。</p>	<p>※平行な組が何組あるかについて図やキーワードを用いて説明できた際には、肯定的に評価し、意識づける。</p> <p>※友達の考えと自分の考えを比べながら聞いていたら、すぐ評価する。</p>	<p>※どこを底面、高さとしたのか、立体模型や図と対応させながら説明できた際には、すぐ評価し、意識づける。</p> <p>※混乱した場合は、どこが底面、高さなのか問いかける。</p>	<p>※説明ににくい場合は、ワークシートを活用したらよいことを声をかける。</p> <p>※肯定的評価を行い、自信をもって説明できるようにする。</p>	<p>☆ 形やなかま分けの理由、体積の求め方について、具体物や図、式、言葉を用いて説明している。</p>





熟考	<p>4 自分や友達の考えを比べながら聞き，共通点や工夫点，関連性などを共有する。</p> <p>○ 動物園の絵地図に，作図した絵や形など学習した内容を加え，全体で共有する。</p> <p>※発表を聞いたり，図を見比べたりして，同じところや関係しているところを考えさせる。  ※考える視点を提示したり，伝えたりする。</p> <p>※4年や6年の学習したことを見聞きし，他にもいろいろな形があることに気付いたり，今後の学習へ興味をもったりできるようにする。</p>	<p>※絵地図の道に台形や平行四辺形がかかるかどうか考えさせることで，辺の位置関係の理解を深める。</p>	<p>※1年生が作っている立体物などを見て，体積が「底面積×高さ」の式で求めることができるかどうか考えさせることで，体積の求め方の理解を深める。</p>	<p>★ 自分の考えと友達の考えを比べながら聞き共通点や関係していることなどを考えている。 (批判的思考)</p>
まとめ・振り返り	<p>5 学習をまとめる。</p> <div data-bbox="486 617 1216 772" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>はこやつつをかみにうつしてできたかたちから，どうぶつやのりもののえをかくことができた。</p> </div> <p>6 学習を振り返る。</p> <p>○ 分かったことや気付いたこと，大切なことなどを振り返る。</p> <p>※本時の学習内容や活動を価値付け，肯定的に評価することで，次時への意欲付けを行う。</p>	<div data-bbox="1368 617 1771 789" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>平行な辺が何組あるかに注目すれば，台形や平行四辺形になかま分けすることができる。</p> </div>	<div data-bbox="1976 617 2365 789" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>角柱とみれば，テーブルやベンチのような複雑な形の体積も「底面積×高さ」で求めることができる。</p> </div>	

## まるい形を調べよう (円と球)

日時：10月22日(木) 第2校時

学年：自閉症・情緒障害学級

第3学年 2名

小学校で育てようとする資質や能力及び態度

\*   は今年度の重点項目

①課題発見・解決能力

②思考力・判断力・表現力

③コミュニケーション能力

④主体性・積極性

⑤回復力

⑥協調性・柔軟性

⑦自らへの自信

## 1. 単元について

## 単元観

## 児童観

本単元は、学習指導要領の第3学年B(1)ア(ウ)「円について、中心、半径、直径を知ること。また、円に関連して、球についても直径などを知ること。」イ(ア)「図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに、図形の性質を見いだし、身の回りのものの形を図形として捉えること。」を受け設定した。

この単元では、円や球を構成する要素(中心、半径、直径)や性質を理解し、コンパスの使い方を身に付け、コンパスを用いた作図や長さをはかり取ったり移したりすることができるようにする力を育てる。その際、図形を構成する要素に着目して作図の仕方を考えたり、長さをはかり取ったり移したりすることができるようにする。また、作図やコンパスの利用(長さの移し取り等)の活動を通して、コンパスの道具としての機能や円のもつ美しさに気づき、感覚的理解を深めることができるようにすることも本単元ではねらっている。

本学級の児童は、第1学年の「かたちあそび」でまるい形やボールのような形をとらえ、第2学年において、四角形や三角形などについて、これらを構成する直線や直角などに着目することで図形を弁別する経験をしてきている。第3学年においては、これらの既習を基に円や球について考察を深めていく。

日常の学習での様子や、レディネス調査から次の傾向があると伺える。

両児童ともに、三角形(直角三角形)や四角形(正方形や長方形)を弁別することはできるが、辺や面の形、直角といった図形を構成する要素への着目が弱く、図形に対するイメージ力の弱さや図形を認知する力の弱さにより、図形の弁別理由を、用語を用いて適切に説明することが難しい。また、B児は、学習への集中の持続が難しい。さらに、両児童ともに、コンパスを使って円や模様をかいたりすることへの関心は高いが、手先の細かな運動に対する困難さが見受けられ、定規やコンパスなど、用具を操作補助や技能向上への支援が必要である。

## 指導の手立て

本単元の指導に当たっては、児童のつまずきを十分に考慮し、特に次の3つの工夫を行う。

## ① 学習への意欲や集中を持たせる導入の工夫

- ・活動への見通しをもたせ、学習への集中を持続させるために、ナンバリングで示した学習内容の提示をしたり、ねらいや到達目標の共有化を丁寧に行ったりする。

## ② 視覚支援を積極的に用いた指導の工夫

- ・図形へのイメージを具体的にもつことができるようにするために、認知しやすい工夫をした実物を用意したり、図形や立体の特色をつかみやすい教科書デジタルコンテンツの積極的な活用をしたりする。
- ・図形を構成する要素に着目しやすくしたり、それらの用語を使って説明する力をつけたりするために、既習事項をまとめた掲示や授業で提示をする図などにおいて、各要素を色や太線で強調したものを用意する。その掲示により、各要素や用語を常に意識させるとともに、考えを発表したり、説明したりする際に、その掲示で用語を確認しながら発言ができるようにする。

## ③ コンパスの操作に慣れ、技能を向上させるための工夫

- ・用具を操作することに十分に慣れ、技能を高めるために、操作のしかたのポイントをスモールステップで丁寧に指導するとともに、操作活動の時間や練習回数を確保する。
- ・用具の操作によるつまずきを軽減させるため、作図活動がしやすいワークシートを用意する。

## 2 単元目標と評価規準

観点	目標 (○内は育成を目指す資質能力の番号)	評価規準
知識 技能	円や球を構成する要素や性質について理解し、コンパスを用いた作図や長さをはかり取ったり移したりすることができる。	円の中心や半径、直径、球の直径などを理解し、それらを活用してコンパスで円をかいたり、等しい長さをはかり取ったり移したりしている。
思考力 判断力 表現力	数学的表現を適切に活用して構成のしかたや身の回りのものを円や球として考える力を養うことができる。②	円や球を構成する要素に着目し、構成の仕方や身の回りのものに図形の性質がどのように活用されているかについて考え、説明している。
学びに向 かう力 人間性	図形をかいたり確かめたりする活動を振り返り、今後の生活や学習に活用している。⑤	円や既習の図形の咲く部を基に模様をかくなどの活動を通して、身の回りから円や球を見つけたり、図形のもつ美しさに関心をもったりしたことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

3 指導計画とルーブリック（本時 6/10）

時	学習活動	ルーブリック		資質	思考スキル (思考ツール)
		S	A		
1	1点からの長さに着目しながら、同じ長さになるようにどのような線をかけばよいかを見つける。見つけたきれいなまるい形のひみつを探り、よく回るこまを作ったり、きれいな模様を書いたりする活動への見通しをもつ。	A + 見つけた形について、構成要素に着目しながら分かったことを説明することができる。	かごからの長さと同じになるようには、どんな線をかけばよいか見つけることができる。		
2	まるい形のかき方に着目してきれいなまるい形がかける理由を考え、円の性質や円の中心、半径の意味を理解する。	A + まるい形がどんな形か、用語を用いて説明できる。	きれいなまるい形がかける理由を考え、円の性質を理解できる。	①	整理する。 (表)
3	直径と半径の長さの関係に着目し、円の性質を見だし、まとめる。	円の中心や直径を見つけてすることができる理由を説明できる。	円の中心が見つけれられる理由をまとめ、直径の意味や直径と半径の関係が分かる。		
4	円の性質に着目してコンパスを使った円のかき方について知り、円をかく。	A + コンパスを使って、模様をかくことができる。	コンパスを使って、円をかくことができる。	⑤	
5	コンパスのはかり取ったり移したりする機能について理解し、コンパスを使って、長さを比較する。	A + コンパスのよさについて説明することができる。	長さをものさしではからずに比べることができる。	①	
6	ボールなどの具体物を真上や真横から観察し、どこから見ても円に見えるという球の特徴を見だしまとめる。	A + 球の特徴を他の形と比較しながら説明することができる。	ボールのようなまるい形について調べ、その特徴をまとめることができる。	②	整理する。 (表)
7	球の切り口に着目しながら、球の特徴について考えを広げ、球の性質をまとめる。	A + 調べた特徴を球の中心や半径等の用語を用いて説明することができる。	球の切り口について調べ、球の性質をまとめることができる。		多面的にみる。 (くまで)
8	学習活動の生活への活用 (いかしてみよう) ・こま作り ・きれいな模様づくり	既習事項を活用し、筋道立てて考え、問題を解決している。	既習事項を活用し、問題を解決している。	① ⑤	
9	学習内容の習熟・定着 (たしかめよう) 数学的な見方・考え方の振り返り (つなげていこう 算数の目)	学んだことを振り返りながら、練習問題がとける。	基本的な問題を解決することができる。		
10	学習内容の評価（テスト）				



# 授業構成図

## 本時のねらい

球を含むいろいろなまるい形の物について真上や真横から見て調べ、どこから見ても円に見えるという球の特徴を理解することができる。  
 (自分の考えを順序立ててわかりやすく表現することができる◎)  
 (課題対応能力★)

## 目指す子どもの姿

S A+見える形ごとに仲間分けをし、他の形との比較をしながら球の特徴を説明することができる。  
 A 形調べを通して、他の形とちがう球の特徴に気付き、球の特徴をまとめることができる。

## 引き出したい具体的な表現

S 見る方向によって、「円と長方形に見える形」「円とだ円に見える形」などがあるが、球は「どこから見ても円に見える形」です。  
 A 球は、他の形とちがって、どこから見ても円にしか見えない形です。

## 深い学びの視点

- ① 既有知識を関連付けて考え、一階層上の知識を得る。
- ② 獲得した知識を汎用的に活用する。
- ③ 学習の目的を、より高い目的に価値づける。

見通しや実行方法を発想する場面

## ⑤ 自力解決をする。★

◆シルエットが見える装置を用意し、自分たちで形の影を見ながら、どんな形に見えるか調べられるようにする。また、ワークシート(表)を用意し、調べたことを整理しやすくする。  
 C この形は、どこから見ても円に見えるな。  
 C この形は、真横から見ると長方形に見えるけど、真上から見ると円に見える。

◆自力解決の途中で、円や長方形等に穴が開いた紙(シート)を数枚提示し、影ではなく実物を円や長方形、楕円等に見ることができると正確にさせ、表に同じく整理させる。  
 ◎全体で確認をする。◎

C 真ん丸のボールは、どこから見ても円に見えました。  
 C 大きさはちがっても、どこから見ても円に見えるものがたくさんありました。  
 C 缶とラップの芯は、大きさは違うけど、同じ形に見えました。  
 C 真上から見ると円だけど、真横から見ると円ではない形に見えるものもいくつかありました。  
 ⑦ 球についての用語を確認する。  
 T どこから見ても円に見えたこの形には、名前があります。「球」といいます。  
 ⑧ 学習をまとめる。  
 T 今日の学習をまとめましょう。

調べた形には「円と長方形に見える形」「円とだ円に見える形」「どこから見ても円に見える形」などがあった。どこから見ても円に見える形を球という。

対象と既有の知識とを関連づけ、対象が生じる原因を類推

課題を見出す場面

① 本時の問題を把握する。  
 T (平面だけの立体物と曲面のある立体物を分けて見せて)この仲間とこの仲間、ちがう所はどんな所ですか。  
 C ボールの仲間と四角の仲間。  
 C 転がる物と転がらない物。  
 C こっちはまるい所がある。こっちはまるい所がない。  
 T 今日は、こちら側のまるい所がある形について、詳しく調べていきましよう。  
 T 今日は「形」を詳しく調べてほしいので、シルエット装置を用意しました。あれ?置く向きによって形がちがって見えるね。  
 C ふしぎだ。  
 C いろんな形があるから、試してみたい。

## ② 学習課題を立てる。

T これらの物を真上や真横から見ると、どんな形に見えるか調べてみましょう。  
 C やってみよう。  
 学習課題(めあて)  
 まるい所があるいろいろな物は、真上や真横から見ると、どんな形に見えるか調べよう。

## ③ 解決方法の見通しをもつ。

T その形が①どこから見ると、②どんな形に見えるかの二つについて、調べましよう。  
 調べたことを、表に整理して記録していきましよう。

## ④ ルーブリックを設定する。

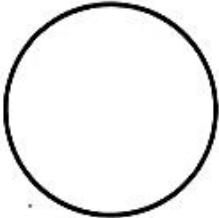
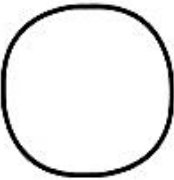


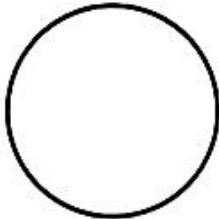
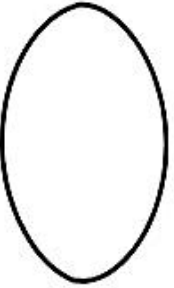
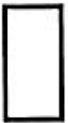

T 今日のAはどうしますか。  
 C いろいろな物がどんな形に見えるか調べて、まとめることができましたらAだと思います。  
 T さらに、仲間分けができて理由が言えたらSですね。

対象と既有の知識との「ズレ」を認識

思考スキル  
「整理する」  
↓  
思考ツール  
「表」


5 思考ツール

<表> 見えた形ごとに整理し、特徴に気付かせるため

	ドッジボール	ラグビーボール	かん	テニスボール
真上				
真横				



## あしたへ ジャンプ ～大きくなった自分のことをまとめよう、つたえよう～

本単元で育成する資質・能力

論理的思考力 自信・主体性・協働

- 1 日 時 令和3年1月28日(木) 第5校時
- 2 学 年 第2学年 男子1名 計1名
- 3 単元のデザイン

(1) 児童について	(2) 単元について
<p style="text-align: center;">—省略—</p>	<p>学習指導要領「自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。」を受けて設定したものである。</p> <p>自分の成長を具体的に実感し、その喜びを感じ、感謝の気持ちをもつことは、夢や希望をもって、前向きに生活していくために大切なことである。過去の自分と現在の自分とを比較することで、自分自身の成長や変容について考え、自分のよさや可能性に気付いていくことにつながることを期待できる。また、これらの活動を通して、自分の成長を支えてくれた様々な人の存在、自分の成長についての様々な人との関わりを明らかにしていきたい。そして、体だけではなく、優しい気持ち、他者への思いやり、我慢する心など内面的な成長に気付かせていき、気づきの質を高めていくことも大切である。</p> <p>これからの自分の成長に期待を寄せ、意欲的に生活することは、自立し生活を豊かにする上で大きな意義をもっているといえる。</p> <p>本単元で学習することを国語科の「ありがとうをつたえよう」や、特別の教科：道徳「おばあちゃん お元気ですか」等の学習とも関連させていく。</p>
<p>(3) 指導の手立て</p> <p>指導にあたっては、本校で目指す資質能力を育成するために、次のような指導の手立てを行う。</p> <p><b>課題の設定</b>では、児童が課題意識を持ち、意欲的に学習を進めるために、「ありがとう！こんなことができるようになったよ、はっぴょう会」というゴールを設定し、地域の人や保護者に伝えるという視点を持たせて、単元全体の簡単な学習計画を示す。また、興味をもたせるために、「生まれたばかりの赤ちゃんの写真」と「今の自分」にできることを比較し考えさせる。</p>	

**情報の収集**では、自分の成長を実感することができるように「生まれた時のようす（体重・身長・名前に込められた願いなど）」「赤ちゃんの時（0～2歳）」「保育所時代」「1・2年生（小学校に入学してから）」と時間の経過を区切り、家族へのインタビュー、写真などの資料収集を通して、情報を集めさせる。また、「2年生」になってからの成長については、自己評価だけではなく、友達からの他者評価（「すごいねカード」「ありがとうカード」など）を活用することで、自信や活動への意欲をもたせていく。幼いころの情報収集が難しい場合は、小学校生活の中での成長を詳しく取り上げる。

**整理・分析**では、自分の成長について、みんなに知って欲しいことや新たに分かったこと等、幼いころの自分との違いを比べながら、「せいちょうアルバム」に載せる内容を明確にさせる。

**ESDとSDGsの視点**としては、本単元を通して自信や自らの成長に向けた意欲を培うことで、持続可能な社会を実現するための市民になるための資質・能力を育成することにつながっていく。市民として連帯し協働するためには、人を大切にすることが土台として必要であるが、そのためにもまず自分のことを大事に思える児童に育てなければならず、本単元がその一助となるであろうと考える。

(4) 単元の目標

○自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、  
 自分のことや支えてくれた人々について考え、**思**  
 自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、  
 自分のよさや可能性に気づき、**知**  
 これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、  
 意欲的に生活しようとするすることができるようにする。**学**

(5) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、自分のよさや可能性に気付いている。	・自分自身の成長を振り返り、これまでの生活や成長を支えてくれた人々のことやこれからの成長について考え、それを素直に表現している。	・これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって意欲的に生活しようとしている。

(6) 本単元で育てたい資質・能力とのかかわり

論理的思考力	自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、 ・理由を添えて自分の成長を表したり、自分の成長の根拠（誰の支えがあって成長できたのか）を考えたりすることができる。 ・過去の自分と現在の自分について、比べることができる。
自信・主体性・協働	・課題克服に向けて、やるべきことを自分で選び（成長のまとめ方）、最後までやり切ることで、自信につなげることができる。 ・交流授業では、友達とお互いの良さや成長を伝え合い、家族に自分たちの成長や感謝を伝える発表会をすることができる。

(7) 児童に示す姿

気づく	考えて、まとめて、つたえる	自分からすすんで
①自分が大きくなったこと。 ②自分でできるようになったこと。 ③できるお手伝い・仕事がふえたこと。 ④自分のよさ。 ⑤もっとできることがあるぞ。	①自分のせい長をふりかえる。 ②これまでの生活やせい長をささえてくれた人々のことを考える。 ③それをまとめてつたえる。	①これまでの生活やせい長をささえてくれた人々にかんしゃの気もちをもつ。 ②「これからもせい長していこうぞ!」という気持ちをもつ。












5 単元構成図

【内容の構成と単元の系統性】(全27時間)

学年	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
第2学年	春だ今日から2年生(6) ぐんぐんそだてわたしの野さい(9) どきどきわくわくまちたんけん(9) 生きものなかよし大作せん(12)				うごくうごくわたしのおもちゃ みんなでつかうまちのしせつ もっとなかよしまちたんけん つながる広がるわたしの生活				あしたへジャンプ★本時			

6 指導計画 (全27時間 本時 14/27)

次	主な学習活動 (○交流 ●ひまわり)	評価規準 (評価方法)
一 (3時間) <b>課題の設定</b>	<p>・生まれたばかりの赤ちゃんにできることは何かな？</p> <p>・2年生の今の自分ができるようになったことは何かな？</p> <p style="text-align: center;">大きくなった自分のことを見つめよう。</p> <p>○入学してからのことを、2年生全体で振り返る。</p> <p>●自分のつくった表現作品などを見直して、自分ができるようになったことを見付ける。</p> <p>○自分ができるようになったことを、友達と伝えあう。</p> <p> 何もできなかった赤ちゃんから、どうやってこんなにできるようになったんだろう。</p> <p style="text-align: center;">「ありがとう！ こんなことができるようになったよ、はっぴょう会」をひらこう</p> <p> できることが増えて、すごく成長したんだなあ。家族が、ぼくのことを大切に育ててくれたからなんだね。もっと、自分の成長について調</p>	<p><b>知</b>自分ができるようになったことに気付いている。(発言)</p> <p><b>思</b>過去の自分自身や出来事を振り返り、現在の自分と比較して考えている。(発言)</p> <p><b>主</b>自分自身の成長に関心を持ち、自分の生活や成長を振り返ろうとしている。(行動観察)</p>
二 (3時間) <b>情報の収集</b>	<p style="text-align: center;">大きくなった自分のことをしらべよう。</p> <p>○友達との関わりを振り返り、互いのすてきなところを見つけ、カードにかいて渡し合う。</p> <p>●お世話になった人や家の人などに、自分の成長についてインタビューする計画を立てる。</p> <p>●カードやインタビュー等を手がかりにして、現在の自分と比較して、自分の成長に気付く。</p> <p> うれしいなあ。ぼくの成長を友達が見つけてくれた。家族も先生も、ぼくの成長を見守ってくれているんだなあ。</p>	<p><b>知</b>優しい気持ち、他者への思いやり、我慢する心など、友達と自分自身の内面的な成長にも気付いている。(カード)</p> <p><b>思</b>友達との関わりを振り返り、自分が優しくされたことや友達ががんばっていたことを考え、それを友達に伝えている。(行動観察)</p> <p><b>主</b>意欲的にインタビュー計画を立てている。(行動観察)</p>

<p>三（9時間）</p> <p>整理・分析</p> <p>まとめ・創造・表現</p>	<p>大きくなった自分のことをまとめよう。（本時8／9）</p> <p>○自分の成長について、どんな出来事を、どのような方法でまとめるのかを考える。</p> <p>●資料や材料を集め、決めた表現方法を工夫しながら、自分の成長をまとめる。</p> <p> 分かりやすくするためには、どうしたらいいかな？</p> <p> すげえぞ、ぼく！ 家族が、ぼくのためにしてくれたこと—ありがたいなあ。みんなに伝えたいし、みんなのことも、知りたいな。</p>	<p><b>思</b>できるようになったことや、役割が増えたこと等の中から、自分の成長に適している内容や方法を選び、作品に表している。（作品）</p> <p><b>思</b>比べたり、例えたりするなど、見る人が分かりやすくなるように工夫しながら、作品を作っている。</p> <p><b>主</b>自分の成長に誇らしい気持ちを持ち、作品にまとめようとしている。（行動観察）</p>
<p>四（9時間）</p> <p>実行</p>	<p>「ありがとう！ こんなことができるようになったよ。はっぴょう会」をひらこう。</p> <p>○発表会に招待したい人を決め、発表することや方法を考え、発表会の計画を立てる。</p> <p>●○発表の方法を工夫し、準備や練習をする。招待状を出したり、感謝の手紙を書いたりする。</p> <p> ドキドキ、わくわく。お母さん、喜んでくれるかな。</p> <p>○感謝の気持ちを伝える発表会を開く。</p> <p> やったあ！ 大成功だ！！</p>	<p><b>知</b>多くの人の支えによって、自分たちが成長していることに気付いている。（振り返りカード）</p> <p><b>思</b>発表会に招待したい理由を挙げながら招待したい人を考えたり、工夫して発表会の準備や練習をしたりしている。（行動観察）</p> <p><b>主</b>意欲的に発表会の計画を立てて練習し、発表している。（行動観察）</p>
<p>五（3時間）</p> <p>振り返り</p>	<p>すてきな3年生になろう。</p> <p>○自分のよいところや発表で工夫したことを伝え合う。</p> <p>○3年生はどんなことをしているのか、上級生に聞いたり、教室や教科書を見せてもらったりする。</p> <p> へえ、こんな勉強するんだ。楽しみだけど、ぼくにもできるかな。</p> <p>●○3年生になったらしてみたいこと、頑張りたいことなどを考え、伝え合う。</p> <p>●○近い未来の自分に宛てて手紙を書く。</p> <p> 未来のぼく、がんばれ！！</p>	<p><b>知</b>これまで成長してきた自分のよさが分かり、3年生になっても成長していくことができることに気付いている。（振り返りカード）</p> <p><b>思</b>3年生がしていることのうち、自分が挑戦してみたいことについて、友達と話し合っている。（行動観察）</p> <p><b>主</b>意欲的に発表会の計画を立てて練習し、発表している。（行動観察）</p>

7 本時の学習 【14／27】

(1) 本時の目標

入学してから今までの振り返りや調べたことの中から、自分の成長を表すのに最適な出来事を選び出し、それにあつた表現方法を考えて作品にまとめるとともに、自分の成長を見守ってくれている人がいることに気付くことができるようにする。




(2) 本時で育てたい資質・能力

成長の足跡となる作品作りの楽しさや達成感を感じることができる。(自信・主体性)

(3) 準備物

友達や先生方からの「ありがとうカード」「すごいねカード」・ビデオレター・「できるようになったよカード」・作品を作るための用紙・マジック・色鉛筆・シール・写真(赤ちゃん)  
(本児の1年生時代と2年生の現在) など

(4) 学習計画

学習活動	指導上の留意事項(・) 児童への支援の手立て(◆)	○評価規準(評価方法) ☆資質能力
1 前時までの学習を振り返る。 ・生まれた時から小学校に入るまでの成長を振り返る。  2 本時の学習課題を確認する。	◆写真などを準備して、視覚的に振り返ることができるようにする。 ◆どんなまとめ方をしたいか事前に考えさせておく。	
小学校に入学してからのせい長をまとめよう。		
3 自分の思考を深める。 (自己との対話) ・自分が見つけた「自分ができるようになったことカード」を振り返る。 (他者との対話・自己との対話) ・1・2年学級の友達や先生方からもらった「ありがとうカード」「すごいねカード」を読む。	◆本時の流れを掲示しておく。 ◆見つけにくい場合は、気付けるよう具体的なアドバイスをする。	
	うれしいな。友達も先生も、ぼくのことよく見てくれているなあ。	
4 カードを選択し、作品を作る。  	◆簡単な作り方を提示する。 ◆要求があったら、作成の支援を行う。	
どんな工夫をしようかな。できたら、先生たちといっしょにするのが楽しみだな。		
5 交流する。  6 本時の学習をふり返り、次時の確認をする。	◆活動は、児童に自ら進めさせる。 ◆交流に参加しながら、肯定的評価を多用する。	○できるようになったことや、役割が増えたこと等の中から、自分の成長に適している内容や方法を選び、作品に表している。(作品)。
楽しかった！ ぼく、がんばって力をつけてきたなあ。2年生のみんなは、どんなまとめをしているのかな。次は、伝え合いをしたいよ。		
		 ☆成長の足跡となる作品作りの楽しさや達成感を感じている。(自信・主体性)

(4) 板書計画

④ 小学校に入学してからの  
せい長をまとめよう

一月二十八日(木)

**じゅぎょうのながれ**

○あいさつ

- 1 今日の めあて
- 2 できるようになったことを考える。
  - ・自分で
  - ・友だちや先生から
- 3 作ひん(すごろく)作り
- 4 交りゆう
- 5 まとめ・ふりかえり

☆おわりのあいさつ

**せい長すごろくのつくり方**

- 1 スタートとゴールをきめて、道をかく。
- 2 せい長のカードをえらんで、書いて、はる。
- 3 間の道に、シールをはる。
- 4 上げて、くふうをする。

作品

◎ よいすごろくができたぞ！ すごくせい長してるのがわかった。

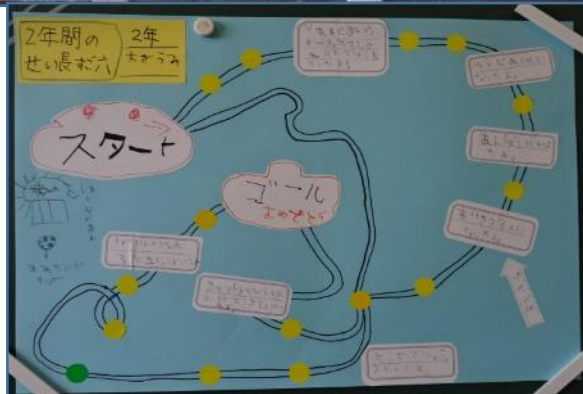
⑤

8 授業の実際

(1) 板書



(2) 指導の手立ての具体



- 「見通しを持たせるため」と、「時間内に本時のねらいが達成できる」よう前時に「スタート」と「ゴール」道を書いておいた。
- 本児の集中力が持続することと時間短縮のため、シールになった枠カード(字を書きやすいよう罫線入り)やコマを進めるための○シールを準備した。
- 14時30分からすごろくができるよう意識させるために時計を机上に置いた。
- 本児の工夫としてのアイデア・絵など、大いに認めて肯定的評価をした。
- 友達や上級生・先生方からもらった「すごいねカード」や「ありがとうカード」は、整理しやすいようセロテープで留め一覧にした。そして、カードを選ぶときに、印となる物を置いた。
- 集中が続くよう短いスパンで様々な活動を仕組んだ。例えば、上級生からの「すごいねカード」は、クロムブックで録画したものを大画面モニターで写すことで、実際にこの時間に届けてもらったようにした。
- 板書では、「赤ちゃん」→「入学式」→「2年生の自分」と矢印を斜め上へ伸ばすことで、視覚的に自分の成長を感じることができるようにした。

### (3) 振り返り

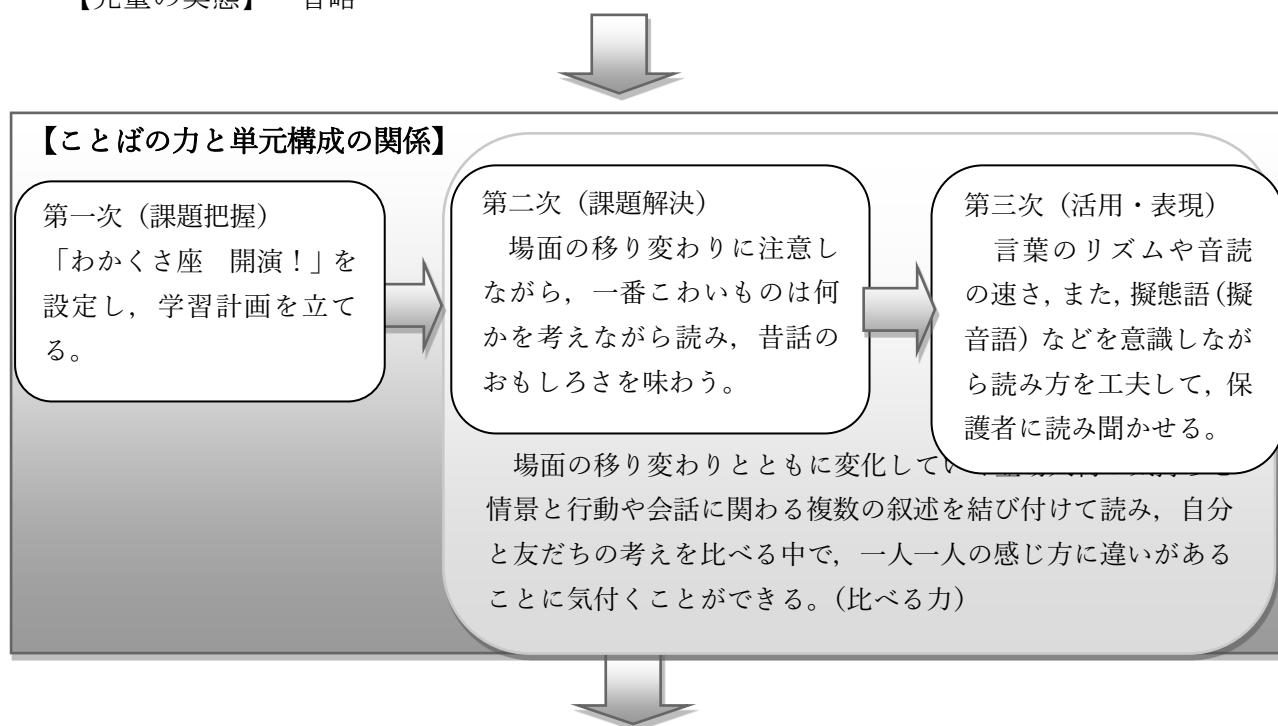
- 特別支援学級の指導案は、A(実態把握から始める)→PDCA。「指導案が手立て」となるよう指導案の中に具体的な手立て(○○だから、～する。)を入れる。
- 本時の目標の1つ目「入学してから今までの振り返りや調べたことの中から、自分の成長を表すのに最適な出来事を選び出し、それにあった表現方法を考えて作品にまとめる」は、「すごろく」を選んだことで、最後までやりきることができたし、楽しみながら繰り返し自分の成長にも気づくことができたが、2つ目の「自分の成長を見守ってくれている人がいることに気付くことができるようにする。」に課題が残った。本時のめざす山(めあて)を最初に示しておけばよかった。「思考を深める場面」の思考、思考の根拠が見えにくいので工夫が必要。また、振り返りの場面では、「できたシール」や「できたマーク」などの工夫があるとよい。



## わかくさ2組（自閉症・情緒障害学級）国語科学習指導案

- 1 学年 第4学年 1名 第5学年 1名 計2名
- 2 日時 令和元年10月4日（金） 第5校時
- 3 単元名 わかくさ座 開演！ 【付きたい資質・能力：思考力・対話力】
- 4 教材名 「ふるやのもり」（光村図書）
- 5 単元の目標
  - 表現したり理解したりするために必要な文字や語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解する。 【知識及び技能】
  - 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。 【思考力・判断力・表現力等（読むこと（1））】
  - 昔話に関心を持ち、楽しみながら読んだり、読み聞かせたりしようとする。 【主体的に学習に向かう態度】
- 6 単元設定について

【児童の実態】—省略—



### 【学習後のめざす子どもの姿】

- 情景と行動や会話に関わる複数の叙述を結び付けて読み、場面の移り変わりとともに、登場人物の心情がどのように変化しているのか考えることができる。 （思考力）
- 自分の考えを伝え合い、相手の考えを認め合うことができる。 （対話力）

### 【教材観】

#### ○教材の特徴

「ふるやのもり」の教材は、ばあさまがじいさまに「どろぼうよりも、なによりもいちばんこわいものはなんじゃ。」と、たずねることから始まる昔話である。『ふるやのもり』の正体を見つけようと児童が、興味を持ち続けながら学習を進めることができる内容だと考える。一見、怖くて強そ

うと思われている馬どろぼうとおおかみが、得体の知れない「ふるやのもり」という言葉に疑心暗鬼を覚える。その勘違いが、こっけいな行動を引き起こし、弱さを露呈してしまう点に、児童たちもおもしろさを感じ取ることの作品である。

この話は、場面がテンポよく展開していくので、様子を想像しながら楽しく表現できる教材であると考えられる。言葉のリズムや間の取り方などを工夫しながら、意欲をもって他者に楽しく読み聞かせる活動ができるように学習を進めたい。

後半部は、さるの外見の起源話ともなっており「なるほど。」「本当にそうだろうか。」といったことを考える楽しさも味わわせたい。

○教材の構造・着目する描写

起

【物語の設定】

昔 ある村の外れ じいさんとばあさん 仔馬を育てていた

承

【いちばんこわいものは、なんじゃ】

じいさん—「そりゃ、山のお犬の、おおかみじゃ。」

ばあさん—「こんな古い家は、風ふきやふるう、雨ふりやしみる。おりゃ、どろぼうよりも、おおかみよりも、この世でいちばんこわいものは、ふるやのもりじゃなあ。」

【ふるやのもりというもんは、どんな化け物だろう】

- ・雨がざんざとふってきて・・
- ・雨漏りがぽつりぽつりとして・・

じいさんとばあさん—「そら、ふるやのもりが出た。」

- ・そのとたんに、ぼとん。
- ・首っ玉に、雨もりが一しずく・・

転

【ふるやのもりというもんを、退治してくれまいか】

内 さる ・しっぽでさぐってみる

・これもうんとふんばり

・つんのめり・・顔を真っ赤に



外 どろぼう ・しっぽをたぐって登り始めた。

・足をうんとふんばり

結

【指導観】

指導に当たっては、次の4点に留意して学習活動を進める。

- ① 昔話には、話の面白さに加え、独特の語り口調や言い回しなどがあることに気づかせ、親しみを感じ取らせる。
- ② 心情や情景を表す言葉にこだわり、挿絵の活用や動作化を取り入れながら想像を広げて読ませる。
- ③ 自分の言葉で伝えることで、語り手と聞き手の交流を図り、そのことが心温まるコミュニケーションの一手段になることを体感させる。
- ④ 学習の流れを視覚的に示したり、個に応じたワークシートを準備したりと学習意欲が持続するよう工夫しながら指導する。

7 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現 (読むこと)	主体的に学習に向かう態度
昔話に特有の語表現に気づいている。	場面の移り変わりや人物の様子を捉えている。	場面の様子を想像しながら、昔話を楽しんでいる。

ことばの力	登場人物の気持ちの変化を、相手に分かりやすく伝えることができる。
-------	----------------------------------

8 指導計画 (全4時間 本時は4/4)

	主な学習活動と手立て	評価規準 (評価方法)
第1課題設定 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昔話について交流する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・知っている昔話や心に残っている昔話について紹介する。</li> </ul> </li> <li>○昔話を読み聞かせる。 「つるのおんがえし」「ねずみきょう」</li> <li>○感想を交流する。</li> <li>○学習の計画をたてる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔話50話の表に○を書き入れている。(ワークシート)</li> <li>・挿絵を見ながら題名を言っている。</li> <li>・昔話独特の語り口や言い回しを味わい、昔話を楽しんでいる。(発言内容)</li> <li>・登場人物や話の展開、言い回しなど面白かったところなどを交流することができる。(発言内容)</li> <li>・昔話に興味をもつことができる。(発言内容)</li> </ul>

<p>第二 次 課題 解決 (1)</p>	<p>○「ふるやのもり」のお話を楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読して、物語の大体の内容を捉える。</li> <li>・題名と挿絵から、想像を広げる。</li> <li>・おもしろかったところを交流する。</li> </ul> <p>【比喩】 たわしのようなひげづら 風のように飛ばすし</p> <p>【擬態語・擬音語】 ひゃあ きゃあ にかにか ガチャガチャ</p> <p>【七音のリズム】</p> <p>風ふきゃふるう 雨ふりゃしみる どろぼうよりも おおかみよりも ふるやのもりが いちばんこわい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・想像を広げて表現しよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物など、話の大体を捉えている。 (発言内容)</li> <li>・文章や挿絵を基に、登場人物の行動・心情を読み取っている。(ワークシート・発言内容)</li> <li>・話のおもしろいと思ったところを交流することができる。 (ワークシート・発言内容)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫して音読したり、毛筆で表現したりしている。(音読・作品)</li> </ul>
<p>第三 次 活用・ 表現・ 評価 (2)</p>	<p>○読み聞かせをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割分担を決める。</li> <li>・読み聞かせを工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話のおもしろさを取り入れている。 (読み聞かせ・行動観察)</li> </ul>
	<p>○「わかくさ座」開演!</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせのポイントと理由を交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせを楽しんでいる。 (読み聞かせ)</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後まで工夫して、読み聞かせをしている。(読み聞かせ)</li> </ul>

## 8 本時 (4 / 4)

### (1) 本時の目標

- 読み聞かせポイントと理由を発表することができる。
- 友だちと力を合わせて、昔話『ふるやのもり』の読み聞かせ会ができる。


### (2) 準備物

- ・挿絵, 扇子

(3) 学習展開

	学習活動 主な発問・指示	(・) 指導上の留意点 (※) 個別の支援方法	評価 (評価方法)
課題の把握	<p>1 挨拶をする。</p> <p>2 お話ゲームをする。</p> <p>3 前時の学習を想起する。</p> <p>4 本時の学習課題と本時の流れを把握する。</p> <p style="text-align: center;">「わかくさ座」を開演しよう！</p>	<p>・学習の流れが分かるようにスケジュールを提示する。</p> <p>・登場人物の関係を掲示物で確認する。</p>	<p>・登場人物の関係を理解している。 (発言内容)</p> <p>・本時の流れを注視している。 (行動観察)</p>
課題の解決	<p>5 開演に向けて</p> <p>「読み聞かせポイントと理由を合わせてどうぞ！」</p> <p>「風ふきやふるう 雨ふりやしみる どろぼうよりも おおかみよりも ふるやのもりが いちばんこわい」 七音をリズムよく</p> <p>「きゃあ、・・・。」 「ひゃあ、・・・。」 擬態語を大きく言いたい。</p> <p>6 発表する</p> <p>さあ！ わかくさ座 開演です。</p>	<p>※</p> <p>・掲示物を活用するように声かけする。</p> <p>・必要に応じて動作化を取り入れる。</p>	<p>・ポイントと理由を発表する (発言内容)</p> <p>・相手を意識しながら最後まで読み語りする。 (表現内容)</p>
まとめ	<p>7 ふり返りをする。</p> <p>8 挨拶する。</p>	<p>・本時をふり返り、ふり返りカードに記入する。</p>	<p>・本時の自己評価をしている。 (ふり返りカード・発言内容)</p>





挿絵

④ ふり返り 演！ 用

③ わかくさ座

② お話ゲーム

① 挨拶

わかくさ座 弘田千樹  
河村拓海

ふるやのもり

## 自立活動学習指導案

- 1 日 時
- 2 学 級 自閉症・情緒障害特別支援学級
- 3 場所 あおぞら学級
- 4 題材名 「あおぞら チャレンジ」

～コグトレ（認知作業トレーニング）で、学習に必要な力をつけていこう～

### 5 本題材を通して育成をめざす資質・能力

やりぬく力（主体性）	自らへの自信（自己肯定感）
自分の得意なことを生かし、不得意なことは支援を受けたり、助けられたりしながら課題に取り組み、解決方法を見つけることができる。	自分のよさや、可能性に気付き、友達を助けたり、助けられたりしながら活動することができる。

### 6 題材設定の理由

この題材における、主な自立活動の内容と目標

関連する特別支援学校学習指導要領 自立活動の内容

- 1 健康の保持  
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること
- 2 心理的な安定（小学部・中学部学習指導要領第7章第2の2）  
(1) 情緒の安定に関すること
- 4 環境の把握（小学部・中学部学習指導要領第7章第2の4）  
(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること

### ○児童観

—省略—

### ○題材観

児童の実態について観察を基に、表1（学習指導要領自立活動の6区分27項目によるチェック表 自作）表2（自閉症教育の7つのキーポイントによるチェック表）表3（ICFから抜粋したチェック項目）で照らし合わせた結果、多くの項目で困難を示す部分に共通の項目が見られた。特に、他者と「よりよく関わる力」と、「認知機能の弱さ」からくる不適切な行動・学習への取り組み方に課題が大きいことが明らかになった。

これらのことから、あおぞら学級では、自立活動において、個々の課題に応じた「コグトレ」（認知作業トレーニング）と「自分にあった学び方探し」（学び方を学ぶ）に取り組んでいる。特に算数科の学習に必要な力を内容として「あおぞらさんすうチャレンジ」を設定した。1学期は、自分の特徴などを理解し、集団の中で自分の気持ちをコントロールし、論理的思考の基礎となる力を養うことを目的とした内容に取り組んでいる。将来の自立と社会参加に向けて必要な力の育成を常に意識して取り組んでいく。

本題材においては、注意集中力や、文章題などを考える時に必要な関係性の理解や論理的思考などの基礎となる力の獲得に重点をおいていく。個々の課題に応じて、各学年の算数科の内容理解を支える基礎的な力の獲得を目指したトレーニングに取り組みせ、障害による学習上の困難を改善・克服していくことにつなげていきたい。また、個別の取り組みに集団での要素も取り入れ、コミュニケーション能力の向上にもつなげていきたい。

## ○指導観

個々の認知の特性から必要な、視覚的な支援、見通しへの支援、感覚の過敏・鈍麻への配慮などを考慮して学習に取り組んでいく（個々への支援については本事案参照）。また、注意集中に課題が大きいため、状況の理解が不十分となって不安が大きくなり課題に取り組めなくなる可能性も考えられる。特に、研究授業では、たくさんの人に参観されることで、不安が大きくなったり、集中して取り組めなかったりする児童が出てくると考えられる。よって、この1時間のプログラムの中では、児童の意欲が継続するように、いくつかの動きがありゲーム性のある活動や、自分の得意なことがいさせる活動、参観者とのふれあいのある活動を仕組んでいく。

本時では、特に“関係性の理解”にねらいをしぼった内容に取り組む。グループで考える要素を取り入れることでコミュニケーション能力の向上を図り、活動の内容に関係性を理解しようとする意欲をもたせていくことで、必要なスキルの習得へとつながっていくと考える。また、今後1人でワークシートに取り組むための前段階として本時を位置づけている。1時間の個々の課題と目標をはっきりさせ、自分の得意なことをいかしながら苦手なことも「がんばることができた」とふりかえることができるようにしていきたい。

## 7 題材の目標

○学習に必要な認知能力の向上を図る。

## 8 指導計画

「あおぞら さんすう チャレンジ！」（全8時間 および 学校生活の中で）

①	自分のとくいなことは どんなこと？ にがてなことは どんなこと？	○学年内容の計算問題・文章問題 の得意・不得意について考える。
② ～ ③	考えよう！ とくいになるためのトレーニング。	○どんなトレーニングがあるか知る。 ○これからの自分の目標を考える。
④ ～ ⑦	やってみよう！ とくいになるためのトレーニング。本時⑤	○いろいろなトレーニングに取り組む。 ○トレーニングをしながら、自分をふりかえり、目標を見直す。
⑧	これからの あおぞらチャレンジ	○これからの学習の中で、どんな力がついたらいいのかまとめる。

## 9 本時の目標

### ○全体の目標

ルールを守って活動に参加し、物事の関係性を考えながら問題に取り組むことができる。

### ○個々の目標

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さわぎたくなる気持ちをコントロールし、活動のやり方に従って、みんなと一緒に取り組むことができる。</li> <li>・絵や図を使って、関係性問題を考えることができる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちをコントロールしながら、集中して活動することができる。</li> <li>・「～は～より」などの言葉や、絵・図を使って、関係性問題を考えることができる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・負けたり、自分の意見が通らなかったりする時にも、気分を立て直すことができる。</li> <li>・文章や図から、物事の関係性問題を考え、その考えを友達に伝えながら活動することができる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの友達と考えが違って受け入れ、みんなで協力することを意識して活動に参加する。</li> <li>・グループの友達の考えも受け入れながら、物事の関係性問題に取り組むことができる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の得意・不得意を考え役割を提案するなど、相手意識をもったリーダーシップをとって活動に参加する。</li> <li>・文章や図を使って、グループの友達にも分かるように説明しながら物事の関係性問題を考えることができる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを提案するだけでなく、グループの友達の意見を聞きながら活動に参加できる。</li> <li>・どのやりかたを使うのか友達に説明しながら、物事の関係性問題を考えることができる。</li> </ul>

## 10 準備物

○1時間の見通し表 コグトレ棒

活動に使用する物（説明表 関係性理解のワークシート 関係を考えるための絵や図など）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ( <input type="checkbox"/> 課 題, ○支 援, ☆評 価)						全 体
	A	B	C	D	E	F	
<p>1 始まりのあいさつ</p> <p>2 ウォーミングアップタイム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コグトレ棒で人と動きを合わせ、注意力や協力することを練習する。</li> <li>・深呼吸をする。</li> <li>・計算チャレンジ</li> </ul> <p>3 本時のめあてを知る</p> <p>4 「コグトレ 順位決定戦」の問題に取り組む。</p> <p>○絵を見て、かけっこの順位を考える問題に取り組む。</p> <p>○前時に作成した作戦ボックスを使って、言葉・絵・図などをもとにかけっこが速い動物を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人でやってみる。</li> <li>・みんなでどうやったら分かりやすいのか話し合う。</li> <li>「どうやったら、順番が分かりやすくなるのか考えましょう。」</li> <li>・みんなで意見を出し合いながらやってみる。</li> <li>・どうやって取り組んだのか、発表する。</li> <li>・発表を基に、もう一度問題に取り組む。</li> <li>・グループの中でよかったことを発表する。</li> </ul> <p>○目標への振り返りを発表する。</p> <p>5 終わりのあいさつ</p>	<p>○日直の方を向いたり、姿勢を意識させたりするように声をかける。</p> <p>○人の動きに合わせることで、注意力訓練をする。</p> <p>○自分の計算目標を意識させるように声をかける。</p>	<p>○姿勢を意識させる。</p> <p>○人が多く不安が大きい時には、個別に声をかける。</p> <p>○人の動きに合わせてるように、ペースを考えさせる。</p> <p>○参観者がいて落ち着かない場合には、普段の目標が達成できなくてもよいことを伝える。</p>	<p>○大きな声であいさつするように意識させる。</p> <p>○落ち着かないときには、個別に声をかける。</p> <p>○人が自分のペースと違っていても、気持ちをコントロールするよう声をかける。</p> <p>○友達より、タイムが遅くなくてもよいことを伝える。</p>	<p>○姿勢を意識させ、日直に注目させる。</p> <p>○適切な態度が取れるように声をかける。</p> <p>○人の動きに合わせてることで、相手のことを考える訓練をする。</p> <p>○自分が早く終わっても、待つことができるように声をかけておく。</p>	<p>○学習が始まることをしっかり意識させる。</p> <p>○姿勢を意識するよう声をかける。</p> <p>○人の動きを考え、相手のことを考えるように声をかける。</p> <p>○自分の目標タイムを大切にするように声をかける。</p>	<p>○日直の方を向いたり、姿勢を意識させたりするように声をかける。</p> <p>○相手の動きに合わせて、集中して取り組むように声をかける。</p> <p>○自分が早く終わっても、待つことができるように声をかけておく。</p>	<p>○学習のながれを示し、1時間のスケジュール表を提示し、見通しをもたせる。</p> <p>○たくさんの人とともに学習に臨むことへの緊張感を和らげることができるように、働きかける。</p> <p>○深呼吸で心理的な安定を図り、学習活動の切り替えにつなげる。</p> <p>○注意集中をコントロールするように働きかける。</p> <p>○どんな活動をするのか、視覚的に示し、内容の理解ができるようにする。</p> <p>○作戦ボックスに書いてある作戦をいろいろ使って考えていくように声をかける。</p> <p>○各自の目標を提示し、この1時間の狙いをはっきりさせる。</p> <p>○注意・気持ち・行動のコントロールができていないときにはしっかりほめる。</p> <p>○役割分担や協力することなど、この学習における全体の目標にもしっかり注目させる。</p> <p>○それぞれが協力して取り組めたことを認め、今後の学習に般化できるように声をかける。</p> <p>○学習を振り返り、気持ちのよい終わりのあいさつができるように声をかける。</p>
かけっこが速いのは、どの動物かな？作戦ボックスをつかってかんがえよう！							
	<p>・注意、気持ちのコントロール。</p> <p>・絵や図から問題を考える。</p> <p>○今、自分が何をやる時なのか、声をかけながら進める。</p> <p>○集中できないことが考えられるので、よい態度をほめながら集中できるように促す。</p> <p>○発表の考えがまとまらないときには、一緒に言葉を足しながら発表させる。</p> <p>○書くことは難しいので無理にさせない。</p> <p>☆注意を向け、気持ちをコントロールしながら、活動に参加している。</p> <p>☆絵や図から問題を考えている。</p> <p>○大きな声であいさつするように意識させる。</p>	<p>・集中して活動する。</p> <p>・言葉や絵・図を使って問題を考える。</p> <p>○目で見て覚えることが得意であることをふりかえらせ、今日のゲームでも使えそうだという見通しを持たせる。</p> <p>○グループの友達に自分の言葉で伝えることができるように促す。</p> <p>○発音が聞き取りにくいときには、何を言いたいのか一緒に言葉を足しながら発言させる。</p> <p>☆集中して活動している。</p> <p>☆～は～よりなどの言葉や、絵・図を使って問題を考えている。</p> <p>○日直の方を向いたり、姿勢を意識させたりする。</p> <p>○適切な態度が取れるように声をかける。</p>	<p>・気持ちのコントロール。</p> <p>・友達といっしょに問題を考える。</p> <p>○自分はどの役割をしたらいのか、グループの友達の事を考えながら決められるように声をかける。</p> <p>○集中できないことが考えられるので、よい態度をほめながら集中できるように促す。</p> <p>○友達が自分の思うように動かないときに、気持ちをコントロールできるように声をかける。</p> <p>☆相手のことを考えながら話し合いや活動に参加している。</p> <p>大きな声であいさつするように意識させる。</p>	<p>・気持ちのコントロール</p> <p>・友達の意見を受け入れながら問題を考える。</p> <p>○友達と意見が違うときに、きつい言い方にならないように声をかける。</p> <p>○集中して取り組むことが難しい時には声をかける。</p> <p>○自分の意見に自信がもてなくて発表できないときは、自信がもてるように声をかける。</p> <p>☆違う意見を受け入れながら話し合いや活動に参加している。</p> <p>注目させる。</p> <p>○適切な態度が取れるように声をかける。</p> <p>○姿勢を意識させ、日直に</p>	<p>・相手意識をもった伝え方をする。</p> <p>・友達にも分かるように説明しながら、問題に取り組む。</p> <p>○活動の内容を理解し、友達の得意・不得意を考えながら、やってみるよう声をかける。</p> <p>○リーダーシップを期待していることを伝え、友達への働きかけを促す。</p> <p>○環境により、不安が大きくなった時には、無理をさせず、活動に参加できていることをほめる。</p> <p>☆友達の事を考えて話し合いに参加し、リーダーシップを発揮して参加している。</p> <p>○姿勢を意識するよう声をかける。</p>	<p>・自分の意見を言うだけでなく、友達の意見を聞いて、考える。</p> <p>・注意、気持ちのコントロール。</p> <p>○活動の内容を視覚的に示し、見通しを持たせ、安心させる。</p> <p>○友達の意見も聞くことへの声掛けをする。</p> <p>○気が散って、集中できない時には、今何をやるのか、声をかける。</p> <p>☆友達の意見を聞きながら話し合いに参加し、意欲的に活動に取り組んでいる。</p> <p>○姿勢を意識するよう声をかける。</p>	





表1: 自立活動における実態把握と合理的配慮(自作)

	自立活動の区分・内容	チェック項目 行動(活動・参加)	内容番号	児童の実態 (◎:特に指導が必要 ○指導が必要)						合理的配慮の観点(教育の内容・方法 支援体制 施設設備)
1	<b>健康の保持</b> (1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事 (2)病気の状態の理解と生活習慣に関する事 (3)身体各部の状態の理解と養護に関する事 (4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事 (5)健康の状態の維持・改善に関する事	生活のリズム,十分な睡眠時間の確保 食事・排泄・衣服の着脱(体温の調節など)・整理整頓 病気に関する自己管理・服薬(糖尿病・うつ病・てんかん・アレルギーなど) 健康に注意した生活・ストレスの有無 感覚(視覚・聴覚・触覚・前庭感覚など)の理解,身体部位の適切な保護 自分の特性への気付き 生活するうえで必要な支援を求める 自己管理(食欲・体重・運動)	(1) (1) (2) (2) (3) (4) (4) (5)	( ) (○) ( ) ( ) ( ) (◎) (○) ( )	( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )	(◎) ( ) ( ) ( ) ( ) (◎) (◎) (◎)	( ) (◎) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )	( ) (◎) (○) (○) (○) (◎) (◎) (◎)	○障害や自分の体調に合わせた自己管理 ・病気の理解やストレスの軽減への指導 ○健康な生活に必要な知識,習慣への指導 ・手洗い,うがい,歯磨き指導 ・休憩時間の外遊び ○自己の特性の理解と学習や生活しやすい環境作りの習得への指導 ・自己理解への援助 ・援助希求の獲得 ・自ら感情・行動の調整ができる力の獲得 ・対人関係に関する技能の獲得 ○家庭や医療との適切な連携	
2	<b>心理的な安定</b> (1)情緒の安定に関する事 (2)状況の理解と変化の対応に関する事 (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	感情の自己コントロール 心理的な不安定,不安の軽減 場所や場面の変化の受容 予定変更による混乱・状況に対応する手段の習得 自分の障害の状態の受容 改善克服への意欲の向上,学習意欲に関する事	(1) (1) (2) (2) (3) (3)	(○) (○) (○) (○) (○) (◎)	(◎) (○) ( ) (○) (○) (◎)	(◎) (○) ( ) (○) (○) (◎)	(○) ( ) ( ) ( ) (◎) (◎)	(◎) (○) (○) (◎) (○) (◎) (◎)	○安定した気持ちでいるための知識や方法 ○時間,日程,活動の順序などへ見通しをもつ方法 ○場所や周りの人の変化に対応できる力の習得 ○自ら援助を求めるための方法の習得 ○行動の理由への気付き ○2次障害の予防 ○成功体験,認められる機会の増加	
3	<b>人間関係の形成</b> (1)他者との関わり方の基礎に関する事 (2)他者の意図や感情の理解に関する事 (3)自己の理解と行動の調整に関する事 (4)集団への参加の基礎に関する事	身近な人との信頼関係の構築 周囲の人からの働きを受け止め,応ずる,やり取りをする(言語,非言語) 相手の感情や意図の読み取り 相手とかかわる際の適切な方法 自分の得意,不得意の理解 自己への肯定感 状況に応じた行動 集団の雰囲気の理解 集団参加の手順,決まりやルール理解 遊びや集団活動への参加	(1) (1) (2) (3) (4) (4)	( ) ( ) (○) (◎) (◎) (◎)	( ) ( ) ( ) (◎) (◎) (◎)	( ) ( ) (○) (◎) (◎) (◎)	(○) (○) (○) (◎) (◎) (◎)	(○) (○) (○) (◎) (◎) (◎)	○教員や友達と一緒に楽しい経験ができ,居心地の良い場所の確保 ○他者の感情を読み取り,適切な態度をとるための指導 ・相手の嫌がることは我慢できる,あやまるなど ○自分の長所や短所を知り,それを基に適切に行動するための指導 ○集団活動に参加するための手順や決まりに対する知識,方法の習得 ○遊びや集団活動へ楽しく参加できるスキルと,環境の整備	
4	<b>環境の把握</b> (1)保有する感覚の活用に関する事 (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事 (3)感覚の補助及び代行の手段の活用に関する事 (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動に関する事 (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	視覚・聴覚・触覚・固有覚(運動感覚や位置感覚)・味覚・嗅覚などの活用の仕方 感覚の過敏・鈍麻・鈍麻による自己刺激の有無 視覚処理と聴覚処理,経次処理(言語・順番優位)と同時処理(図・空間優位)かなどの認知の特性の見極め 位置関係の把握・図形・音読・字形・漢字・筆算のずれ・記憶等の把握 周囲の状況への注意力・注視力の形成 ボディイメージ・目と手の協応・手足の協調に関する事 視覚・聴覚・触覚・記憶・位置の把握・時間や順序・分類などの学習に関する基本的な概念の形成	(1) (2) (2) (4) (4) (5)	(◎) (○) (◎) (○) (○) (◎)	(○) (◎) (◎) (○) (○) (◎)	(○) (◎) (◎) (○) (○) (◎)	( ) (◎) (◎) (○) (○) (◎)	(◎) (◎) (◎) (○) (○) (◎)	○自分の感覚の特性に関する知識と,対応する方法の習得 ○目的のものを見る,目的のものを聞くなど,注意を集中する方法の習得,環境の整備 ○感覚の過敏,鈍麻,鈍麻による自己刺激行動への気付きと,対応する方法の習得 ○ボディイメージの獲得や,運動企画ができるようにするための指導 ○目と手の協応動作,両側統合,位置や方向の把握に関する指導 ○特性に応じた,学習への配慮,学習環境の整備 ・分かりやすい指示,教材教具の工夫(話し方,実物・絵カード・写真などの提示,ワークシートやプリントの工夫など) ・静かで集中できる環境づくり ・能力に合わせた情報の提供(読みやすく,聞きやすく,活動しやすくなど)	
5	<b>身体の動き</b> (1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事 (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事 (3)日常生活に必要な基本動作に関する事 (4)身体の移動能力に関する事 (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	姿勢保持,筋力の維持や強化に関する事 体感の動き,上肢,手指の動き 姿勢保持の補助的手段の必要性 食事動作,排泄動作,更衣動作,清潔 書字,描画動作 上肢下肢,手指の動作の不器用さ 作業の遂行能力(正確さ,速さ,持続性)	(1) (1) (2) (3) (3) (5) (5)	(○) ( ) ( ) ( ) ( ) (○) (○)	( ) (○) ( ) ( ) ( ) (○) (○)	( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (○) (○)	( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (○)	(○) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (○)	○座位や机上で作業するための,姿勢を保持する方法 ○頭を下げて礼をする動きなど,ボディイメージに基づいた体の動きへの気付きと習得 ○手指の動作,書字,描画動作への気付きと,適切な動作の習得 ○ボールを蹴るなど,下肢の動作への気付きと円滑な動作の習得 ○生活に必要な動作(食事・排泄・更衣・手洗い・洗面・入浴など)の習得	
6	<b>コミュニケーション</b> (1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事 (2)言語の受容と表出に関する事 (3)言語の形成と活用に関する事 (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事 (5)状況に応じたコミュニケーションに関する事	身振りサインの表出(表情・視線・しぐさ・泣くなど) 周囲の感情への配慮・その場にふさわしい要求の仕方 言葉の受容と表出(相手の意図を受けて言語で対応) 語彙語句,言語イメージの広がり 言葉概念の形成,1語文から2語文,3語文,文章への発展 文法体系の習得,絵本・紙芝居の見聞き コミュニケーション手段の選択と活用 日常会話,状況に応じたコミュニケーション,相手に応じたコミュニケーション 学習場面での発表や司会	(1) (1) (2) (3) (3) (3) (4) (5) (5)	( ) (○) ( ) (◎) (◎) (○) ( ) (◎) (○)	( ) (○) (○) ( ) ( ) ( ) (○) ( ) ( )	(○) (○) ( ) ( ) ( ) ( ) (○) ( ) ( )	( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (○) ( ) ( )	( ) (○) (○) ( ) ( ) ( ) (○) (◎) (○)	○自分の気持ちや考えを伝える方法の知識と習得 ○生活に必要な言葉の意味の習得 ○社会適応に必要な技術や態度を身につけること ○構音機関の働きや,発声・発語に関する気付きと指導 ○語彙数を増やす指導 ○伝えたいことを文章化するための知識の習得と活用 ○相手や状況を考えた会話スキルの獲得	



表2：自閉症教育7つのキーポイントと目標

7つのキーポイント	目標	段階						空欄：できる、ほとんどできる ○：できる時もある △：できない、ほとんどできない										
		(低)			(高)													
		1	2	3	4	5	6											
①自ら学習する態勢になる力 〈学習体制〉	・一人で、食事の時などに椅子に座ることができる。	□																
	・起立や着席を一人で رفتり、大人と一緒に歩調を合わせて歩いたりすることができる。		□															
	・背後、横、正面等からのガイドを受け入れることができる。		□															
	・姿勢を一定にして、10秒以上、机上の課題に取り組むことができる。			□														
	・大人と机上で向き合っ、やり直しながら課題を成し遂げることができる。				□				○									
・最良の態勢になるように、自ら作業（学習）しやすい環境を作ったり、改善したりすることができる。						□			△	△	△	△	△	△	△			
②自ら指示に応じる、指示を理解できる力 〈指示理解〉	・手招きや「こっちにおいで」など、人の働きかけ（指示）に応じることができる。	□																
	・今の行動を修正し、「～して」や「もう一度して」の指示に応えることができる。		□															
	・指示に応じてその場で10秒以上待つことができる。			□														
	・絵や写真、文字などで書かれている内容（指示書）にそって、課題を達成することができる。					□				△	△	○	○	△	○			
	・一度感情が乱れた後でも立ち直り、大人の指示に従うことができる。					□				○	○	○	○					○
・必要に応じて、指示した人の意図を察した行動をとることができる。									△	○	△	○	○					
③自ら自己を管理する力、調整力 〈セルフマネジメント〉	・きがえなどの簡単な日常生活動作が一人でできる。		□															
	・5分以上、座ったり、横になったりして休むことができる。			□														
	・提示された計画にそって、行動することができる。				□					○	○	○	○	○	○			
	・選択肢から自分のしたいことを選び、その通りに行動することができる。					□				△	○	△	○	○	○			
	・自分に適した計画を創り、それに基づいて行動することができる。						□			△	△	△	△	△	△	△		
・自分の役割や課題を理解し、さらに他者に配慮したり協議したりして計画を創り、最後まで取り組むことができる。								□	△	△	△	△	△	△	△			
④自ら楽しいことや嬉しいことを期待して活動に向かう力 〈強化システム理解〉	・好きな物や、好きな活動が2つ以上ある。	□																
	・好きな物や、好きな活動を複数の選択肢から選ぶことができる。		□										○					
	・好きな物や、好きな活動をしてもらうことを期待して、課題を最後まで終わらせることができる。			□														
	・大人や仲間から言語等で称賛されることを期待して、課題を最後まで終わらせることができる。					□				○		○						
	・課題を成し遂げる（完成させる）ことだけを期待して、最後まで終わらせることができる。						□			△	△	△	△	○	△			
・困難な課題でも、1回のお手伝いで10円もらっ、12回貯めてから缶ジュースを買うなど、一日以上の先を見通した期待感をもって課題に取り組むことができる。								□	△	○	○		○					
⑤自ら何か伝えようとする意欲と個に応じた形態を用いて表出する力 〈表出性コミュニケーション〉	・どうしても欲しいものがあるときなど、どんな形であれ、人に何か伝えようとするすることができる。	□																
	・動作（指さしや大人の手をひくなど）を使って、意思を伝えることができる。		□															
	・代替手段（絵カードやV O C Aなど）を利用して、意思を伝えることができる。			□														
	・自分の伝えたいことを、1日、20回以上伝えることができる。				□													
	・困った時に、他人に対して、援助を受けたいと伝えることができる。					□				○	○	△	○	△	○			
	・代名詞や属性（好みの色や、希望する量など）を入れた三語分以上の要求をすることができる。						□											
	・「何が欲しいの？」の問いかけに応じて、ほしいものを伝えることができる。							□										
・「何をしているの」や「何が見えるの」などの質問に応じることができる。								□										
⑥自ら模倣して、気づいたり学んだりする力 〈模倣〉	・身近な人（保護者や兄弟、クラスメートなど）と同じような動作をすることがある。	□																
	・鉛筆を持ったり、ジャンプしたりする動作などを、模倣しようとするすることができる。		□															
	・モデルの人がする一つの動作を、正確に行うことができる。			□														
	・モデルの人がする連続した動作を、同時に行うことができる。				□													
	・示されたモデルを参考にして、同じ動作をする（反復する）ことができる。						□			○								
	・必要に応じたモデルを選択し、模倣する（参考にする）ことで、課題を解決することができる。							□		○								
⑦自ら課題解決のために注視すべき刺激に注目する力 〈注視物の選択〉	・自分の好きなおもちゃやお菓子、テレビ番組を注視したり、注目したりすることができる。	□																
	・指示坊や指さしで注目を促された刺激を、注視したり、注目したりすることができる。		□															
	・少し離れた大人の手元や、机上に示された刺激を、注視したり、注目したりすることができる。			□														
	・2つの刺激のうち、俗世（色や形、大きさ、数など）の違いに注目して選ぶことができる。				□													
	・2つ以上の刺激から、わずかな属性の違いに注目して、仕分けなどを素早く行うことができる。					□				△		○		○				
	・刺激の一部（部品）を見て、全体をイメージして組み立てることができる。						□			△	△	△	○	○	○			

国立特別支援教育総合研究所（2008）「自閉症教育実践マスターブック」の「7つのキーポイントと目標」

表3:ICF(国際生活機能分類)チェック案による把握 本時関係抜粋

分類項目						
<b>心身機能</b>						
<b>1精神機能</b>						
b117 知的機能			1		1	
b126 気質と人格の機能	2	2	2	2	2	2
b130 活力と欲動の機能	2	2	1	1	2	2
b134 睡眠機能	1		3			
b140 注意機能	2	2	1	1	2	2
b144 記憶機能	2	2	1	1	2	1
b164 高次認知機能	2	2	2	2	2	2
b172 計算機能		2	1		1	1
<b>活動と参加</b>						
<b>1学習と知識の応用</b>						
d110 注意して視ること	1	2	1		2	1
d115 注意して聞くこと	2	2	1		3	1
d130 模倣			1		1	
d135 反復	1				1	
d145 書くことの学習	2	2	2	2	2	2
d155 技能の習得	1					
d160 注意を集中すること	2	2	2	1	2	2
d165 思考	2	1	2	2	3	2
d170 書くこと	2	1	1	1	2	1
d175 問題解決	2	2	2	1	2	1
d177 意思決定	1	1	1	1	2	1
<b>3コミュニケーション</b>						
d310 話し言葉の理解	2	1	2	1	2	1
d330 話すこと	1	1	1	1	1	
d335 非言語的メッセージの表出	1	1	1	1	1	1
d345 書き言葉によるメッセージの表出	2	1	1	1	2	1
d350 会話	1	1	1	1	1	1
d355 ディスカッション	2	2	2	2	2	2
<b>7対人関係</b>						
d710 基本的な対人関係	2	2	2	2	2	2
d720 複雑な対人関係	2	2	2	2	2	2
d730 よく知らない人との関係	2	1	1	1	1	1
d750 非公式な社会的関係	1	1	1	1	1	1

ICF 共通評価点		支援のレベル
0 問題なし(なし, 存在しない, 無視できる・・・)	0-4%	自立
1 軽度の問題(わずかな, 低い・・・)	5-24%	見守り・口頭指示
2 中等度の問題(中等度の, かなりの・・・)	25-49%	指さし介助・分部介助
3 重度の問題(高度の, 極度の・・・)	50-95%	全介助
4 完全な問題(全くの・・・)	95-100%	していない・できない





# 自立活動学習指導案

## 題材名 「あおぞらチャレンジ」 ～自分発見大作戦！～

### 1 本題材を通して育成をめざす資質・能力

やりぬく力（主体性）	自らへの自信（自己肯定感）
自分について考える活動を通してより良い人との関り方を学び、自ら実践することができる。	自分の感情や衝動を自分でコントロールできるという自信を身に付ける。 自分も人も大切にできる人間関係を作ることができる。

### 2 題材設定の理由

この題材における、学習指導要領における主な自立活動の内容と目標

<p>児童の実態から関連する特別支援学校学習指導要領 自立活動の内容</p> <p>1 健康の保持（小学部・中学部学習指導要領第7章第2の1） （4）障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること （5）健康状態の維持・改善にかんすること</p> <p>2 心理的な安定（小学部・中学部学習指導要領第7章第2の2） （1）情緒の安定に関すること</p> <p>3 人間関係の形成（小学部・中学部学習指導要領第7章第2の3） （3）自己の理解と行動の調整に関すること</p> <p>4 環境の把握（小学部・中学部学習指導要領第7章第2の4） （2）感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること</p> <p>6 コミュニケーション（小学部・中学部学習指導要領第7章第2の6） （2）言語の受容と表出に関すること （5）状況に応じたコミュニケーションに関すること</p>
--

選定した項目	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
	（4）障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること （5）健康状態の維持・改善にかんすること	（1）情緒の安定に関すること	（3）自己の理解と行動の調整に関すること	（2）感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること		（2）言語の受容と表出に関すること （5）状況に応じたコミュニケーションに関すること
指導目標	自分について考え、よりよく人と関わるができる。		自分の感情や衝動をコントロールできる。		日常生活において自己の心と身体の健康管理を意識する。	
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こころのスキルアップ教育</li> <li>・問題解決のスキル</li> <li>・コミュニケーションスキル（アサーショントレーニング）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・こころのスキルアップ教育</li> <li>・感情、思考、行動の関係と、気持ちのコントロールの仕方</li> <li>・自分のコミュニケーションの傾向</li> <li>・アンガーマネジメント</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・心と身体つながり</li> <li>・気持ちを落ち着ける深呼吸の方法</li> <li>・普段の生活のふりかえりと自分の健康につながる行動について知る。</li> </ul>	

## ○児童観

—省略—

## ○題材観

昨年度取り組んできた自立活動の成果と課題を受けて、今年度は特に自己理解を中心において年間計画を作成した。自分の特徴などを理解し、人と接する時に気持ちをコントロールし、状況に応じて行動を選択・決定・実行する力を養うことを目的とした内容である。将来の自立と社会参加に向けて重要であり、必要な力であることは言うまでもない。また、自己理解については、学習指導要領の内容と目標においても多くの項目で取り上げられている。

本題材においては、『こころのスキルアップ教育（大野裕）』を参考に、認知行動療法的なプログラムに取り組む。自分の気分はその時の考えに影響を受けていることが分かり、しなやかな考え方を身につけていくこと（認知再構成法）をねらいとしている。また、問題解決のスキル、気持ちのコントロール（アンガーマネジメント）の仕方、コミュニケーションのスキルなども学ぶ。自分の課題について具体的に解決したり、よりよいコミュニケーションの方法を身につけたりできる内容であると考えられる。

## ○指導観

個々の認知の特性から必要な、視覚的な支援、見通しへの支援、感覚刺激の過敏・鈍麻への配慮などを考慮して学習に取り組んでいく（個々への支援については本事案参照）。また、どの児童も注意集中に課題が大きいと、状況の理解が不十分となって不安が大きくなり課題に取り組めなくなる可能性も考えられる。特に、研究授業では、たくさんの人に参観されることで、不安が大きくなったり、集中して取り組めなかったりする児童が出てくると考えられる。よって、普段の学習スタイルで、見通しのある活動を中心に、児童の意欲が継続するよう、いくつかの動きがありゲーム性のある活動や、自分の得意なことがいかに活動、参観者とのふれあいのある活動を仕組んでいく。人とのかかわり合いの中で、それぞれの発達に応じた気持ちの理解や接し方、気持ちをコントロールする力の獲得と向上も目指していく。

本時では、あおぞらチャレンジのパターンにそって、コグトレをした後に、「アンガーマネジメント」について学ぶ。自分の怒りの感情を客観的にとらえ、コントロールするためのスキルである。怒りは人間が持っている大切な感情の1つではあるが、怒りの表現や対応を知らなかったり間違えてしまったりすると、相手や自分を傷つけ、人間関係だけでなく心や体にも悪影響を及ぼす。このような怒りの感情のコントロールを学ぶことは本人の将来のためにも、出来る限り早くから取り組むべき深刻な課題だととらえている。発達に応じた理解ができるように、個々の目標を意識しながら取り組んでいきたい。

## 3 題材の目標

- 自分について考え、よりよく人と関わるができる。
- 自分の感情や衝動をコントロールすることができる。
- 日常生活において自己の心と身体の健康管理を意識する。

4 指導計画（全18時間と学校生活の中で）

次	学習内容	○子どもの姿 ●ねらい	評価規準（方法）
一	ぼくのにせもの大戦！ （自分についてかんがえてみよう。）  2時間	○ぼくのにせものをつくるには絵本を作成する。 ・自分についてふりかえてみよう ●絵本の項目にしたがって、今の自分についてふりかえることができる。	適切な自分への気づきがあるか。 （行動の観察、ワークシート）
二	かってにゃん（自動思考）がでてきたら！ ・できごと・考え・気分について知ろう。  3時間	○自動思考とは何か考え、表現する。 ・勝手に頭に浮かんでくる考え（かってにゃん）について考えてみよう ・できごと→考え→気分・行動の流れを知ろう。 ●気分や行動が、その時の考え方により変わることが分かる。 ●自分の傾向に気づき、いろいろな考え方があることを知る。	自動思考とはどのようなものか理解できたか。 （行動の観察、ワークシート ふりかえりの言葉）
三	おなやみそうだん大作戦！ ・問題解決のスキルを学ぼう。 ・ブレストくん登場！  4時間	○問題解決の方法を、具体的な事例を通して知る。 ○悩み相談に答える形式を取りながら、自分ならどうするか、どのように行動すれば解決するのか、考える。 ○おなやみかいけつボックス（解決のためのワークシート）を作る。 ・「なやみ」をかいけつするためのブレストーミングに挑戦しよう！ ●問題解決スキルについて知り、実際に生活の中でも意識できるようになる。	問題の解決について考えることができたか。 問題解決スキルの理解ができたか。 （行動の観察、ワークシート ふりかえりの言葉）
四	気持ちのコントローラー大作戦！ （気持ちのコントロールの仕方を学ぼう。）  4時間（本時1/4）	○怒りの感情について学び、コントロールの仕方を知る。 ○自分の目標を意識しながら、集団でのゲームに取り組む。 ●感情や衝動をコントロールする方法を知り、生活の中でも意識できるようになる。	怒りについて考えることができたか。 感情のコントロールをしながらゲームに参加できたか。 （行動の観察、ワークシート ふりかえりの言葉）
五	アサーションってなあに？ （コミュニケーションスキルを学ぼう。）  4時間	○自分も相手も大切にしながらよりよく人と関わっていくためには、どのようなコミュニケーションが必要なのか知る。 ・アサーションで伝えよう ●自分も相手も大切にできるコミュニケーションについて意識する。	アサーションについて考えることができたか。 （行動の観察、ワークシート ふりかえりの言葉）

<b>六</b>	<p>学習のふりかえり 1時間</p> <p>これまでの学習の実践 (これからの学校 生活の中で)</p>	<p>○これまでの学習をふりかえる。 ・かってにゃん・ブレストくんと仲よくなれたかな。</p> <p>●学習前と学習後の違いを考える。</p> <p>○これからの生活で使ってみる。 ●学習で分かったことや、習得したことを日常生活の中で使う。</p>	<p>学習をふりかえって、自分の変化について考えることができたか。</p> <p>(行動の観察、ワークシートふりかえりの言葉)</p>
----------	---	--	---

## 5 本時の展開

### (1) 本時の目標

#### ○全体の目標

怒りの感情について学び、気持ちをコントロールする方法を考える。

#### ○個々の目標

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなと一緒に怒りの感情をコントロールする方法を考えることができる。</li> <li>・自分の意見だけでなく、人の意見も聞くことができる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のこととしてふりかえり、怒りの感情をコントロールする方法を考えることができる。</li> <li>・自分の考えを友達に伝えながら学習に参加できる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・怒りの感情をコントロールするためには、自分ならどうするかという具体的な方法まで考えることができる。</li> <li>・自分の意見が通らなかつたりする時にも、気分を立て直すことができる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・怒りの感情を自分のこととしてふりかえり、自分ならどうするかという具体的な方法まで考えることができる。</li> <li>・みんなで話し合うことを意識して学習に参加することができる。</li> </ul>

### (2) 学習の展開 別紙

### (3) 準備物

#### ○1時間の見通し コグトレ棒

アンガーマネジメントに使用する物 (ワークシートなど)



(4) 板書計画

あおぞらチャレンジ  
～自分発見大作戦～

ながれ

- ① コグトレぼう
- ② しんこぎゅう
- ③ ペアトレ
- ④ ひみつ
- ⑤ ふりかえり

もくひょう

- ①
- ②
- ③
- ④

④ イカリング登場！みんなどうする？

イカリングボックス

	深呼吸	

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ( <input type="text"/> 課 題, ○支 援, ☆評 価 )				
					全体
<p><b>1 始まりのあいさつ</b></p> <p><b>2 ウォーミングアップタイム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コグトレ棒で人と動きを合わせ, 注意力や協力することを練習する。</li> <li>・深呼吸をする</li> <li>・ペアリラクゼーションをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日直の方を向いたり, 姿勢を意識させたりするように声をかける。</li> <li>○集中して取り組めるように声をかける。</li> <li>○ペアリラクゼーションでは, ふぎげず, 相手が少しでもいい気持ちになるように考えてほしいことを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○姿勢を意識させる。</li> <li>○人が多く不安が大きい時には, 個別に声をかける。</li> <li>○人の動きに合わせてられるように, ペースを考えさせる。</li> <li>○ペアリラクゼーションでは優しい気持ちで相手に接するように声をかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大きな声であいさつするように意識させる。</li> <li>○落ち着かないときには, 個別に声をかける。</li> <li>○人が自分のペースと違っていても, あわてず気持ちをコントロールするよう声をかける。</li> <li>○ペアリラクゼーションでは, 積極的にかかわって行けるように声をかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○姿勢を意識させ, 日直に注目させる。</li> <li>○適切な態度が取れるように声をかける。</li> <li>○みんながどうやったろうまくいか, 考えるように声をかける。</li> <li>○ペアリラクゼーションでは, 自分が相手をリードして働きかけることができるように声をかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のながれを示し, 1時間のスケジュール表を提示し, 見通しをもたせる。</li> <li>○学習に臨むことへの緊張感を和らげることができるといふように, 働きかける。</li> <li>○深呼吸で心理的な安定を図り, 学習活動の切り替えにつなげる。</li> </ul>
<p><b>3 本時のめあてを知る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日めあてについて知る。</li> <li>・怒りの感情をどうやって解消するのか見通しをもつ。</li> </ul>	<p>みんなで, 怒りをコントロールする方法をかんがえよう!</p>				
<p><b>4 ブレーンストーミングタイム!</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようにすれば怒りの感情が解消するのか考える。</li> <li>・自分のイカリングボックスを作る。</li> <li>・みんなでどんな解消方法があるのか話し合う。</li> <li>・自分のお薦めの方法を発表する。</li> <li>○目標への振り返りを発表する。</li> </ul>	<p>どんな時に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなと一緒に解決方法を考える。</li> <li>・人の意見も聞きながら考えることができる。</li> </ul>	<p>怒りの感情が出てくるのかな? まず整理してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怒りのコントロールの仕方を考える。</li> <li>・考えていることを分かりやすく, みんなに伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・怒りの感情のコントロールの仕方を考え, 自分はどうやったらよいか発表できる。</li> <li>・友達の考えも聞き入れながら, 積極的に活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の事としてふりかえりながら, 怒りの感情のコントロールの仕方を考える。</li> <li>・みんなの意見をまとめるということ意識して活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○怒りの感情をキャラクターとして登場させ, 親しみやすさやワクワク感をもたせる。</li> <li>○各自の目標を提示し, 今日は何をするのかという, ねらいをはっきりさせる。</li> <li>○イカリングボックスが完成できるように声をかける。</li> <li>○注意・気持ち・行動のコントロールができているときにはしっかりとほめる。</li> <li>○それぞれが協力して取り組めたことを認め, 今後の学習に般化できるように声をかける。</li> </ul>
<p><b>5 終わりのあいさつ</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大きな声であいさつするように意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日直の方を向いたり, 姿勢を意識させたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大きな声であいさつするように意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○姿勢を意識させ, 日直に注目させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気持ちのよい終わりのあいさつができるように声をかける。</li> </ul>

## 1 本校で育成をめざす資質・能力との関わり

協働性	課題解決力	コミュニケーションスキル
仲間と共に自分達で学びを創ろうとする。	自分を大切にし、他者とのよりよいかかわりを意識して、課題を解決しようとする。	相手のことを意識した行動、声掛けができる。

## 2 単元について

この題材における、主な自立活動の内容と目標

児童の実態から関連する特別支援学校学習指導要領 自立活動の内容

- 2 心理的な安定 (小学部・中学部学習指導要領第7章第2の2)
  - (1) 情緒の安定に関する事
- 3 人間関係の形成 (小学部・中学部学習指導要領第7章第2の3)
  - (1) 他者とのかかわりの基礎に関する事
  - (2) 他者の意図や感情の理解に関する事
  - (3) 自己の理解と行動の調整に関する事
  - (4) 集団への参加の基礎に関する事

### ○児童観

—省略—

### ○単元観

これまでのアセスメントから、8人はそれぞれに、他者の意図や、感情を理解して「よりよく関わる力」と、「認知機能の弱さ」からくる不適切な行動・学習への取り組み方に課題が大きいことが明らかになった。また、コロナウイルスの不安、経験の不足なども考慮し、今年度の自立活動においては、マインドフルネス、「コグトレ」(認知機能トレーニング)と「対人関係ゲーム」に取り組んできた。これらは、自己理解と、集団の中で自分の気持ちをコントロールし、状況に応じて行動を選択・決定・実行する力を養うことを目的とした内容である。しかし、頭では理解できている内容が、実際の場面ではなかなか生かされないという、一般化の難しさを感じてきた。そこで、2学期は「みんなで1つのことに取り組む活動」を意図的に仕組み、同じ目標に向かってやり切る経験をさせていきたいと考えた。

本単元においては、2学期後半の目標として子供達が考えた「みんなで合体」を基に、主に「人間関係の形成」に関わる内容に取り組んでいく。具体的な内容として合奏に取り組むことを話し合いによって決めた。楽器の演奏は、経験もなく自信のない児童もいる事から、大きなチャレンジである。しかし、合奏という活動の中で“助ける”“助けられる”“みんなで作っていく”ことを経験し、他者とのよりよい関わりを、実感として学んでほしい。また、コロナウイルスによる経験の不足も補うことのできる内容であると考えた。

### ○指導観

自立活動では、将来の視点に立って、個々に自立と社会参加を目指した内容に取り組んでいる。よって、指導にあたっては、集団の形態を取っているものの、その中で個々の課題を考えて学習への取り組みを行なっている。(個々への支援については本時案参照)

この單元では、あおぞらチャレンジのパターンにそって、マインドフルネス、コグトレをした後に、「みんなで合体（合奏の取り組み）」の練習に取り組む。ゴールを「3学期の参観日に笑顔で発表ができる」と設定し、そのゴールに向けて、今どんな事が必要なのか考えさせていく。自分に必要なことだけでなく、同じ目標に向かっている集団の視点でも考えさせていきたい。楽器の演奏経験は、1人1人全く異なり、得意不得意もはっきりしている。よって、お互いにカバーし合う、教え合う、協力する、自分の精一杯で取り組むなど、技能ではない面に目を向けていけるように声をかける。自分の演奏スキルを友達への助けに使っている実感、一生懸命取り組んでいる自分への信頼感、協力して一つの事に取り組む達成感など、人間関係の形成に欠かせない視点を大切にしながら、どの児童も安心して自己表現できる学習の場を提供できるようにしていきたい。

本時は、普段と違って参観者がいる。そのことで、不安定な児童が出た場合には、無理をさせず、本人のペースを大切にす。そのためにも、介助員との連携のもと、1人1人の状態には常に目を配っていく。コロナウイルスへの対策についても、考慮しながら、みんなで笑顔のゴールが切れるように支援していきたい。

### 3 単元の目標

- 自分について考え、よりよく人と関わるができる。
- 自分の感情や衝動をコントロールすることができる。
- みんなで協力して、1つのことをやり遂げる。

### 4 指導計画

	学習内容	子供の姿
①	みんなでつくる？なにをつくる？（1時間）	○取り組む内容について話し合い、決定する。
②	考えよう！れんしゅうしよう！（6時間）	○技術の違いに気づき、自分の役割について考える。 ○自分の役割を果たしながら、練習に参加する。 ○自ら、練習する。
③	今ひつようなことは？2時間 （本時 7/12）	○自分の行動をふりかえり、ここからどうすればよいか、自分の目標を考える。 ○自分の役割を再確認し、協力する大切さを考える。
④	発表しよう！（2時間）	○自分の目標を意識しながら、合奏の発表をする。
⑤	これからの約束をまとめよう！（1時間）	○これからの生活の中で、どんなことに気をつけたらこの経験がいきっていくのかまとめる。

### 5 本時の目標

#### ○全体の目標

参観日に向かって、どう行動するのか、目標を考える。

○個々の目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・さわぎたくなる気持ちをコントロールし、みんなと一緒に話し合いや、練習に取り組むことができる。</li> <li>・自分はこれからどう取り組んでいくのか、発表することができる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の自分の演奏をふりかえり、今後の目標を決めることができる。</li> <li>・友達の意見も聞きながら、自分の考えをまとめ、分かりやすく伝えることができる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・不安が大きくなった時に、その気持ちを伝えながら、授業に参加することができる。</li> <li>・できないことがあったり、自分の意見が通らなかつたりする時にも、気分を立て直すことができる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏ができない時にも、あきらめず、練習に参加することができる。</li> <li>・合奏は、自分のスキルだけではなく、みんなで合わせる事が大切だと気付くことができる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達からの提案を受け入れて、練習に参加することができる。</li> <li>・合奏に必要なことは何か、自分の考えとしてまとめ、発表することができる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを提案するだけでなく、グループの友達の意見を聞きながら練習に参加できる。</li> <li>・全体に必要なことは何か考えながら、今後の目標を考え提案することができる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の得意・不得意を考えてやり方を提案するなど、相手意識をもったリーダーシップをとって練習に参加することができる。</li> <li>・全体の状況を考え、どうやったらよりよくなるのか提案することができる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に練習に参加することができる。</li> <li>・友達の提案を受け入れ、今後の自分の目標を考えることができる。</li> </ul>

8 準備物

○1時間の見通し表    コグトレ棒    計算チャレンジワークシート

練習に使用する楽器など（楽器、楽譜）

目標を考えるワークシート、掲示用ワークシート

個性が強い < あおぞら音楽会をひらこう >

<ul style="list-style-type: none"> <li>ねている</li> <li>不安↑</li> <li>愛着</li> <li>自信↓</li> </ul> <p>それぞれ違う方向</p> <p><u>同じ目標に向かおう</u></p> <p>やらせたい。</p> <p>コロナ→音楽X</p> <p>けんぱんハーモニカ リコーダー</p> <p>やっとなぞう水</p> <p>練習できなかつた。</p>	<p>けんぱんできな、 不器用→人に イライラあがる</p> <p><u>みんなと1つに 取組ませたい!!</u></p> <p>友達 } パラ2 学年 } 性格 } 好み }</p> <p>自信がもてれば!!</p> <p><u>目標をもって</u></p> <p><u>2学期月をすす</u></p> <p>つになつて <u>やりきる体験</u></p> <p>メリハリになる 働きかけいく 理由にもなる。</p> <p>自信に なる</p> <p><u>取組み</u>できるかどうか不安は 大</p> <p><u>みんなと1つに</u> <u>チャレンジ</u> にながる</p>	<p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ プログラムを話し合う (みんな)</li> <li>□ 曲を決める (担任)</li> <li>□ 楽譜を作る (担任)</li> </ul> <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 練習 (みんな)</li> <li>□ 会の進行決定 (みんな)</li> </ul> <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 発表する (みんな)</li> </ul> <p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 3/4発表 (みんな)</li> </ul>
--	---	---



学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 <input type="checkbox"/> 課 題, ○支 援, ☆評 価)								全 体
	A	B	C	D	E	F	G	H	
<p>1 始まりのあいさつ</p> <p>2 ウォーミングアップタイム ・コグトレ棒で人と動きを合わせ、注意力や協力することを練習する。 ・深呼吸をする。</p> <p>・「計算チャレンジ」をする。</p>	<p>○日直の方を向いたり、姿勢を意識させたりするように声をかける。</p> <p>○人の動きに合わせることで、注意力訓練をする。</p> <p>○集中できていない時には声をかける。</p>	<p>○姿勢を意識させる。</p> <p>○人の動きに合わせてられるように、ペースを考えさせる。</p> <p>○くじけそうなときは、何のためにやるのかも一度確認する。</p>	<p>○人が多く不安が大きい時には、個別に声をかける。</p> <p>○人が自分のペースと違っていても、気持ちをコントロールするように声をかける。</p> <p>○不安で集中できない時には、無理をしないことを伝える。</p>	<p>○姿勢を意識させ、日直に注目させる。</p> <p>○適切な態度が取れるように声をかける。</p> <p>○しっかり参加できている時には認める。</p> <p>○人と比べて落ち込むときには、自分のタイムと比べることを伝える。</p>	<p>○日直の方を向いたり、姿勢を意識させたりするように声をかける。</p> <p>○しっかり参加できている時には認める。</p> <p>○人の動きを考え、相手のことを考えるように声をかける。</p> <p>○集中してできていない時には声をかける。</p>	<p>○お手本になっていることをしっかり認める。</p> <p>○全体を見ながら声をかけるように促す。</p> <p>○よりよいタイムが出るように、目標を伝える。</p>	<p>○お手本になっていることをしっかり認める。</p> <p>○全体を見ながら、リーダーとして、よりよく活動できるための方法を考えるように促す。</p> <p>○自分のタイムの伸びを目標にさせ、認めていく。</p>	<p>○寝ている時には、声をかけ、学習への参加を促す。</p> <p>○適切な態度や、言葉で学習に参加できるように声をかける。</p> <p>○できている時には、しっかり認める。</p> <p>○よりよいタイムが出るように、目標を伝える。</p>	<p>○学習のながれを示し、1時間のスケジュール表を提示し、見通しをもたせる。</p> <p>○たくさんの人とともに学習に臨むことへの緊張感を和らげることができるよう、働きかける。</p> <p>○気持ち、物をコントロールするように働きかける。</p> <p>○深呼吸で心理的な安定を図り、学習活動の切り替えにつなげる。</p> <p>○各自の目標を提示し、この1時間のねらいをはっきりさせる。</p> <p>○演奏する時には、距離を取って、近づきすぎないようにする。</p> <p>○できていないことがあっても、これからだということを伝え、今後の目標につながるように声をかける。</p> <p>○話し合う内容が、はっきりするように視覚的に支援する。</p> <p>○役割分担や協力することなど、この学習における全体の目標にもしっかり注目させる。</p> <p>○それぞれ考えて出した意見を認め、今後の練習に生かせるように声をかける。</p>
<p>3 本時のめあてを知る</p> <p>○本時の目標をそれぞれに考えて発表する。</p> <p>4 これからの合奏の目標を考える。</p> <p>○今の自分たちの演奏を振り返る</p> <p>・みんなで演奏する。 ・よかったこと、がんばることを考える。</p> <p>○これからの目標を話し合う。</p> <p>・自分の演奏について。 ・みんなでできることについて。 ・これからの練習メニューについて。</p> <p>○本時の目標への振り返りをする。</p>	参 観 日 に む か っ て , ど う 行 動 す る の か 目 標 を 決 め よ う !								
	<p>・注意、気持ちのコントロールができる。</p> <p>・自分の意見が言える。</p> <p>○今、自分が何をする時なのか、声をかけながら進める。</p> <p>○できていないときでも、合わせて演奏できている時にはしっかり認める。</p> <p>○集中できないことが考えられるので、よい態度をほめながら集中できるように促す。</p> <p>○発表の考えがまとまらないときには、一緒に言葉を足しながら発表させる。</p> <p>☆自分の意見を発表することができたか。 ☆注意を向け、気持ちをコントロールしながら、話し合いに参加している。</p>	<p>・分かりやすく相手に伝える。</p> <p>・聞くことにも集中できる。</p> <p>○演奏してできていないところがあった時に、あきらめないように声をかける。</p> <p>○自分の言葉で伝えることができにくい時には、声をかける。</p> <p>○発音が聞き取りにくいときには、何を言いたいのか一緒に言葉を足しながら発言させる。</p> <p>○友達の見聞も聞きながら、自分の意見を言うように、声をかける。</p> <p>☆話したい内容を、相手意識をもって伝えることができたか。 ☆友達の話も聞くことができたか。</p>	<p>・不安を伝えることができる。</p> <p>・注意、気持ちのコントロールができる。</p> <p>○不安が大きい時には、姿勢がくずれていても、自分のペースで参加したらよい事を伝える。</p> <p>○集中できないことが考えられるので、よい態度をほめながら集中できるように促す。</p> <p>○友達が自分の思うように動かないときに、気持ちをコントロールできるように声をかける。</p> <p>○発表できた時には、しっかり認める。</p> <p>☆自分の不安な気持ち等を伝えながら参加できたか。 ☆たくさんの人の前でも、自分の意見が言えたか。</p>	<p>・気持ちをコントロールして、あきらめずに活動できる。</p> <p>○間違えたり、失敗したりした時でも、気持ちをコントロールして参加できる。</p> <p>○友達と意見が違うときに、きつい言い方にならないように声をかける。</p> <p>○集中して取り組むことが難しい時には声をかける。</p> <p>○できていない事ではなく、自分やみんなが一生懸命取り組んでいることが大切だと気付くよう、働きかける。</p> <p>☆違う意見を受け入れながら話し合いやゲームに参加している。 ☆あきらめずに参加できたか。</p>	<p>・友達の見聞も聞きながら、つられることなく、自分の気持ちを伝えることができる。</p> <p>・友達の提案を受け入れて、参加できる。</p> <p>・注意、気持ちのコントロールを意識しながら参加できる。</p> <p>○友達のペースに合わせて参加できるように声をかける。</p> <p>○話し合う内容を、しっかり理解させてから、話し合うようにさせる。</p> <p>○友達が自分の思うように動かないときには、自分のやることに集中できるように声をかける。</p> <p>○友達の思いやったり、全体を考えたりするような意見が言えた時にはしっかり認める。</p> <p>☆友達の提案を受け入れて、参加できたか。 ☆注意、気持ちのコントロールを意識しながら参加できたか。</p>	<p>・友達の意見も聞きながら、つられることなく、自分の気持ちを伝えることができる。</p> <p>・全体に必要なことは何か意識して取り組むことができる。</p> <p>・集団での活動に参加できる。</p> <p>・友達の提案を受け入れることができる。</p> <p>○6年生として、自分だけでなく、友達の様子にも気を配るように働きかける。</p> <p>○話し合いの内容を視覚的に示し、見通しを持たせ、リーダーシップが取れるように声をかける。</p> <p>○友達の意見も聞くことへの声掛けをする。</p> <p>○気が散って、集中できない時には、今何をするのか、声をかける。</p> <p>○友達の意見ではなく、自分の想いを伝えている時は認め、励ます。</p> <p>☆友達の意見を聞きながら話し合いに参加し、自分の意見を伝えることができたか。</p>	<p>・全体に必要なことは何か意識して取り組むことができる。</p> <p>・集団での活動に参加できる。</p> <p>・友達の提案を受け入れることができる。</p> <p>○よく練習していることを認め、たくさんの人の前でも自信をもって参加するように促す。</p> <p>○リーダーシップを期待していることを伝え、友達への働きかけを促す。</p> <p>○環境により、イライラや不安が大きくなった時には、気持ちをコントロールするように声をかける。</p> <p>○全体を考えて今後の目標を発表できた時には、しっかり認め、リーダーとしての立場を意識させる。</p> <p>☆グループの友達の事を考えて話し合いに参加し、リーダーシップを発揮している。</p>	<p>・集団での活動に参加できる。</p> <p>・友達の提案を受け入れることができる。</p> <p>○適切な態度がとれている時には、しっかり認めほめる。そうでない時には、今何をする時なのか、意識する言葉をかける。</p> <p>○目標を決めるときに、6年生として、最後の参観日を意識させる。</p> <p>○環境により、イライラや不安が大きくなった時には、気持ちをコントロールするように声をかける。</p> <p>○全体のことを考えた時、自分の気持ちを伝えることができた時にはしっかり認める。</p> <p>☆集団での活動に参加できたか。 ☆友達と意見のやりとりができたか。</p>	
<p>5 終わりのあいさつ</p>	<p>○大きな声であいさつするように意識させる。</p>	<p>○日直の方を向いたり、姿勢を意識させたりするように声をかける。</p> <p>○適切な態度が取れるように声をかける。</p>	<p>○姿勢を意識するよう声をかける。</p>	<p>○姿勢を意識させ、日直に注目させる。</p> <p>○適切な態度が取れるように声をかける。</p>	<p>○日直の方を向いたり、姿勢を意識させたりするように声をかける。</p>	<p>○姿勢を意識するよう声をかける。</p>	<p>○大きな声であいさつするように意識させる。</p>	<p>○日直の方を向いたり、姿勢を意識させたりする。</p>	<p>○学習を振り返り、気持ちのよい終わりのあいさつができるように声をかける。</p>

特別支援学級(自閉症・情緒障害) 自立活動 学習指導案  
題材名：ひまわりの大冒険  
— プロジェクト アドベンチャーを通して —  
本題材で育成する資質・能力 コミュニケーション能力

1 日 時 令和2年11月6日(金) 第3校時(10:05~10:50)

2 場 所 特別支援学級(自閉症・情緒障害) ひまわり教室

3 学年・組 計 8名

#### 4 題材設定の理由

##### (1) 題材観

本題材は、特別支援学校小学部学習指導要領自立活動「2心理的な安定」「3人間関係の形成」「6コミュニケーション」を受けて設定している。

「自立活動」の内容	2心理的な安定	(1)情緒の安定に関すること。
	3人間関係の形成	(4)集団への参加の基礎に関すること。
	6コミュニケーション	(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること。

この内容を取り扱う。

本題材では、体験学習法をベースにした教育プログラムの「プロジェクトアドベンチャー」を用いて授業を展開していく。この活動の中で、人間関係で最も大切な「人を信頼する心」や成長のために必要な自分自身を見つめ直すということを冒険をベースとしたプログラムを通して体験することができる。さらに、仲間との協力の大切さ、葛藤しながらの課題への挑戦、達成感などを十分に味わわせる。そして、この学習を通して、学んだことを普段の生活(学習や活動)の中で生かしていくことができるようになることを目指す。

##### (3) 指導観

指導に当たっては、毎時間のはじめに4つの約束をみんなで確認しておく。「一生懸命に」「公平に」「心も体も安全に」「楽しく」の約束を守り、目標に向かって活動していくようにする。失敗を恐れたり、勝敗にこだわりが強く、負けたり失敗したりすると機嫌が悪くなったりする児童もいることから、成功体験が味わえ、協力しないとできないような活動をしていく。そして、身体を動かすことや相手と合わせることの楽しさや心地よさを味わうとともに、成功体験を積み自らへの自信を高めていきたい。また、その要因を振り返ることで、協力の大切さや人を信頼すること、コミュニケーションをとることの大切さに気付かせたい。

「友だちと力を合わせて、楽しくできた」「うまくできた」という体験をさせることで、日常生活でも友だちと前向きに関わろうとする気持ちをもたせ、一般化につなげていきたい。

#### <本単元で育成しようとする資質・能力とのかかわり>

クラスみんなで協力してアドベンチャー的な活動をすることで、コミュニケーション能力の素地である思いやりや譲り合いの気持ちを育てていく。そして、友達と一緒に作戦を考えたり、決められたルールの中で互いの意見を聞き合い、思考力・判断力・表現力を高めていく。また、成功体験を味わわせたり、互いの良いところを共有することで自らへの自信を高めていく。

## 5 題材の目標

- 気持ちを落ち着かせ友達と協力しながら話し合ったり活動したりすることができる。(心理的な安定)
- ゲームのルールを守って楽しく活動することができる。(人間関係の形成)
- 作戦や改善点・友達の良かったところなどを自分に合った方法で相手に伝えることができる。(コミュニケーション)

## 6 題材の評価規準

	心理的な安定	人間関係の形成	コミュニケーション
A児	・ふざけることなく一生懸命に活動する。	・ルールを守って活動している。 ・友達の良いところを見つけている。	・作戦を立てるときは友だちの言う事をよく聞き、友達の良かったところを発表している。
B児	・失敗して、かんしゃくが出ても、気持ちを切り替えて挑戦する。	・ルールを守って活動している。 ・友達の良いところを見つけている。	・作戦を立てるときは友だちの言う事をよく聞き、友達の良かったところを発表している。
C児	・目標の達成に向け楽しく活動する。	・ルールを守って活動している。 ・友達の良いところを見つけている。	・友達の良かったところを、自分なりの方法で表現している。
D児	・学習中や活動中は、うまくいなくても最後まで一生懸命に取り組んでいる。	・自分の役割を進んで行い、困っている友達がいると進んで手伝っている。 ・友達の良いところを進んで見つけている。	・みんなが楽しく協力して活動に取り組めるように、励ましの言葉を掛けている。
E児	・ふざけることなく一生懸命に活動する。	・自分の役割を進んで行い、困っている友達がいると進んで手伝っている。 ・友達の良いところを進んで見つけている。	・友達の良かったところを、自分なりの方法で表現している。
F児	・目標の達成に向け楽しく活動する。	・自分の役割を進んで行い、困っている友達がいると進んで手伝っている。 ・友達の良いところを進んで見つけている。	・友達の良かったところを、自分なりの方法で表現している。
G児	・友達の不機嫌な行動があっても、気持ちを切り替え目標に向けて活動する。	・低学年に作戦を教えたり、困っている友達を手伝ったりしている。 ・活動を振り返り成功のための大切なことを考えている。	・作戦をみんなにわかりやすく伝えることができる。 ・成功のために大切なことを伝えている。
H児	・友達の不機嫌な行動があっても、気持ちを切り替え目標に向けて活動する。	・低学年に作戦を教えたり、困っている友達を手伝ったりしている。 ・活動を振り返り成功のための大切なことを考えている。	・作戦をみんなにわかりやすく伝えることができる。 ・成功のために大切なことを伝えている。

## 7 指導と評価の計画（全9時間）

次	時	主な学習活動	評価規準（評価方法）		
		★学習スパイラル	心理的な安定	人間関係の形成	コミュニケーション
第一次	1	・安心していられるグループ作りのために自分たちができていることを考える。（ビーイング） 課題の設定、情報の収集	◎安心していられるために自分にできることを考える。（ワークシート・発表）		
	2	・互いに知り合い、仲間づくりをする。（インパルス） 整理・分析	○目標に向かい一生懸命に活動している。（行動観察）	◎友達の失敗を責めることなく、励ましの声掛けができる。（行動観察）	
第二次	3	・協力ゲーム（こおりお手玉） 実行		◎自分の役割を進んで行い、困っている友達がいると進んで手伝っている。（ワークシート・行動観察）	○友達の良かったところを、自分なりの方法で表現している。（行動観察）
	4	・協力チャレンジと問題解決（マシュマロ） 実行	○友達の不機嫌な行動があっても、気持ちを切り替え目標に向けて活動する。（行動観察・発表）		◎作戦会議や励ましの言葉を掛ける際は、自分なりの方法で伝えている。（行動観察・発表）
	5	・協力チャレンジと問題解決（魚釣り） 実行		○友達と仲良く協力しながら、チャレンジしている。（ワークシート・行動観察）	
	6	・協力チャレンジと問題解決（島渡り） （本時） 実行	○目標の達成に向け楽しく活動する。（行動観察・発表）		◎気づきを出し合い問題を解決している。（行動観察）
第三次	7	・コミュニケーション観察（アヒルとニワトリ） 実行	○振り返って感想を理由をつけて書いている。（ワークシート）		
	8	・コミュニケーション記憶（リズム） まとめ・創造・表現		○友達とリズムを合わせ、そろった時の喜びを味わう。（行動観察）	



## 8 本時の展開

### (1) 本時のめあて (目標)

○気持ちを落ち着かせ友達と協力しながら話し合ったり活動したりすることができる。(心理的な安定)

○ゲームのルールを守って楽しく活動することができる。(人間関係の形成)

A児	B児	C児	D児	E児	F児	G児	H児
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ふざけることなく一生懸命に活動する。</li> <li>○友達が考えた作戦をよく聞き協力できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○失敗して、かんしゃくが出ても、気持ちを切り替えて挑戦する。</li> <li>○友達が考えた作戦をよく聞き協力できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標の達成に向け楽しく活動することができる。</li> <li>○作戦を考え自分の考えを表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習中や活動中は、うまくいかなくても最後まで一生懸命に取り組む。</li> <li>○自分の役割を進んで行い、困っている友達に教えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ふざけることなく一生懸命に活動する。</li> <li>○作戦を考え、それを友達に教えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標の達成に向け楽しく活動する。</li> <li>○作戦を考えたり、友達の考えた作戦を聞くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達の不機嫌な行動があっても、気持ちを切り替え目標に向けて活動する。</li> <li>○活動の中で作戦通りに動けるように低学年にもわかりやすく伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達の不機嫌な行動があっても、気持ちを切り替え目標に向けて活動する。</li> <li>○作戦を考えたり、友達の作戦を聞いて、より良い作戦に高めることができる。</li> </ul>

### (2) 観点別評価規準

A児	B児	C児	D児	E児	F児	G児	H児
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ふざけることなく一生懸命に活動している。</li> <li>○友達が考えた作戦をよく聞き協力している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○失敗して、かんしゃくが出ても、気持ちを切り替えて挑戦している。</li> <li>○友達が考えた作戦をよく聞き協力している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標の達成に向け楽しく活動している。</li> <li>○作戦を考え自分の考えを表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習中や活動中は、うまくいかなくても最後まで一生懸命に取り組んでいる。</li> <li>○自分の役割を進んで行い、困っている友達に教えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ふざけることなく一生懸命に活動している。</li> <li>○作戦を考え、それを友達に教えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標の達成に向け楽しく活動している。</li> <li>○作戦を考えたり、友達の考えた作戦を聞いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達の不機嫌な行動があっても、気持ちを切り替え目標に向けて活動している。</li> <li>○活動の中で作戦通りに動けるように低学年にもわかりやすく伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達の不機嫌な行動があっても、気持ちを切り替え目標に向けて活動している。</li> <li>○作戦を考えたり、友達の作戦を聞いて、より良い作戦に高めようとしている。</li> </ul>

評価方法：行動観察，ワークシート



(3) 本時で育成したい資質・能力の評価基準（達成した児童の姿）

資質・能力	A児	B児	C児	D児	E児	F児	G児	H児
コミュニケーション能力	A 作戦をよく聞き理解して行動してる。 B 作戦を理解しようと友達の話聞いてる。 C 作戦を聞かない。	A 作戦をよく聞き理解して行動してる。 B 作戦を理解しようと友達の話聞いてる。 C 作戦を聞かない。	A 作戦を考え、それを友達に伝えている。 B 作戦を考え自分の考えを表現している。 C 作戦を聞いた話したりしない。	A 作戦通りに活動できるように低学年に教えている。 B 自分の役割を進んで行い、困っている友達に教えている。 C 作戦を聞いた話したりしない。	A ルールに沿った作戦を考え発表し、友達の考えを聞いている。 B ルールに沿った作戦を考え、みんなに伝えることができる。 C 作戦を聞いた話したりしない。	A ルールに沿った作戦を考え表現しようとする。 B ルールに沿った作戦を考えボードに書いている。 C 作戦を伝えようとしない。	A 作戦を理解し友達にわかりやすいように工夫して伝えている。 B 活動の中で作戦通りに動けるように低学年にもわかりやすく伝えている。 C 作戦を伝えようとしない。	A より良い作戦を立てるために、友達の意見を聞きながら考えを高められている。 B 作戦を考えたり、友達の作戦を聞いて、より良い作戦に高めようとしている。 C 良い作戦にするために話し合いをしない。

(4) 学習の展開

学習活動 学習スパイラル	指導上の留意事項及び全体への支援事項(・)								
	個への支援(○) ○評価規準(評価方法)								
	児童								
	A児	B児	C児	D児	E児	F児	G児	H児	

導 入	<p>1 アイスブレイク(リズムリレー)</p> <p>2 本時の学習内容・めあて(全)を確認</p>	<p>・サークルになり、最初の人のリズムを聞き、そのリズムをリレーしていく。</p> <p>○リズムを音声にして表現する。</p> <p>めあて</p>	<p>○リズムを音声にして表現する。</p>														
展 開	<p>3 本時の課題の確認</p> <p>4 作戦を考える</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>しまなみ海道わたり ルール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が順序を守って島をわたる。時間は20分。</li> <li>・必ず橋を使う。橋は手渡し。橋が海につけば全員はじめから。</li> <li>・小さい島に乗ることができるのは3人まで。</li> </ul> </div>								<p>・自分で考えた作戦をホワイトボードに書く。</p> <p>○自分にできることを書かせる。</p>	<p>○自分にできることを書かせる。</p>	<p>○自分にできることを書かせる。</p>	<p>○わたる順序を考えさせる。</p>	<p>○わたる順序を考えさせる。</p>	<p>○わたる順序を考えさせる。</p> <p>○発表を助けるようにする。</p>	<p>○橋の渡し方や順序について考えさせる。</p>	<p>○橋の渡し方や順序について考えさせる。</p>
		<p>・わたる順序や、橋の渡し方を高学年を中心に決める。</p>															

	<p>5 島渡にチャレンジする。</p>	<p>○友達が考えた作戦をよく聞き協力している。</p> <p>○高学年の指示を聞くように支援する。</p> <p>○ふざけることなく一生懸命に活動している。</p>	<p>○友達が考えた作戦をよく聞き協力している。</p> <p>○失敗してもあきらめないうちに声をかける。</p> <p>○失敗して、かんしゃが出て、気持ちを切り替えて挑戦している。</p>	<p>○作戦を考え自分の考えを表現する。</p> <p>○積極的に活動できるように励ます。</p> <p>○目標の達成に向け楽しく活動している。</p>	<p>○自分の役割を進んで行い、困っている友達に教えている。</p> <p>○積極的に活動できるように励ます。</p> <p>○学習中や活動中は、うまくいかなくても最後まで一生懸命に取り組んでいる。</p>	<p>○作戦を考え、それを友達に教えている。</p> <p>○活動のなかで、良いところを認め、声をかける。</p> <p>○ふざけることなく一生懸命に活動している。</p>	<p>○作戦を考えたり、友達の考えた作戦を聞いている。</p> <p>○積極的に活動できるように励ます。</p> <p>○目標の達成に向け楽しく活動している。</p>	<p>○活動の中で作戦通りに動けるように低学年にもわかりやすく伝えている。</p> <p>○活動のなかで、良いところを認め、声をかける。</p> <p>○友達の不機嫌な行動があっても、気持ちを切り替え目標に向けて活動している。</p>	<p>○作戦を考えたり、友達の作戦を聞いて、より良い作戦に高めようとしている。</p> <p>○活動のなかで、良いところを認め、声をかける。</p> <p>○友達の不機嫌な行動があっても、気持ちを切り替え目標に向けて活動している。</p>
<p>まとめ</p>	<p>6 活動の振り返りをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに振り返りを書く。</li> <li>・ピーニングを見ながら、これまでに気付いた協力のために大切なことをヒントにしながら本時の活動を振り返らせる。</li> </ul>							



## — 作成協力者一覧 —

### 三原市立小学校

國延 徹  
峰地 創司  
弓場 晃子  
今川 太晴  
國貞 守男  
前田 秀尚  
栗栖 清  
杉川 理恵  
松本 小和  
渡部 淑江  
山下 真智子  
重廣 泉音  
坂井 高広  
和田 恵芳  
山口 有希恵  
岡 哲也  
井原 幸雄  
原 由史  
鉄本 光  
坂井 敏郎  
高橋 聡  
桜井 明子  
橋本 和佳  
井手口 たまえ  
末森 太覚  
賀志谷 潔司  
土居 延匡  
貞比良 久美子  
前花 真吾  
古川 周作  
中山 恭子

石井 敦  
野田 万実  
杉下 圭子  
白木 尚登  
牧野 麻衣  
菅 和子  
久保田 智  
物見 とも子  
今井 豊  
湯浅 康司  
本沖 多佳子  
東森 幸  
渡邊 清和  
下瀬 真子  
大島 有美子  
沖野 克己  
岸 洋子  
森谷 みゆき  
村上 憲子  
佐藤 誠一郎  
前田 陽子  
増谷 恵梨子

### 三原市立中学校

下久保 積  
梶川 典子  
横山 正幸  
花岡 望  
山田 浩美  
上山 桂子  
安田 洋子  
藤山 和恵

大高 義治  
山内 孝行  
行廣 忠明  
石川 豊  
清水 裕子  
文字 恭子  
大平 総一郎  
村本 みのり  
幸家 真理  
沖 由紀  
武田 和治  
金行 浩二  
豊岡 崇  
平川 翼

### 三原特別支援学校

峯本 英紀 (校長)  
広兼 千代子(教頭)  
新重 雄也  
仁田 光  
宮下 奈々  
多田 麻美  
小・中学部先生方

助言・添削等,  
事例集の作成を  
支えてくださった  
全ての皆様





## — おわりに —

実践事例集の内容はいかがでしたか。

特別支援学級に在籍する児童・生徒一人一人が「前向きに生活できるようになったよ。」「できることが増えたよ。」「勉強をするって楽しいな。」など、成長を感じられるようになればうれしいなという願いをもって、本実践事例集を作成しました。各校の優れた実践を参考することによって、先生方の更なる授業力等の向上につなげていただきたく思います。

ぜひ、本実践事例集を活用していただき、各校で特別支援教育について、すべての先生方で話し合うきっかけにさせていただきたいと考えております。

最後になりますが、本実践事例集の作成にあたり、広島県立三原特別支援学校長様をはじめ、作成に協力してくださった関係者の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

三原市教育委員会  
学校教育課  
教育指導係  
係長 荒木 美花

令和3年3月作成 特別支援教育実践事例集

編集 三原市教育委員会 学校教育課 柏原 永知  
〒723-8601 広島県三原市港町三丁目5番1号  
TEL (0848) 67-6155

